

# 中津城下町遺跡37次調査

大分県中津市殿町における児童館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2021

中津市教育委員会



## 序

大分県の最北部に位置する中津市は、国指定名勝耶馬溪など緑豊かな自然や城下町の香りを色濃く残す、自然と文化の町として知られています。また、近年は自動車関連会社などの進出・稼働により工業の町としての新たな側面も見せ始めています。

一方、経済活動の発展・促進に付随した開発事業は、埋蔵文化財へ影響を与えることがあります。令和2年度はこうした開発事業にともなう試掘・確認調査が、東九州道などへのアクセス道路整備及び市街地周辺の宅地化などにより、前年度に引き続き増加傾向にあります。埋蔵文化財を取り巻く環境は厳しいところではありますが、文化財は現代に生きる我々が責任をもって未来へ伝えていかなくてはなりません。

本書はこうした開発の中で、中津市殿町における児童館建設に先立ち、中津市教育委員会が実施した中津城下町遺跡37次調査の発掘調査報告書です。調査により江戸時代以降の城下町や武家屋敷に関連する施設が確認され、当地域の歴史を考えるうえで貴重な資料となりました。

本書が歴史教育や学術研究資料としてはもとより、埋蔵文化財の保護やその理解への一助となりましたら幸いです。

最後に、発掘調査から報告書刊行に至るまでご協力を賜りました関係各位、並びに調査に従事してくださった方々に対し、深甚から感謝申し上げます。

令和3年3月31日

中津市教育委員会  
教育長 栗田 英代

## 例 言

1. 本書は、中津市立児童館建設に伴い、大分県中津市殿町 1380 番 1 で平成 29 年度に実施した、中津城下町遺跡 37 次調査の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 調査は、平成 30 年 1 月 22 日から中津市教育委員会が実施した。
3. 本書に掲載した遺構の略称は、建物跡を SB、井戸跡を SE、土坑を SK、溝状遺構を SD、不整形土坑を SX、ピットを SP と表記した。
4. 遺構の実測図作成及び写真撮影は、主として調査担当者の浦井直幸・丸山利枝・衛藤美紀・末永弥義のほか、宮津しのぶ・村上由美子が行った。
5. 出土遺物の整理作業は、安倍方恵・粟田真弥・衛藤京子・高榎裕美・土橋厚子が担当した。
6. 出土遺物の実測・トレース・写真撮影は、安倍・岩男純子・衛藤京子・吉上かおり・木村風里・久原彩・高榎・末永が行った。
7. 本書で使用した座標は、世界測地系第 II 座標系による。
8. 本書に掲載した中津城下町遺跡周辺主要遺跡等分布図は、国土地理院発行の 1/50,000 「中津」・「宇佐」を改変したものである。
9. 今回の調査で出土した遺物及び検出した遺構の図面・写真等の記録は、中津市教育委員会に保管している。
10. 本書の執筆・編集は末永が行った。

## 本文目次

第 1 章 調査の経過と組織	1
第 1 節 調査の経過	1
第 2 節 調査の組織	1
第 2 章 遺跡の地理的・歴史的環境	3
第 1 節 地理的環境	3
第 2 節 歴史的環境	3
第 3 章 調査の方法と成果	6
1 建物跡	7
2 井戸跡	9
3 土坑	11
4 溝状遺構	76
5 その他の遺構	78
第 4 章 調査のまとめ	108

## 挿図目次

第 1 図 中津城下町遺跡周辺主要遺跡等分布図 (縮尺 1/50,000)	4
第 2 図 中津城下町遺跡 37 次調査地位置図 (縮尺 1/5,000)	5
第 3 図 中津城下町遺跡 37 次調査全体図 (縮尺 1/200)	6
第 4 図 建物跡実測図 1 (縮尺 1/50)	7
第 5 図 建物跡実測図 2 (縮尺 1/50)	8



第6図	井戸跡実測図 (縮尺 1/30)	9
第7図	2号井戸跡出土遺物実測図1 (縮尺 1/3)	10
第8図	2号井戸跡出土遺物実測図2 (縮尺 1/3・1/4)	11
第9図	土坑実測図1 (縮尺 1/40)	13
第10図	1号・2号・3号土坑出土遺物実測図 (縮尺 1/3)	14
第11図	3号土坑出土遺物実測図1 (縮尺 1/3)	15
第12図	3号土坑出土遺物実測図2 (縮尺 1/3)	16
第13図	3号土坑出土遺物実測図3 (縮尺 1/3)	17
第14図	3号土坑出土遺物実測図4 (縮尺 1/3)	18
第15図	3号土坑及び3号・4号土坑出土遺物実測図 (縮尺 1/3)	20
第16図	3号・4号土坑出土遺物実測図 (縮尺 1/3)	21
第17図	3号・4号土坑及び4号土坑出土遺物実測図 (縮尺 1/3)	23
第18図	4号土坑出土遺物実測図1 (縮尺 1/3)	24
第19図	4号土坑出土遺物実測図2 (縮尺 1/3)	25
第20図	4号土坑出土遺物実測図3 (縮尺 1/3)	26
第21図	4号土坑出土遺物実測図4 (縮尺 1/2・1/3・1/4)	27
第22図	5号・6号・7号・8号土坑出土遺物実測図 (縮尺 1/2・1/3)	29
第23図	土坑実測図2 (縮尺 1/40)	31
第24図	9号・10号・11号・12号土坑出土遺物実測図 (縮尺 1/3)	32
第25図	12号・13号・14号土坑出土遺物実測図 (縮尺 1/3)	33
第26図	14号・15号土坑出土遺物実測図 (縮尺 1/3)	35
第27図	15号・16号土坑出土遺物実測図 (縮尺 1/3)	36
第28図	16号・17号・18号土坑出土遺物実測図 (縮尺 1/2・1/3)	38
第29図	土坑実測図3 (縮尺 1/40)	39
第30図	18号土坑出土遺物実測図 (縮尺 1/3)	40
第31図	18号・19号・20号・21号土坑出土遺物実測図 (縮尺 1/3)	41
第32図	21号土坑出土遺物実測図 (縮尺 1/2・1/3)	43
第33図	22号・23号・24号土坑出土遺物実測図 (縮尺 1/3)	45
第34図	24号土坑出土遺物実測図1 (縮尺 1/3)	47
第35図	24号土坑出土遺物実測図2 (縮尺 1/3)	48
第36図	24号土坑出土遺物実測図3 (縮尺 1/3)	49
第37図	24号土坑出土遺物実測図4 (縮尺 1/3)	50
第38図	24号土坑出土遺物実測図5 (縮尺 1/3)	51
第39図	24号土坑出土遺物実測図6 (縮尺 1/3)	52
第40図	24号土坑出土遺物実測図7 (縮尺 1/3)	53
第41図	土坑実測図4 (縮尺 1/40)	56
第42図	24号・25号・26号土坑出土遺物実測図 (縮尺 1/3)	57
第43図	26号・27号土坑出土遺物実測図 (縮尺 1/2・1/3)	58
第44図	28号土坑・29号土坑上層・29号土坑中層出土遺物実測図 (縮尺 1/3)	59
第45図	29号土坑中層・29号土坑下層出土遺物実測図 (縮尺 1/3・1/4)	62
第46図	30号・31号・32号・33号・34号・35号土坑出土遺物実測図 (縮尺 1/3)	63

第 47 図	土坑実測図 5 (縮尺 1/40) .....	64
第 48 図	36 号・37 号・38 号・39 号・40 号・41 号・42 号土坑出土遺物実測図 (縮尺 1/2・1/3) .....	67
第 49 図	土坑実測図 6 (縮尺 1/40) .....	68
第 50 図	43 号・45 号・46 号・47 号土坑出土遺物実測図 (縮尺 1/3) .....	69
第 51 図	土坑実測図 7 (縮尺 1/40) .....	70
第 52 図	47 号土坑出土遺物実測図 (縮尺 1/3) .....	72
第 53 図	47 号・49 号土坑出土遺物実測図 (縮尺 1/3) .....	73
第 54 図	50 号・51 号土坑出土遺物実測図 (縮尺 1/3) .....	75
第 55 図	51 号土坑出土遺物実測図 (縮尺 1/3) .....	76
第 56 図	溝状遺構実測図 1 (縮尺 1/50) .....	77
第 57 図	溝状遺構実測図 2 (縮尺 1/50) .....	79
第 58 図	3 号・4 号・5 号溝状遺構出土遺物実測図 (縮尺 1/2・1/3・1/4) .....	80
第 59 図	1 号不整形土坑出土遺物実測図 (縮尺 1/2・1/3) .....	81
第 60 図	2 号・3 号不整形土坑、36 号・44 号・52 号・54 号ピット出土遺物実測図 (縮尺 1/2・1/3・1/8) .....	83
第 61 図	60 号・62 号・68 号・69 号・72 号・73 号・82 号ピット出土遺物実測図 (縮尺 1/2・1/3) .....	84
第 62 図	包含層出土遺物実測図 (縮尺 1/3) .....	85
第 63 図	表面採集遺物実測図 (縮尺 1/2・1/3) .....	86
第 64 図	幕末期の中津城下町絵図 .....	110

## 表目次

第 1 表	出土遺物観察表 .....	88
第 2 表	出土瓦観察表 .....	107

## 図版目次

図版 1	(1) 中津城下町遺跡 37 次調査地全景 (北から)	(2) 調査区全景 (南から)
図版 2	(1) 調査区全景 (北から)	(2) 調査区北部 (南東から)
	(3) 調査区北部 (東から)	
図版 3	(1) 調査区中央部 (東から)	(2) 調査区中央部 (東から)
	(3) 調査区中央部 (南東から)	(4) 調査区中央部 (東から)
	(5) 調査区南部 (南東から)	(6) 調査区南部 (西から)
図版 4	(1) 調査区北端部 (東から)	(2) 調査区北端部 (西から)
	(3) 2 号建物跡 (北東から)	(4) 2 号建物跡集石 (東から)
	(5) 1 号井戸跡 (東から)	(6) 2 号井戸跡 (東から)
	(7) 2 号井戸跡 (南から)	
図版 5	(1) 2 号井戸跡出土遺物	(2) 1 号土坑 (南から)
	(3) 2 号土坑 (南から)	(4) 3 号・4 号土坑 (南西から)
	(5) 3 号土坑 (南西から)	(6) 4 号土坑 (東から)

- (7) 4号土坑木製品出土状況 (西から)
- 図版6 (1) 3号土坑出土遺物1 (2) 3号土坑出土遺物2  
 (3) 3号土坑出土遺物3 (4) 3号土坑出土遺物4  
 (5) 3号土坑出土遺物5 (6) 3号・4号土坑出土遺物  
 (7) 4号土坑出土遺物1 (8) 4号土坑出土遺物2
- 図版7 (1) 4号土坑出土遺物3 (2) 4号土坑出土遺物4  
 (3) 4号土坑出土遺物5 (4) 4号土坑出土遺物6  
 (5) 5号・6号土坑出土遺物 (6) 8号・9号土坑 (東から)  
 (7) 9号土坑 (南から) (8) 10号土坑 (西から)  
 (9) 11号・12号土坑 (北西から)
- 図版8 (1) 15号土坑 (南から) (2) 16号土坑 (北から)  
 (3) 16号土坑土層 (4) 17号土坑 (東から)  
 (5) 21・22号土坑 (西から) (6) 18号土坑 (西から)  
 (7) 18号土坑土層 (8) 24号土坑 (北西から)  
 (9) 26号・27号・28号土坑 (南から)
- 図版9 (1) 9号・12号・13号土坑出土遺物 (2) 14号・15号土坑出土遺物  
 (3) 16号土坑出土遺物 (4) 18号土坑出土遺物  
 (5) 20号・21号土坑出土遺物 (6) 21号土坑出土遺物  
 (7) 22号土坑出土遺物 (8) 24号土坑出土遺物1
- 図版10 (1) 24号土坑出土遺物2 (2) 24号土坑出土遺物3  
 (3) 24号土坑出土遺物4 (4) 24号土坑出土遺物5  
 (5) 24号土坑出土遺物6 (6) 25号・26号土坑出土遺物  
 (7) 27号土坑出土遺物 (8) 28号土坑出土遺物
- 図版11 (1) 31号土坑 (西から) (2) 32号土坑 (南から)  
 (3) 33号土坑 (東から) (4) 34号土坑 (東から)  
 (5) 35号土坑 (北から) (6) 37号土坑 (北から)  
 (7) 38号・39号土坑 (東から) (8) 40号土坑 (北から)
- 図版12 (1) 41号土坑・1号不整形土坑 (南から) (2) 43号土坑 (南東から)  
 (3) 45号土坑 (北東から) (4) 45号土坑獣骨出土状況  
 (5) 47号土坑 (北から) (6) 50号土坑 (南東から)  
 (7) 51号土坑 (北東から)
- 図版13 (1) 29号土坑上層・中層・下層出土遺物 (2) 29号土坑下層出土遺物  
 (3) 29号土坑中層出土遺物 (4) 32号・34号土坑出土遺物  
 (5) 35号・36号・37号土坑出土遺物  
 (6) 38号・41号・42号・45号土坑出土遺物  
 (7) 46号・47号土坑出土遺物 (8) 47号土坑出土遺物1
- 図版14 (1) 47号土坑出土遺物2 (2) 47号土坑出土遺物3  
 (3) 49号・50号・51号土坑出土遺物 (4) 5号溝状遺構出土遺物  
 (5) 1号・2号・3号・4号溝状遺構 (西から) (6) 1号溝状遺構 (北から)  
 (7) 1号・2号・3号・4号溝状遺構 (東から) (8) 5号溝状遺構 (東から)

- 図版 15 (1) 5号溝状遺構(西から) (2) 5号溝状遺構東端土層  
(3) 5号溝状遺構西部土層 (4) 5号溝状遺構遺物出土状況  
(5) 5号溝状遺構編み籠出土状況
- 図版 16 (1) 3号不整形土坑(西から) (2) 1号不整形土坑出土遺物  
(3) 3号不整形土坑出土遺物  
(4) 2号・3号不整形土坑、52号・73号ピット出土遺物  
(5) 包含層出土遺物 (6) 表面採集遺物1  
(7) 表面採集遺物2

# 第1章 調査の経過と組織

## 第1節 調査の経過

中津城下町遺跡は山国川河口付近の東岸に位置し、中津城を中心にして北東－南西方向の長さ約2.0km、北西－南東方向の幅0.7kmに展開する城下町で、現在もほぼ全域が市街地として継続しており住宅が密集している。今回の37次調査地は城下町の中央部付近で、中津城の南方約0.8kmに位置する。

当該地において市の公共施設である童心会館が改築されることになり、平成29年10月23日に文化財保護法第94条第1項の通知があった。敷地内にあった旧童心会館の建物が撤去されたのち、中津市教育委員会で平成29年11月13日・28日に確認調査を実施した。調査は建物建築予定地を対象とし、南北方向に4本のトレンチを設定して行った。調査の結果、北部は旧建物の基礎により部分的に削平されていたが、中央部から南部にかけて土坑6基・溝状遺構2条などの複数の遺構が確認され、近世陶磁器を中心とした遺物が出土した。

本調査は新築する建物の範囲全体を対象とし、平成30年1月22日から開始した。調査区は南北41.8m・東西9.5mの長方形の形状を呈し、表土や新しい時期の整地層は重機により剥土した。遺構検出面は地表下約0.9m前後の明黄灰色弱粘質土層とし、以後は人力により掘削を進めた。遺構は調査区全体にわたって密に分布したため、切り合い関係の検出は不確実な箇所があった。また、調査期間中は降雨が多く、深い遺構では湧水もあり、排水作業に時間を要した。加えて排土置き場が狭小であった点なども作業の進行に影響した。現地における作業は埋戻しも含めて平成30年3月29日に終了した。

検出した遺構は、縮尺1/100の遺構配置図と、1/20の全体実測図、及び一部個別の1/20実測図により記録した。また、写真はデジタルカメラにより撮影をして、記録保存した。

今回の中津城下町遺跡の調査面積は350㎡である。

現地調査終了後、出土遺物の整理作業ならびに調査報告書の刊行作業は平成31年度から令和2年度にかけて実施した。

## 第2節 調査の組織

中津城下町遺跡37次の発掘調査及び調査報告書刊行にともなう事業執行の組織は次のとおりである。

発掘調査（平成29年度）

調査主体 中津市教育委員会

教育長	廣畑 功
調査事務 教育次長	白木原 忠
社会教育課長	高尾 良香
社会教育課文化財室長	高崎 章子
社会教育課管理・文化振興係主幹	大森 健・磯貝 奏
社会教育課管理・文化振興係係員	湊 恵・陽 麻里奈・渡邊奈津子
社会教育課文化財室文化財係主幹	花崎 徹
調査担当 社会教育課文化財室文化財係嘱託	末水 弥義

調査報告書刊行（令和2年度）

調査主体	中津市教育委員会		
	教育長	栗田	英代
調査事務	教育次長	大下	洋志
	社会教育課長	岩丸	祐子
	社会教育課歴史博物館長	高崎	章子
	社会教育課管理・文化振興係主幹	田中	茂・河野さくら
	社会教育課管理・文化振興係係員	速水	誠・藤原 梨恵
	社会教育課歴史博物館博物館・文化財係主幹	花崎	徹
	社会教育課歴史博物館博物館・文化財係副主任研究員	浦井	直幸
調査担当	社会教育課歴史博物館博物館・文化財係会計年度任用職員	末永	弥義

平成29年度の発掘調査に従事した作業員は次のとおりである。

安倍 方恵・今木 功一・岩男 純子・衛藤 京子・小川 禮子・奥田 誠・奥中 廣雪・  
 加来 晴美・金崎ミチ子・川野 和夫・久原 彩・後藤 哲・末廣 洋子・祐成 本文・  
 田中 政恵・鶴岡 克美・中上 好孝・長倉 朱見・中坂真基子・本田 廣和・松隈 忍・  
 松村たか子・宮津しのぶ・村上由美子・山本 秀一

また、令和2年度の整理作業及び報告書作成業務に従事した作業員は次のとおりである。

安倍 方恵・岩男 純子・栗田 真弥・衛藤 京子・吉上かおり・木村 風里・久原 彩・  
 高榎 裕美・土橋 厚子

## 第2章 遺跡の地理的・歴史的環境

### 第1節 地理的環境

大分県中津市は県の北部に位置し、面積は491km<sup>2</sup>に及ぶ。四至は北方が瀬戸内海西端の周防灘に開け、西が福岡県に、東が宇佐市に、南は玖珠町と日田市に接している。市の西部を北流する一級河川山国川は英彦山（標高約1,200 m）を源とし、下流域では福岡県との県境をなすとともに広い沖積平野「沖代平野」を形成する。上中流域は山稜が複雑に延び、その中央部を占める国指定の名勝耶馬溪は流域約50kmに展開する。耶馬溪は頼山陽の命名によるもので、一帯は耶馬日田英彦山国定公園の一部となっている。また、市の東部には犬丸川が北東に流れるが、沖代平野と犬丸川の間には標高10 m～30 m程度の洪積台地「下毛原台地」が広がっている。

### 第2節 歴史的環境

市内には旧石器時代以降の遺跡が数多く分布し、その一部は発掘調査されている（第1図参照）。

**旧石器時代** 旧石器時代の遺跡はまだ少ないが、諸田南遺跡（44）で尖頭器やナイフ形石器が出土している他に、才木遺跡（35）・法垣遺跡（19）などでも石器が出土している。

**縄文時代** 縄文時代になると、上畑成遺跡（43）で早期の無文土器が出土し、早期末から前期の黒水遺跡（18）では陥し穴が発見されている。後期・晩期に属する植野貝塚では牙製垂飾具・貝輪などの装身具や魚類・動物の骨などが出土し、高畑遺跡では土偶も発見されている。集落跡では古田遺跡が調査されているが、法垣遺跡は竅穴住居跡以外にも掘立柱建物跡が検出された重要な遺跡である。

**弥生時代** 弥生時代になると山国川や犬丸川流域の沖積平野で水稻耕作が拡大していったと考えられる。前期後葉から中期初頭の上ノ原平原遺跡（13）や諸田遺跡（45）で貯蔵穴が発掘されている。中期では福島遺跡（25）で住居跡とともに二列埋葬の土壇墓群が確認されている。また、森山遺跡（28）では前期末から後期初頭の集落全域が把握されている。

**古墳時代** 古墳時代では集落や生産遺跡・墳墓などの各種の遺跡が確認されている。集落関係では後期に属する中須遺跡・十前垣遺跡・諸田遺跡・定留遺跡（47）などが調査されている。これらのうち十前垣遺跡では移動式カマドが出土し、諸田遺跡ではし字カマドを有する住居跡や輪の羽口が発見され、渡来人の系譜に属する人々の存在が推測されている。須臾器を生産した城山窯跡群（36）や草場窯跡（37）・踊ヶ迫窯跡（38）・ホヤ池窯跡（39）・大谷窯跡（40）などからなる野依伊藤田窯跡群は犬丸川中流の丘陵地帯に位置し、一部は奈良時代まで継続している。古墳では下毛原台地北部の亀山古墳（58）以外の多くの墳墓は台地の南西部に営まれている。5世紀中ごろには山国川に面する勘助野地遺跡（12）で方形周溝墓が築造され、5世紀後半から7世紀前半には上ノ原横穴墓群（11）が造営される。また、三保地域には後期になると岩井崎横穴墓群（29）・城山古墳群（34）・城山横穴墓群（33）などが築造される。7世紀から9世紀の相原山首遺跡では方墳が作られている。

**白鳳～平安時代** 7世紀末の白鳳期に創建された相原庵寺跡（6）は沖代平野の南端部に位置するが、その北方約500 mを隔てて西北西―東南東方向に官道「勅使街道」が整備される。沖代地区糸里跡（4）はこの官道を南限として沖代平野の広範囲に施行されている。古代の下毛郡衙の正倉跡である長者屋敷官衙遺跡（20）も8世紀後半に官道の南側に建設されている。8世紀後半を中心とする時期である。集落では三口遺跡（60）で10世紀代の緑輪陶器や墨書土器が出土している。



- |              |              |             |             |              |
|--------------|--------------|-------------|-------------|--------------|
| 1. 中津城跡      | 13. 上ノ原平原遺跡  | 25. 福島遺跡    | 37. 草場室跡    | 49. 相間貝塚     |
| 2. 中津城下町遺跡   | 14. 大池南遺跡    | 26. 福島地下式横穴 | 38. 跡ヶ迫室跡   | 50. 定留鬼塚遺跡   |
| 3. 豊田小学校校庭遺跡 | 15. 佐知久保畑遺跡  | 27. 前田遺跡    | 39. 赤ヶ池室跡   | 51. 是能遺跡     |
| 4. 沖代地区条里跡   | 16. 佐知遺跡     | 28. 森山遺跡    | 40. 大谷室跡    | 52. 田尻大迫遺跡   |
| 5. 高畑遺跡      | 17. 加米居屋敷遺跡  | 29. 岩井崎横穴墓群 | 41. 野依遺跡    | 53. 舞手橋東段上遺跡 |
| 6. 相原庵寺      | 18. 黒水遺跡     | 30. 犬丸川流域遺跡 | 42. 野依地区条里跡 | 54. 是雨遺跡     |
| 7. 相原山首遺跡    | 19. 法垣遺跡     | 31. 洞ノ上室跡   | 43. 上畑遺跡    | 55. 全徳遺跡     |
| 8. 鶴市神社裏山古墳  | 20. 長者屋敷官衙遺跡 | 32. 安平遺跡    | 44. 諸田南遺跡   | 56. ガラスノ遺跡   |
| 9. 坂手隈城跡     | 21. ボウガキ遺跡   | 33. 城山横穴墓群  | 45. 諸田遺跡    | 57. 合馬遺跡     |
| 10. 弊領邸古墳    | 22. 大悟法地区条里跡 | 34. 城山古墳群   | 46. 天貝川遺跡   | 58. 亀山古墳     |
| 11. 上ノ原横穴墓群  | 23. 原遺跡      | 35. 才木遺跡    | 47. 定留遺跡    | 59. 東浜遺跡     |
| 12. 助助野地遺跡   | 24. 田丸城跡     | 36. 城山室跡群   | 48. 定留貝塚    | 60. 三口遺跡     |

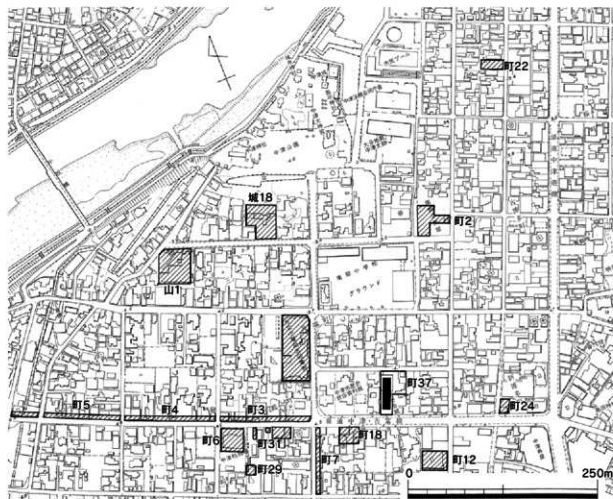
第1図 中津城下町遺跡周辺主要遺跡等分布図 (縮尺1/50,000)



**中世** 中世の遺跡としては植野古城遺跡・諸田遺跡・中尾城跡・犬丸城跡などがあるが、諸田遺跡では堀に囲まれた居館跡が調査され、中尾城跡では土塁が現存する。犬丸城跡は犬丸氏の居城で、黒田官兵衛の豊前入国に従わず一揆に加わり、黒田氏に攻め落とされる。16世紀末には黒田氏が入封して中津城(1)が築城されるが、石垣に高度な構築技法が採用された九州最古の近世城郭とされている。**近世以降** 1600年関ヶ原の合戦の後、黒田氏に替わり細川氏が入部し、城と城下町(2)が整備・拡張される。城下の造営は小笠原氏が入部する1632年に完成し、その後1717年に奥平氏が入部する。

#### 中津城下町遺跡 37次調査地の周辺遺跡

中津城下町遺跡ではこれまで公共施設・病院・福祉施設・保育園・店舗・集合住宅・個人住宅・道路関係など各種の開発行為に先立ち発掘調査を実施してきている(第2図)。2次調査は公民館建設に伴う調査で、中津城の石垣や石列等の遺構を確認している。3次～5次調査は県道の拡幅・改良工事に伴うもので、5,072㎡に達する面積を調査し、柱穴・井戸・土坑・溝等の多数の遺構と近世陶磁器を中心とした多量の遺物を出土した。7次調査は市道拡幅に伴う調査で、城下町の江戸時代の御水道を確認している。このような調査により中津城や城下町の構造、そこに生活する人々の実態が次第に明らかになってきている。



第2図 中津城下町遺跡37次調査地位置図(縮尺1/5,000)

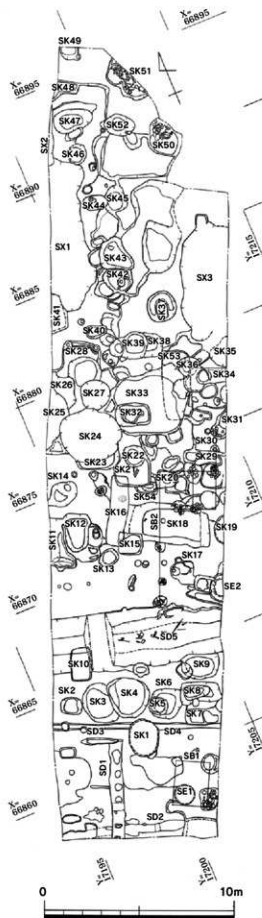
(「町」は中津城下町遺跡、「城」は中津城跡、「山」はおかこい山の電柱)

### 第3章 調査の方法と成果

中津城下町遺跡37次調査地は中津市殿町1380番地1に所在する。当遺跡は山国川が瀬戸内海西端の周防灘に注ぐ河口の沖積地に立地するが、先述したとおり1588(天正16)年の黒田勘兵衛孝高の入城以降に本格的に城下町として整備された。その後も現在に至るまで市街地として継続しており、住宅の建て替えなどが繰り返されてきた。さらに、城下町の各所で実施してきた発掘調査で少量ではあるが須恵器や土師器が出土することから、古墳時代以降の遺跡が分布することも想定される。

今回の調査地は城下町遺跡の中央部付近で、中津城中心部から南側に延びる南北道路を現存の堀から約250m南進したのち、東方に約100m入った一画に位置する。周辺は東西・南北方向の道路によって整然と区画されている。現在の標高は4~5mほどであるが、これは江戸時代以降約400年間の宅地造成によってかさ上げされた結果によるものである。城下町整備の初期は現在よりやや低かったと考えられ、今回の発掘調査時の遺構検出面も標高4m弱である。

今回の調査区は施設整備予定地の西側に建築される建物部分に設定し、南北41.8m・東西9.5mの長方形の平面形を呈する(第3図)。基本的な層序は現地表面から下位に向かって約50cmが現代造成土、さらに40cmが近代~現代の造成土であり、その下が今回遺構検出面とした基盤層(明黄灰色弱粘質土)となる(第57図参照)。ただし、近代~現代の造成土中にはいくつかの土層の変化がみられることから、この土層中に整地層を検出することも可能であったかもしれない。遺構の分布状況は全体的に非常に密であり、特に中央部付近は切り合いが激しく、基盤層がわずかにしか確認できないほど密集していた。調査で確認した遺構のうち、番号を付した主な遺構は建物跡2棟・井戸2基・土坑54基・溝状遺構5条などであるが、これら以外にも不整形の土坑状の遺構や多数のピットが検出された。



第3図 中津城下町遺跡37次調査全体図(縮尺1/200)

## 1 建物跡

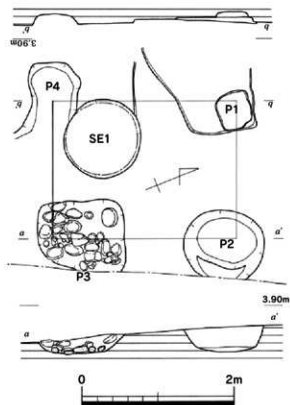
今回の調査で建物跡とした遺構は、礎石または柱の根石を据えるためのピットや、根石の集石の配置が直線的な規則性をもつと判断した遺構である。このような根石の集石を伴う遺構は調査区の中央部から南部にかけて分布しているが、それぞれの集石のグルーピングは恣意的であり、本来の建物の正確な復元とはなっていないことも危惧される。

### 1号建物跡 (第4図)

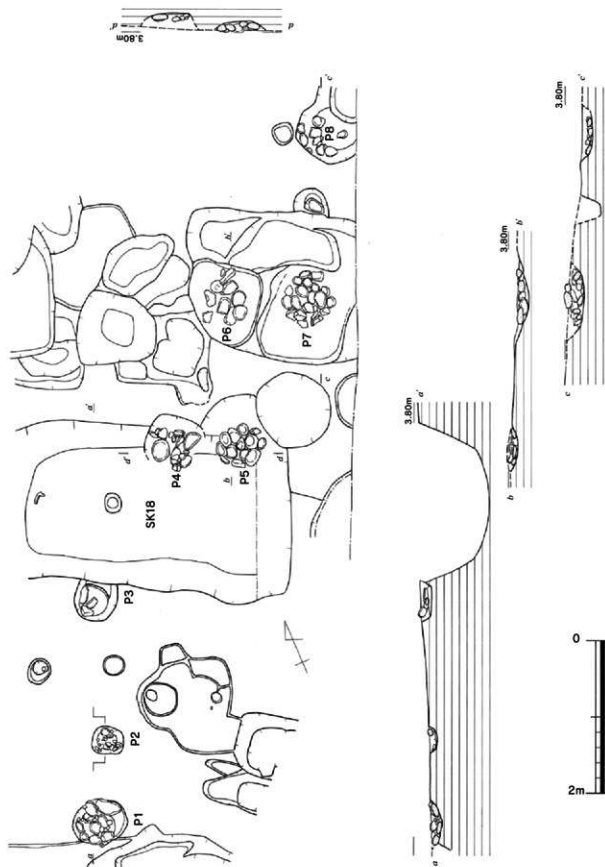
1号建物跡は調査区南端部に位置し、遺構検出面の標高は約3.6mである。検出した遺構は方1間に配置された、一部集石を伴うピット4基からなる。規模は南北2.40m・東西1.80mと南北に長いが、調査区外の東方に延びる可能性がある。各ピットの平面形はP2が楕円形を呈するが、他は基本的に方形である。大きさは最小のP1で長さ50cm、最大のP3では115cmをはかる。深さは最も深いP2で30cmである。集石はP2・P3で検出したが、P2については図化していない。P3で検出した集石は5～25cmの大きさの円礫である。南北方向を主軸と想定すると建物の方位はN-21°-Eである。なお、この建物跡内の南西隅からは1号井戸が確認されたが、1号建物跡との時間関係は不明である。各ピット内からは遺物が出土していない。

### 2号建物跡 (第5図)

2号建物跡は調査区の中央部付近に位置する集石を伴うピット群からなり、一部のピットは大型土坑SK18を切る。遺構検出面の標高は約3.8mである。検出した遺構は8基のピットからなり、各ピットの配置はP1・P2・P3が南北に並び、P3から北方に2.0m隔てた地点で東方に屈折しP4・P5と続くが、この屈折点はSK18と切り合っているためピットを検出できなかった可能性がある。P5のさらに北方にP6・P7が東西方向に並び、P8はP7の北方に配置している。全体として南北の長さが9.12mに達する。各ピットの間隔はP1-P2が1.12m、P2-P3が1.88m、P4-P5が0.90m、P5-P6が1.87m、P6-P7が1.12m、P7-P8が2.25mである。これらのピットの平面形は隅丸方形ないし円形であるが、P5・P7は他の遺構と切り合い、平面形は不明である。大きさは最小のP2で長さ42cm、最大のP6は長さ105cmをはかる。深さは遺構検出面から10～20cmである。ピット内に配置された集石は円礫で、最大で長さ35cmであるが、径15～20cmのものが多い。南北方向を主軸と仮定すると建物の方位はN-24°-Eである。ただし、検出したこれらのピット群は時期が不明であり、単一ではなく複数の建物にともなう遺構の可能性もある。遺物はP2から陶器・青磁・瓦質土器、P3から陶胎染付・瓦質土器・土師質土器・土師器の皿などの小片が少量出土しているが、図示できるものはない。



第4図 建物跡実測図1 (縮尺1/50)



第5図 建物跡実測図2 (縮尺1/50)

## 2 井戸跡

井戸跡は調査区の南側で2基が確認された。

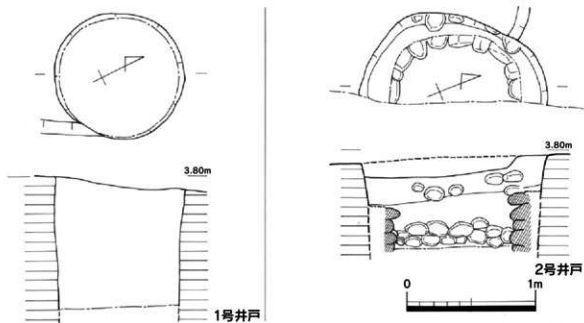
### 1号井戸跡 (第6図)

1号井戸跡は調査区南端部に位置し、遺構検出面の標高は約3.8mである。遺構は壁面の石積みや木枠などを伴わない素掘りの井戸である。平面形はほぼ円形で、大きさは検出面で直径1.08mである。壁面はほぼ垂直で、深さは1.05mまで掘削したが底面には達していない。埋土は暗灰色弱砂質土に基盤層由来のブロック土を含むことから、人為的に埋め戻されたものと考えられる。

遺物は出土していない。

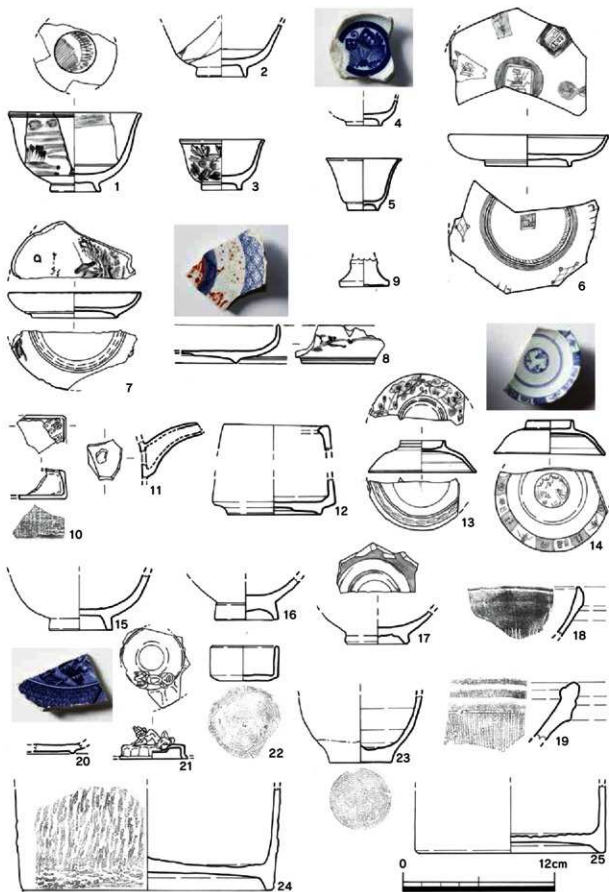
### 2号井戸跡 (第6図)

2号井戸跡は調査区中央よりやや南側に位置し、遺構検出面の標高は約3.8mである。遺構は東半が調査区外となっている。平面形は基本的に円形と考えられ、大きさは検出面で直径1.49mである。壁面は検出面から深さ0.30mまでは一部に円礫が残存するが、新しい時期の攪乱を受けている。それより深い部分では全面に長さ20cm前後のやや扁平な円礫が積み上げられている。壁面はほぼ垂直で、深さは0.72mまで掘削したが底面には達していない。

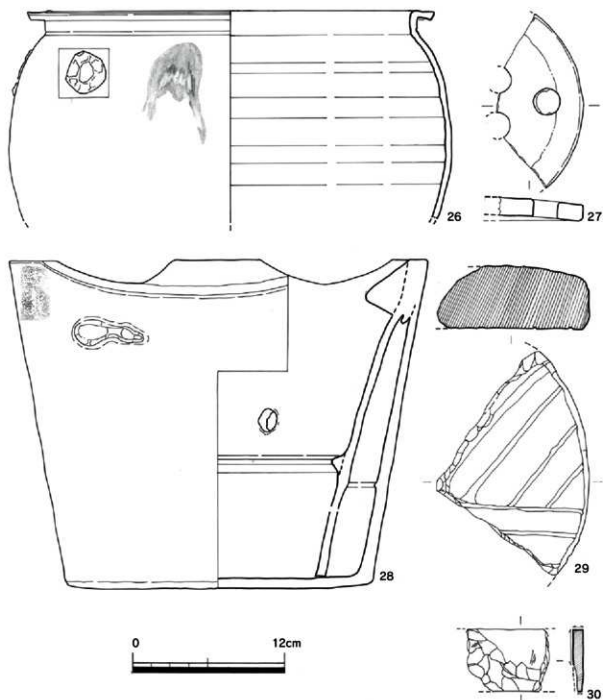


第6図 井戸跡実測図 (縮尺1/30)

遺物は埋土中から陶器の碗・播鉢・合子・德利・甕、磁器の碗・小杯・皿・蓋・猪口・急須・火入れ・仏飯器・水滴、瓦質土器の火鉢、土師質土器の火鉢・焔炉・焔炉の火皿・甕などの土器類が多量に出土し、他に石臼・砥石などの石製品、瓦類、煉瓦も出土している (第7図・第8図)。1～14は磁器で、1は外面や見込にススキの丸文を描く端反碗である。2は見込に目跡を残す碗である。3・4は小杯で、4の見込の文様は型紙摺りか。5は白磁の猪口で、6～8は皿である。7の内面には塔の風景が描かれ、8は1710～1770年代の肥前の色絵である。9は仏飯器、10は水滴で立方体の形態を呈し、底面に布目痕を残す。11は白磁の急須、12は青磁の火入れである。13・14は染付の蓋で、13の内面には鎖つなぎ文、14の内面には「福」と「壽」の文字が交互にめぐらされており、ともに19世紀前半のものか考えられる。15～20は陶器で、15は胎軸、16は灰軸、17は鉄軸を施す碗である。18・19は播鉢、19は備前系か。20は内面が型紙摺りの皿である。21は土師質土器の急須等の蓋と考えられ、カエルのつまみを付ける。外面に布目痕が残り、関西系である。22・23は陶器で、22が合子、23が德利か。



第7図 2号井戸跡出土遺物実測図1(縮尺1/3)



第8図 2号井戸跡出土遺物実測図2 (縮尺1/3、29は1/4)

24は瓦質土器の火鉢で、外面全体に回転印文を施す。25は土師質土器の火鉢、26は陶器の甕で18世紀後半の高取系か。27・28は土師質土器で、28が焜炉、27が火皿である。28の外面上位には瓢箪形の取手を貼り付け、「安○政」の刻印を施す。29は石臼、30は砥石である。

### 3 土坑

土坑として番号を付した遺構は調査区全体に広く分布し、その数は54基にのぼる。平面形は円形・楕円形・方形・長方形など多様で、大きさも1m程度のものから4mを超えるものまでである。他の遺構と切り合うものも多い。

### 1号土坑 (第9図)

1号土坑は調査区南部に位置し、4号溝状遺構を切る。遺構検出面の標高は約3.8mである。遺構の平面形は楕円形で、大きさは検出面で長径1.98m・短径1.55mである。壁面は垂直に近く立ち上がり、深さは0.48mまで掘削したが床面に達していない。内部にはコークス状の炭の粒が多量に堆積していた。遺構の用途は廃棄土坑と考えられ、比較的新しい時期の遺構と考えられる。

遺物は磁器の碗が少量出土している(第10図)。31は色絵の磁器で、筒型碗かと考えられる。

### 2号土坑 (第9図)

2号土坑は調査区南部の西側に位置し、遺構検出面の標高は約3.7mである。遺構の平面形は隅丸長方形で、大きさは検出面で長さ1.12m・幅0.86mである。壁面は上位に向かってやや開き気味で、深さは0.47mである。床面は東側の短辺に平坦面をもち、中央部は一段深くなっている。遺構の用途は不明である。主軸の方位はN-61°-Wである。

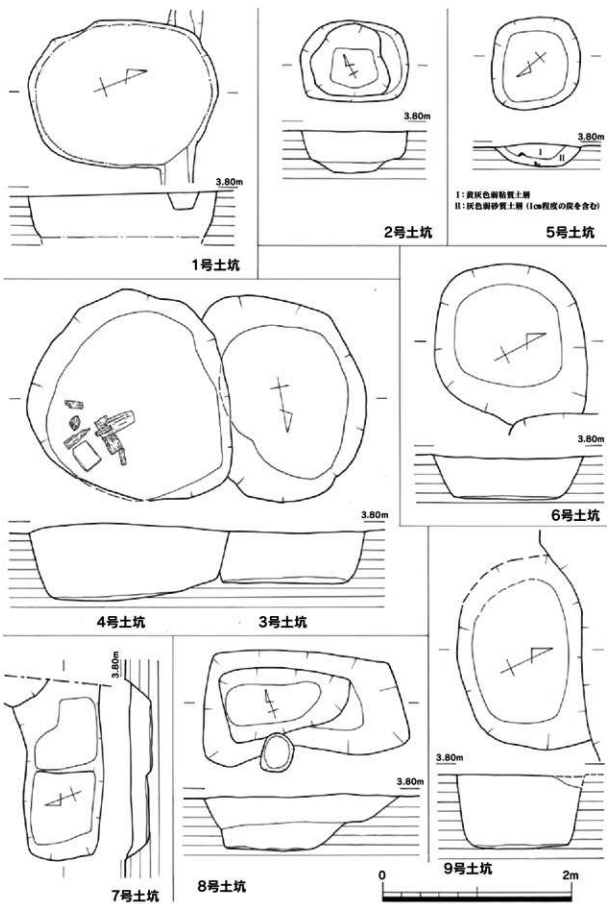
遺物は陶器の碗・播鉢・瓶、磁器の白磁碗・青磁、土師質土器、土師器の皿、平瓦などが中量出土している(第10図)。32・33は陶器の碗で、ともに藁灰釉を施す。

### 3号土坑 (第9図)

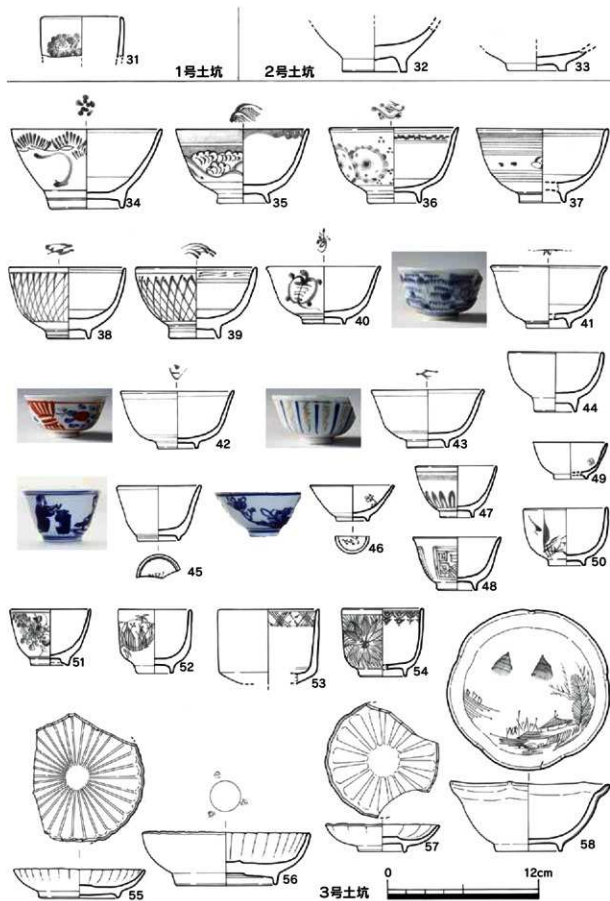
3号土坑は2号土坑の東側に隣接し、9号土坑に切られる。遺構検出面の標高は約3.7mである。遺構は平面形が楕円形で、大きさは検出面で長径2.30m、短径が1.67m以上である。壁面は床面から70°程度の角度で立ち上がり、深さは0.56mである。床面は水平な平坦面をなす。遺構の用途は廃棄土坑と考えられる。

遺物は陶器の碗・小坏・皿・蓋・鉢・播鉢・急須・土瓶・行平・片口・火入れ・灯明受け皿・徳利、磁器の碗・小坏・皿・蓋・紅皿・鉢・猪口・湯飲み・段重・急須・火入れ・仏飯器・灯明受け皿・戸車・ままごと道具、瓦器の火鉢、瓦質土器の焔炉・甕、土師質土器の蓋・灯明受け皿・焙烙・こね鉢・焔炉・焔炉の火皿、土師器の皿などの土器類のほか、土製品の人形、軒丸瓦・丸瓦・砥石・煙管・鉄釘・ガラス片・貝など非常に多量に出土している(第10図～第15図)。34～49・51～73・75～87は磁器である。これらのうち34～44は碗で、36・41が1820～1860年代の肥前の端反碗、39が1850～1860年代のくらわんか手である。42・43は色絵で、口径9cm前後と小振りである。45は猪口、46～49・51は小坏で、46の底面には「〇造」の文字が書かれ、49の内面にも小さい方形の銘がある。50は陶器の小坏である。52～54は湯飲みに近い器形であり、53は青磁染付で内面の口縁部近くに四方禪文をめぐらす肥前系の18世紀後半のものである。55～57は菊花状の型打の皿で、口縁に口錆を施す。56は見込に目跡を残し蛇ノ目凹型高台である。58は青磁染付の鉢で、口縁が5弁の輪花状を呈し、内面には家や山と海浜風景を描く。59～66も皿で、文様は見込に59が鶴、60が風景、61が巻物、63が双葉、64が梅花などがそれぞれ描かれている。口縁部は輪花状を呈するものが多く、蛇ノ目凹型高台のものも散見される。65は口径20cmを超える中型品で、胎土がやや不良で陶器の可能性もあるが、内面の風景画はのびのびと描かれている。66は平面形が変則的な五角形を呈する。67・68は紅皿で、67の外面には蛸唐草文の型打がある。69～75は蓋で、69～71は内面の口縁に雷文をめぐらし、70・71の見込には松竹梅円形の文様を描く。72は合子の蓋、73は瑠璃釉で香炉の蓋か。74は陶器の蓋である。75-76は細かい花唐草文を描く段重の蓋と身のセットである。77は色絵で、段重の身の可能性がある。78は79の急須の蓋と考えられ、内面に「六〇」の文字が書かれている。外面にはともに繊細な草花文が描かれ、19世紀代の関西系のものであろう。80は太鼓を模した火入れである。81～83は仏飯器で、81は白磁、82・83は蛸唐草文をめぐらす。84はままごと道具の急須かと考えられ、型打で底面に布目痕が残る。85～88は瓶で、86には鳥・笹・松な

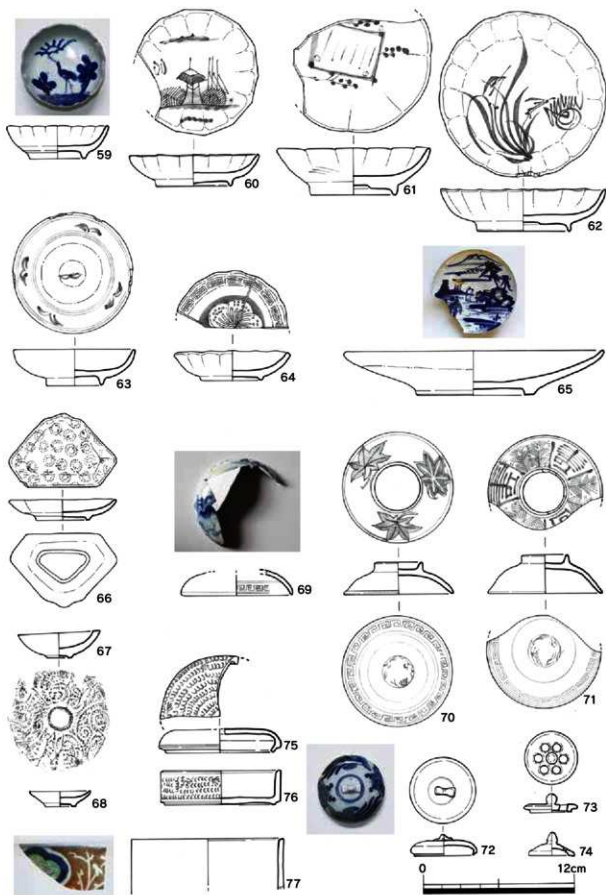




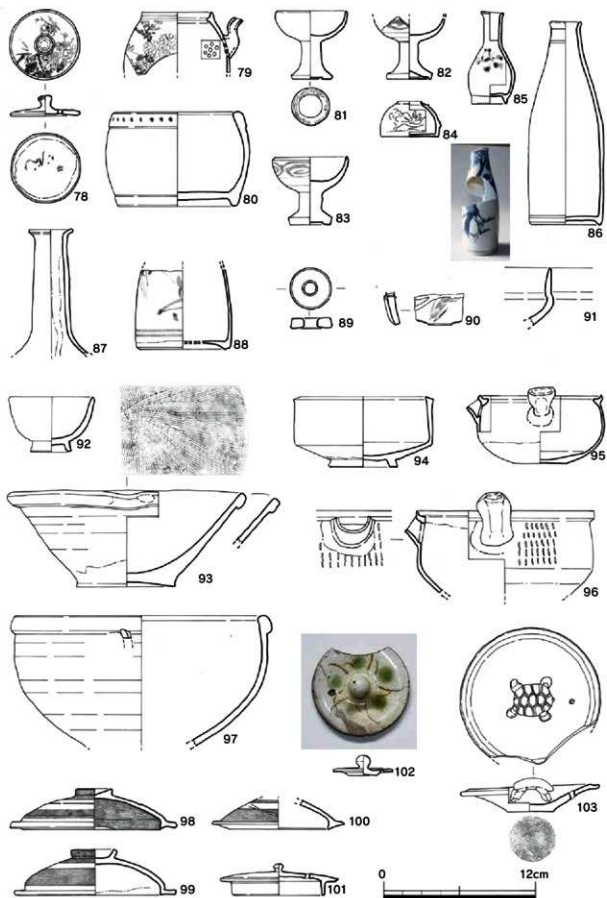
第9图 土坑实测图1 (縮尺1/40)



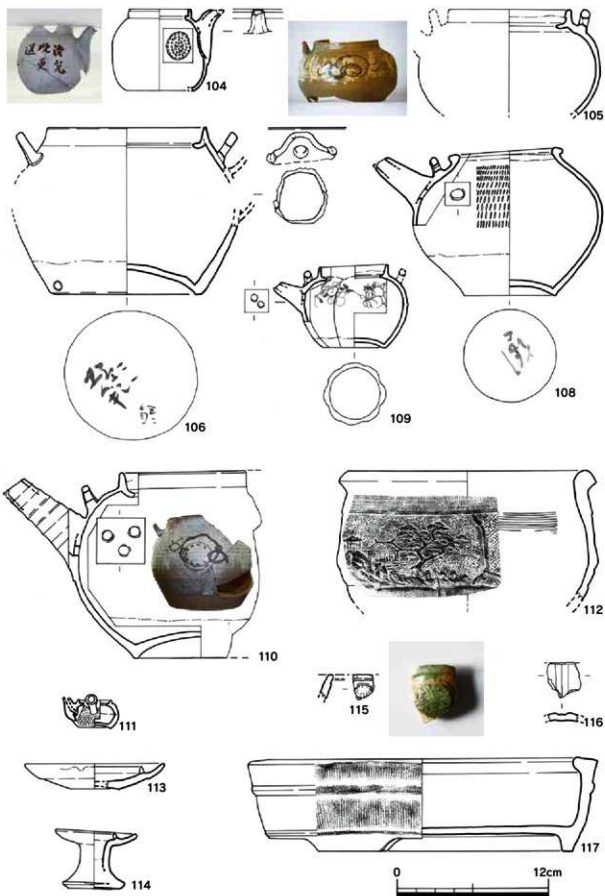
第10图 1号·2号·3号土坑出土遗物实测图(缩尺1/3)



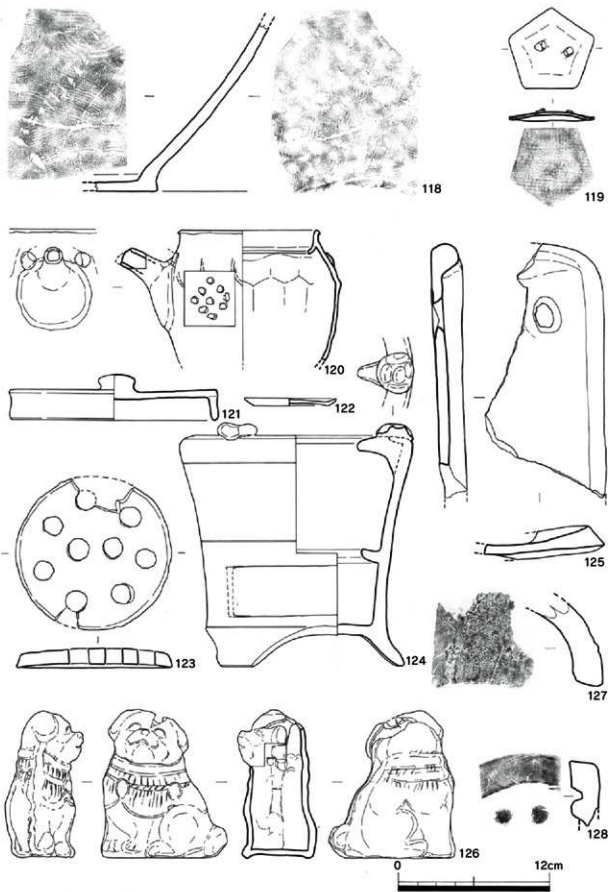
第11图 3号土坑出土遗物实测图1(缩尺1/3)



第12图 3号土坑出土遗物实测图2(缩尺1/3)



第13图 3号土坑出土遗物实测图3(缩尺1/3)



第14图 3号土坑出土遺物実測図4 (縮尺1/3)

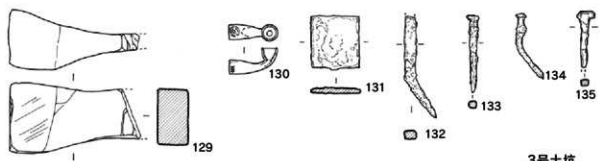
どが描かれている。89は戸車、90は器種不明品の脚部である。91は青磁であるが器種不明である。92は陶器の銅緑軸の小坏、93は鉄軸を施す播鉢、94は灰軸の鉢で焼き継ぎがある。95～97は陶器の行平で、96の外面上半には飛び鉋を施す。97は片口で、19世紀代の関西系である。98～103は蓋で、98～100には鉄軸を施し、100は白土のイッチン掛けを施す。102は急須の蓋で、緑や褐色の釉で梅花を描く。103はつまみが型打ちの亀である。104は陶器の急須で、外面に「清光〇〇〇」の文字が鉄軸で書かれている。105・106・108～110は土瓶で、105・110は白土のイッチン掛け、108は飛び鉋、109は牡丹の文様がある。また、106と108の底面には墨書がある。これらは関西系の19世紀代のものが多い。111はままごと道具の急須で、外面は鹿の子模様で、底面に布目痕がある。112は瓦質土器の火鉢で、体部上半に海浜風景の型押しがある。113・114はともに陶器の灯明受け皿で、関西系のものである。115は二彩陶器の小片で、花文の貼り付けがある。116は器種不明の陶器で、緑軸を施す。117は瓦器の火鉢で、立面が逆台形の脚を3ヶ所に付ける。118は瓦質土器の甕で、内面に青海波の調整痕が残る。119は土師質土器の急須の蓋かと考えられ、平面形が五角形で内面に布目痕がある。120は土師質土器の土瓶である。121は火消し壺の蓋で、122は土師器の皿である。123は焔炉の火皿、124は焔炉である。125は用途不明の上製品で、平面形はちり取り状か。126は土人形の舶犬で、前面と後面を別々に型押ししたのち接合している。127は丸瓦で、内面に布目痕がある。128は軒丸瓦の小片である。129は方柱状の形態の砥石、130は煙管、131は正方形で板状の鉄製品であるが用途は不明である。132～135は鉄製の釘である。

3号土坑と4号土坑は切り合い関係があるが、上層では前後関係が不明であったため、3号・4号土坑として遺物を取り上げた(第15図～第17図)。これらの遺物が136～174である。136～151は磁器で、136は草花文、137は横シマを施す碗である。138は湯飲みで、139～141は小杯である。142は白磁の紅皿かと考えられる。143も白磁で、合子の身である。144は赤絵の仏飯器で菊菊文を描き、18世紀後半から19世紀前半の肥前系のものであろう。145は青磁の火入れ、146は染付の段重である。147は染付の盃洗の優品である。外面の坏部に風景・床几、脚柱状部に櫛歯文、脚端部に渦巻文・花文を、内面には鳥や草花文を濃淡を微妙に使い分けて描いている。148・149は瓶で、148には蛸唐草文、149には草花文がある。150は仏花瓶で文様は148と同じ蛸唐草文を描く。151は器種不明の青磁の型打の製品である。153は外面の上半を飛び鉋で装飾する土瓶、152はその蓋である。154は土瓶の蓋で、飛び鉋を施す。155・157は片口、156は鍋で、ともに見込に小さい目跡が5個ある。158は関西系の急須で、外面の口縁には雷文、体部には布目状の庄痕があり、底面に墨書が残る。159は器種不明で、唐草文の型打の上に緑軸を施す。160は小型の火入れで、高台の6カ所に切込がある。161は瓦質土器の甕、162は土師器の皿である。163は在地系の土師器の甕である。164～166は土師質土器の焙烙で、164・165は高村の製品である。167・168は土鍾である。169～171は土製品で、169が彩色を施す帆掛け船、170が外輪船で、171は人物の人形である。172は煙管、173・174は筭である。

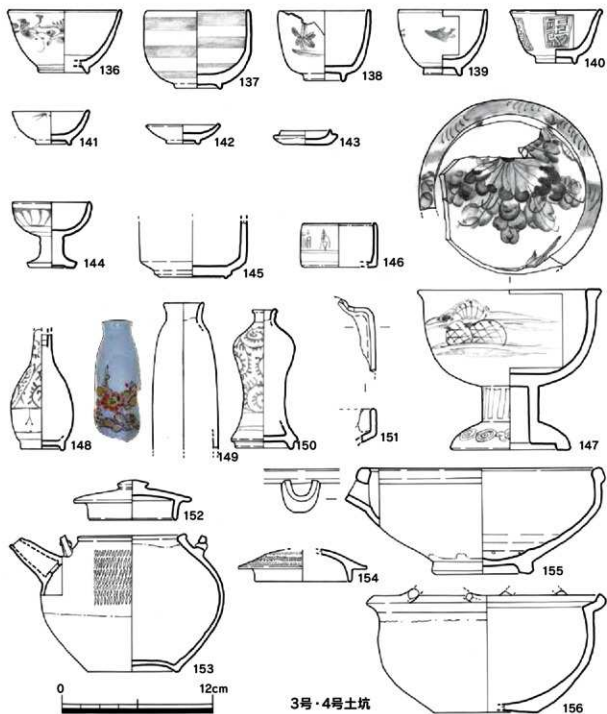
#### 4号土坑 (第9図)

4号土坑は3号土坑の東側を切っている。遺構検出面の標高は約3.7 mである。遺構の平面形はやや不整形の楕円形で、大きさは検出面で長径2.32 m・短径2.28 mである。壁面は床面から70°程度の角度で立ち上がり、深さは最深部で1.07 mである。床面は中央部がやや皿状に窪むが平坦に近い。遺構の用途は廃棄土坑と考えられる。

遺物は陶器の碗・小坏・皿・蓋・鉢・播鉢・急須・土瓶・鍋・行平・片口・茶壺・火入れ・灯明皿・灯明受け皿・乗燭・徳利・壺・植木鉢・ままごと道具、磁器の碗・小坏・皿・蓋・紅皿・猪口・急須・



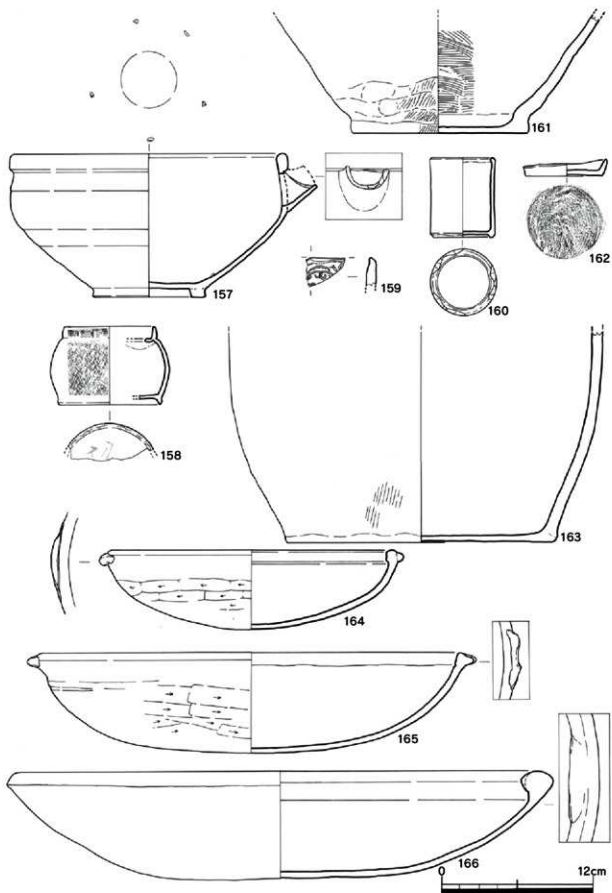
3号土坑



3号・4号土坑

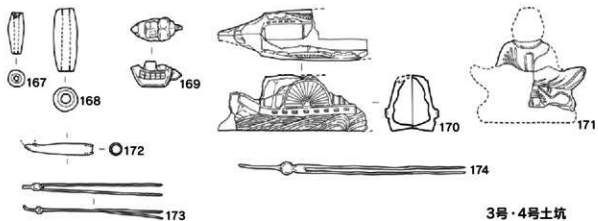
第15图 3号土坑及び3号・4号土坑出土遺物実測図(縮尺1/3)



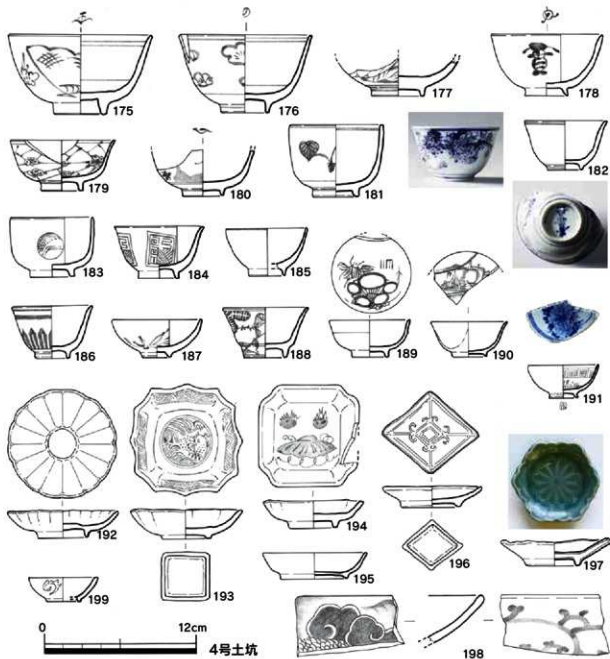


第16图 3号・4号土坑出土遺物実測図(縮尺1/3)

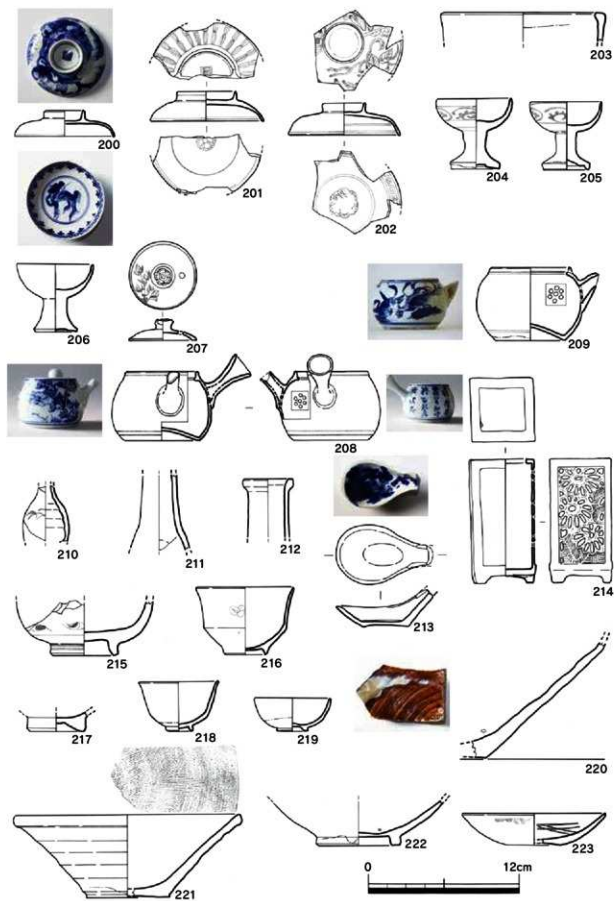
火入れ・瓶・仏飯器・蓮華・筆筒、瓦質土器の火鉢、土師質土器の蓋・急須・こね鉢・焙烙・甕、土師器の皿などの土器類のほか、土製品の人形、軒丸瓦・木製品・漆器・硯・碁石・煙管・不明銅製品など非常に多量に出土している（第17図～第21図）。175～214は磁器で、このうち175～181は碗である。外面の文様は175が扇と草花、176が梅花、178が「賢」の文字、179が梅花と水裂文、181が葵を描いている。180は赤と緑を使った色絵である。178・181は瀬戸美濃と考えられる。182～187と189～191は小坏である。182は外面に梅樹・菊花を繊細に描き、底面には銘があり関西系の19世紀代のものである。183は外面にススキの丸文があり、肥前系の波佐見の可能性のある1820～1860年代のものである。185は白磁で口銹を施す。189は内面に梅花・笹と、金泥の銘がある。190は器壁が薄く、内面に山水・帆船を描き、焼き継ぎがある。191の底面には銘がある。192～198は皿で、193は平面形が正方形を基本とし、各辺の両端と中央を外方につまみ出し、見込に鯉の滝登りを描く。194も角皿で、見込には貝と波を描く。195は外面に鉄軸を施す。196は菱形の平面形で、見込に型打の文様がある。197は青磁で、平面が六角形を呈し、見込に菊花文が型打されている。198はやや大型の皿で、文様は外面が草花文、内面は龍と雲かと考えられる。199は紅皿で外面に蛸唐草文の型打がある。200～202は蓋で、200は外面に笛吹童子と牛、内面に輪宝つなぎ文、見込に麒麟が描かれている。201は見込に十字花、底面に銘がある。202は外面に草花文、内面に雷文、見込に松竹梅円形を描く、203は青磁の火入れである。204～206は仏飯器で、204・205は蛸唐草文を描くが、206は染付がない。208は急須で、207はその蓋と考えられる。ともに外面に牡丹を描き、208には詩歌も書かれている。209も急須で、外面に鳥・川を描き、「〇〇造」の文字が書かれている。210～212は瓶で、210の外面には笹を描き、211は青磁の製品である。213は蓮華で、内面に菊花を描く。214は筆筒で、方柱状の形態で底面の四隅には脚を付け、体部には菊花の透しに、葉を染付で描写する。215～236・239～253・257～259などは陶器である。これらのうち215～217は碗で、215は陶胎染付、216は白土と鉄軸で梅花を描く関西系、217は志野焼かと考えられる。218は小杯で、銅緑釉と灰釉を施す上野・高取系の製品である。219も小杯で白土を施す。220は鉢で、鉄軸と灰釉を施し、見込に小さい目跡が残存する。221は鉄軸を施す挿鉢である。222は鉢かと考えられ、外面に灰釉、内面に鉄軸と一部灰釉を施す。223は灯明皿で、内面にへら描きの沈線がある。224はやや大型の挿鉢で高台を付し、鉄軸を施す。225は陶胎染付の火入れで、肥前系の18世紀後半のものである。226は植木鉢で、外面に鉄軸を施し、飛び鉋で施文する。227～233は蓋である。227・228は鉄軸と白土を使用する。231には菊花かと考えられる円形の貼り付け文がある。233は234の土瓶の蓋である。234の外面には白土と鉄軸で梅花と推定される描画がある。235の土瓶の口縁には口銹を施す。236も土瓶で、体部上半に鳥崩し文を描いている。237・238は土師質土器の急須の取手と考えられ、238の上面には「〇山」の刻印がある。239・240は灯明受け皿で、ともに19世紀代の関西系の製品である。241は乗燭で、鉄軸を施す。242は高台付きの鉢で、見込に小さい目跡がある。243は皿の小片かと考えられ、全面に緑釉を施す。244～248は行平で、244は底部に3ヶ所ボタン状の脚を付ける。245・248は外面に飛び鉋を施す。246は小型品で、外面の中位以下に「エコ」と「〇〇」の墨書がある。249は鍋で、口縁に半環状取手が2ヶ所あり、ボタン状の小さい脚が3つ付く。250は壺かと考えられ、内面に青海波の叩き調整痕がある。251は器種不明であるが、取手がある手揚げのカゴを模したような形態で、外面に銅緑釉を施す。252は瓶で、外面の文様は風景か。253は灯明受け皿、254は土師質土器の急須の蓋で、獅子または犬を模した柄みを付け、表面に布目痕が残る。255・256は土師質土器の急須で、255の口縁には雷文の型押、256には体部上位にモミジ葉の型押がある。257・258は陶器の急須の小片で、表面に白土・透明釉を施し、ままごと道具か



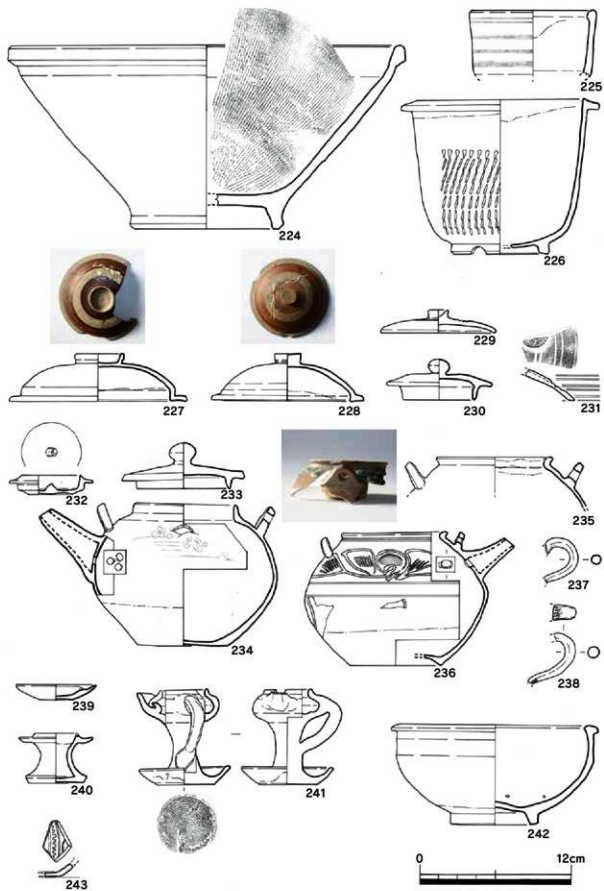
3号・4号土坑



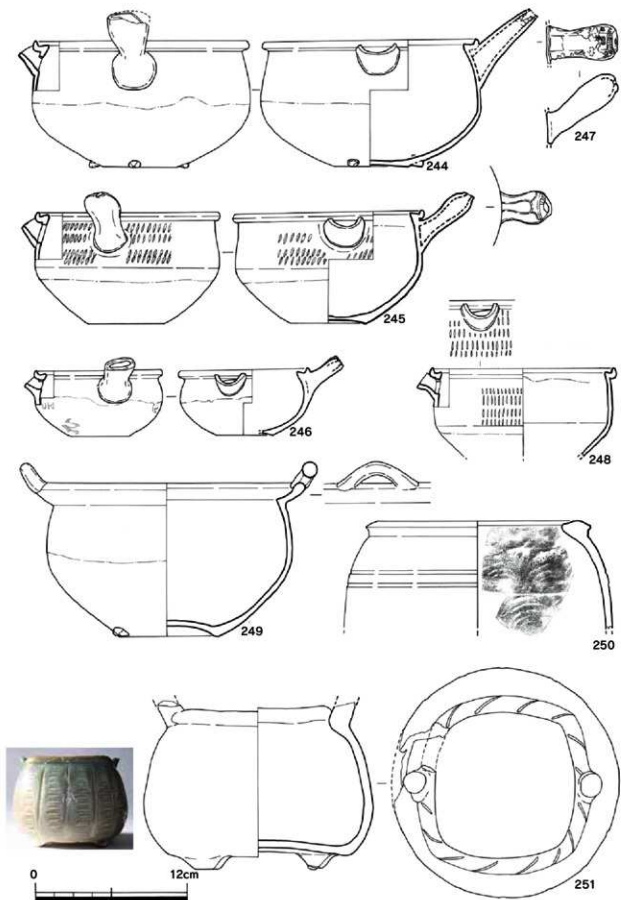
第17図 3号・4号土坑及び4号土坑出土遺物実測図(縮尺1/3)



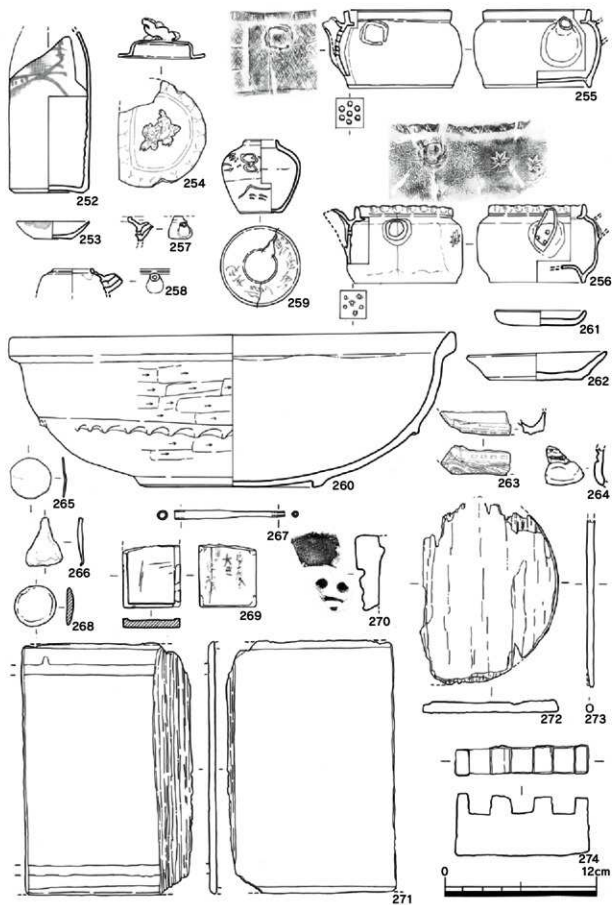
第18图 4号土坑出土遗物实测图1 (缩尺1/3)



第19图 4号土坑出土文物实测图2 (缩尺1/3)



第20图 4号土坑出土遺物実測図3 (縮尺1/3)



第21図 4号土坑出土遺物実測図4 (縮尺1/3、ただし268は1/2、271は1/4)

と考えられる。259は茶壺の可能性が有る。体部の最大径部付近で上下別々に手づくねで製作している。外面に白土で花卉と点を描き透明釉を塗布する。上半の内面には「黒屋傳一郎主也」とふりがなの「クロヤデン」の墨書が残る。260は土師質土器のこね鉢で、低い高台をもち、体部中位に波状の突帯をめぐらす。口縁は外面を肥厚させ、内面に赤色顔料を塗布する、高村の製品であろう。261・262は土師器の皿である。263は船の土人形、264は人物の顔面であろう。265は用途不明の銅製品、266も用途不明の金属製品である。267は煙管の吸口、268は黒の碁石である。269は小型の硯で、裏面に線刻による文字がある。270は軒丸瓦である。271～274は木製品で、271は方形の蓋で全面に黒色の漆を塗布する。272は曲げ物の底板か。273は筥、274は建築部材の切れ端か。

#### 5号土坑 (第9図)

5号土坑は4号土坑の東側に隣接し、6号土坑を切る。遺構検出面の標高は約3.8mである。遺構の平面形は隅丸方形で、大きさは検出面で長さ0.98m・幅0.92m、深さは0.24mである。床面は皿状に窪む。遺物の出土状況からみて用途は廃棄土坑と考えられる。

遺物は陶器の鉢・蓋・猪口・土瓶・急須、磁器の碗・小杯・皿・猪口・急須・瓶・色絵碗・色絵段重、瓦質土器、土師質土器の焙烙・こね鉢・火消し壺、土師器の皿、棒状鉄製品・小刀などが多量に出土している(第22図)。275～282は磁器で、275は染付の碗、276は色絵の碗で焼き継ぎがある。277～279は小杯で、277は内外面に草花文、279は外面に帆掛け船と樹文を描く。280は猪口で、内外面に呉須の白斑点がある。281は色絵の段重で、横シマをめぐらす。282は急須で、梅樹を描く。283は陶器の土瓶で、外面に梅花と流し掛けがみられる。284・285は陶器の蓋で、285には亀のつまみが付く。286～288は土師質土器で、286が火消し壺、287が焙烙である。288はこね鉢で、底面に突帯をめぐらし、内面には赤色顔料を塗布する。289は土師器の皿である。290は鉄製品で小刀の切先部分かと考えられる。

#### 6号土坑 (第9図)

6号土坑は5号土坑に切られて、重複する位置にあり、8号土坑にも切られる。遺構検出面の標高は約3.7mである。遺構の平面形は隅丸方形に近く、大きさは検出面で長さ1.65m・幅1.60mである。壁面は60°程度の角度で開きながら立ち上がり、深さは0.47mである。床面はほぼ水平である。遺構の用途は不明である。

遺物は陶器の碗・蓋、磁器の猪口、土師器の皿、銅銭などが少量出土している(第22図)。291は白磁のソバ猪口である。292は陶器の碗で、外面に草文を描く。293・294は土師器の皿である。295は陶器の蓋である。296は寛永通寶である。

#### 7号土坑 (第9図)

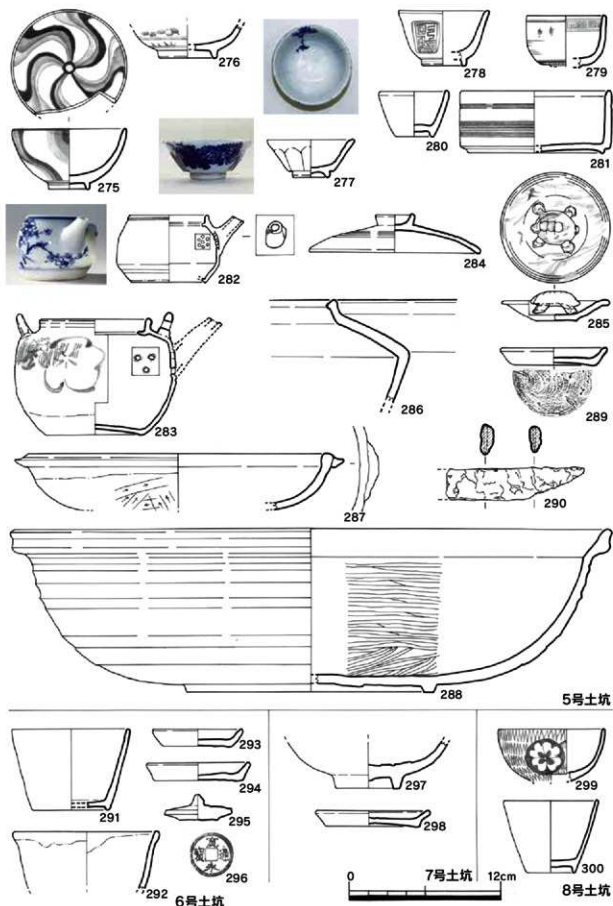
7号土坑は6号土坑の南東に隣接し、東端が調査区外となっている。遺構検出面の標高は約3.8mである。遺構の平面形は東西方向に長い長方形で、大きさは検出面で残存長1.90m・幅0.90mである。深さは0.24mとやや浅い。壁面は小口側が50°程度に広がりながら立ち上がる。床面は東半が西半より5cmほど低くなっているが、両側とも水平である。遺構の用途は不明である。

遺物は陶器の碗、土師器の皿などが少量出土している(第22図)。297は陶器の碗で、内外面に刷毛目を施し、見込に目跡があり、17世紀代のものか。298は土師器の皿である。

#### 8号土坑 (第9図)

8号土坑は7号土坑の北側に並行して検出された。遺構検出面の標高は約3.7mである。遺構の平面形は7号土坑と同様な長方形で、大きさは検出面で長さ2.15m・幅1.20mである。壁面は全体的に大きく開く。東側の小口部分に狭い平坦面があり、床面は長さ1.01m・幅0.43mとやや狭くなり、





第22図 5号・6号・7号・8号土坑出土遺物実測図 (縮尺1/3、ただし296は1/2)

深さは最深部で検出面から 0.55 m である。遺構の用途は不明であるが、形状からみて 7 号土坑と同様と考えられる。

遺物は磁器の碗・猪口と碁石などが少量出土している（第 22 図）。299 は磁器の碗で、網目文の地に花の丸文が浮かぶ。肥前の 1710～1750 年代のものである。300 は白磁の猪口である。

#### 9号土坑（第9図）

9号土坑は8号土坑の北側に隣接し、北側が5号溝状遺構、西側が他のピットと切り合う。遺構検出面の標高は約 3.7 m である。遺構は平面形が楕円形で、大きさは検出面で長径 2.04 m、短径の残存幅は 1.31 m である。壁面は垂直に近く立ち上がり、深さは 0.79 m と深い。床面は水平な平坦面をなし、大きさは長径 1.52 m・短径 1.03 m である。床面には内面に石灰分が付着した土師質土器の大甕が設置されていたことから、遺構の用途は便槽かと考えられる。

遺物は陶器の碗・皿・播鉢・花瓶、磁器の碗・瓶、土師器の皿、漆器などが中量出土している（第 24 図）。301・302 は染付の碗で、外面に水裂文を施す。303 は磁器の瓶である。304・305 は陶器の碗で、ともに流し掛けを施し、304 は高取系の製品か。307 は陶器の花瓶かと考えられ、平面が四角形を呈し、外面には型打文様を施す。308 は陶器の播鉢、309～311 は土師器の皿である。

#### 10号土坑（第23図）

10号土坑は調査区南部で3号土坑の北側に隣接し、5号溝状遺構を切る。遺構検出面の標高は約 3.7 m である。遺構は南北方向に長い長方形の平面形をなし、大きさは検出面で長さ 1.77 m・幅 1.11 m である。壁面は垂直に近く立ち上がる。床面に近い壁面の一部から暗灰色の粘土状の土が検出されたが、これは木質が腐食したものかもしれない。床面は平面形が長方形で長さ 1.66 m・幅 0.98 m で水平な平坦面をなす。埋土には基盤層に由来する灰黄色褐色弱砂質土や炭化物が少量含まれていた。遺構の性格は形状や遺物の量から考えて廃棄土坑とは考えにくく、埋葬施設の可能性がある。主軸の方位は N-19°-E である。

遺物は磁器の小坏、土師質土器の片口、碁石などが少量出土している（第 24 図）。312 は染付の小坏で、外面の文様は草花文か風景であろう。313 は土師質土器の片口である。

#### 11号土坑（第23図）

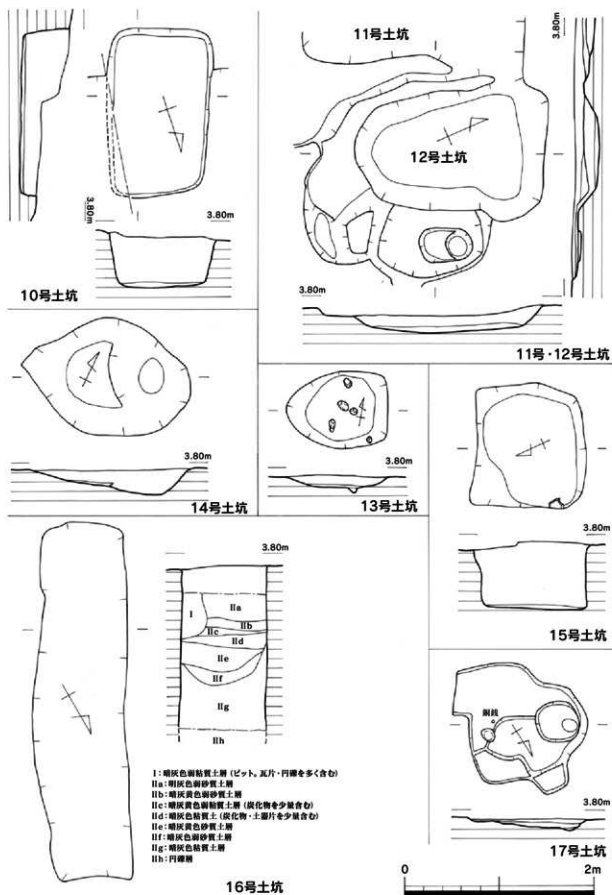
11号土坑は調査区中央部よりやや南側に位置し、西側の大部分が調査区外となり、東側は12号土坑とわずかに切り合っている。遺構検出面の標高は約 3.7 m である。遺構の平面形は方形に近い形態かと推定され、大きさは残存長 2.48 m である。深さは最深部で 0.15 m と浅い。埋土には炭化物を多く含む。遺構の用途は不明である。

遺物は陶器の播鉢、磁器の猪口などが少量出土している（第 24 図）。314 は染付の猪口で、外面に草文を施し、見込には白色の泥状の付着物がある。315 は陶器の播鉢である。

#### 12号土坑（第23図）

12号土坑は11号土坑の東側に隣接し、他のピットと切り合う。遺構検出面の標高は約 3.7 m である。遺構の平面形は隅丸長方形かと考えられ、大きさは検出面で長さ 2.50 m・幅 1.37 m である。壁面は大きく開き、深さは 0.35 m である。床面は中央部がわずかに窪むが、水平に近い。遺構の用途は廃棄土坑かと考えられる。

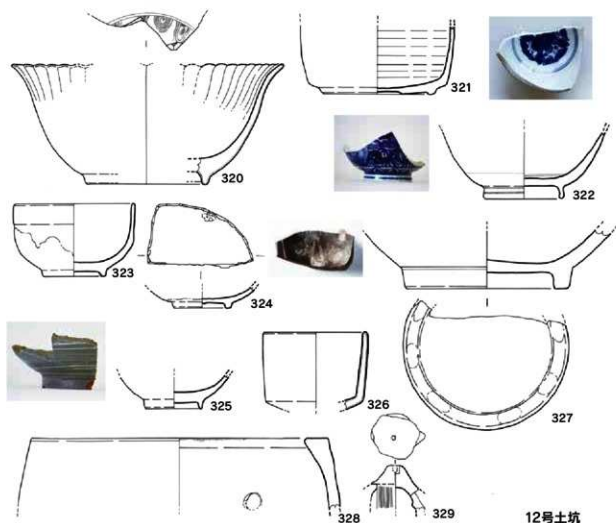
遺物は陶器の碗・鉢・湯飲み、磁器の皿・鉢・湯飲み・火入れ、土師質土器の焜炉、不明土製品などが中量出土している（第 24 図・第 25 図）。316～322 は磁器である。316 は湯飲みで、外面には松・竹・草文など、内面には四方禪文、見込にはコンニャク印判の五弁花がある。1740～1780 年代の肥前の製品か。317・318 は皿で、外面には花唐草文をめぐらし、317 の底面には渦福の銘がある。



第23図 土坑実測図2 (縮尺1/40)



第24图 9号·10号·11号·12号土坑出土遗物实测图(缩尺1/3)



第25图 12号·13号·14号土坑出土文物实测图(缩尺1/3)

319 は鉢かと考えられ、見込に風景が描かれ、底面には渦福の銘がある。320 は青磁染付の鉢で、口縁は細かい輪花状を呈する。321 は青磁の火入れかと考えられ、底部は蛇ノ目凹型高台である。322 は染付の鉢で、外面と見込に草花文を描く。323～327 は陶器である。323～325 は碗で、324 の内面には小さい梅花の文様がある。325 は内外面とも刷毛目をめぐらし、肥前の17世紀後半代の製品か。326 は湯飲みである。327 の鉢にも内外面には刷毛目をめぐらし、見込と高台端部に胎土目跡がある。328 は土師質土器の焜炉である。329 は用途不明の土製品で、上端に小孔がある。

### 13号土坑 (第23図)

13号土坑は12号土坑の南東側に位置し、遺構検出面の標高は約3.7mである。遺構の平面形は基本的に楕円形に近く、大きさは検出面で長径1.06m・短径0.83mである。深さは0.17mと浅く、全体的に皿状の形状を呈する。床面を中心に径5～10cmほどの浅い小ピットが5基検出された。遺構の用途は不明である。

遺物は陶器の鉢・磁器の碗・小坏などが少量出土している(第25図)。330・331は染付の碗で、330の見込には蛇ノ目釉剥ぎが残り、高台側面に砂目跡が付着する。332は白磁の小杯である。333は陶器の鉢で、内面は蓮弁状の型打である。334は器種不明の陶器である。

### 14号土坑 (第23図)

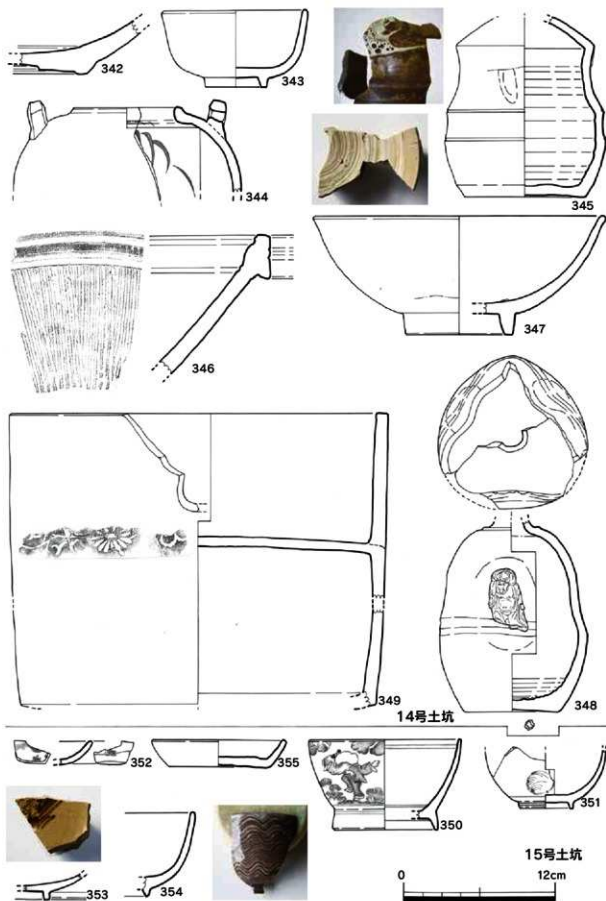
14号土坑は12号土坑の北側に隣接し、遺構検出面の標高は約3.7mである。遺構の平面形はやや不整形であるが楕円形に近い、大きさは検出面で長さ1.90m・幅1.26mである。壁面は大きく開き、深さは最深部で0.32mである。西側は半月形の平坦面があり、東側は床面が皿状に窪む。埋土は暗灰褐色の砂質土で、土器とともに炭化物を多量に含む。遺構の用途は廃棄土坑の可能性が高い。

遺物は陶器の碗・鉢・播鉢・土瓶・徳利、磁器の碗・皿・鉢、土師質土器の焜炉などが中量出土している(第25図・第26図)。335～342は磁器である。335～337は染付の碗で、335・336の外面には草花文や唐草文、内面には四方禪文がある。335は肥前の1740～1780年代のものである。337はくらわんか手で、底面に銘状の文様がある。338は青磁の平形碗か。339は染付の皿で、外面に唐草文、内面に梅花・草木文、見込に松竹梅形が配されている。口縁はわずかに輪花状を呈し、底部は蛇ノ目凹型高台である。340・341はともに器種不明で、文様は340の外面に蛸唐草文、341の外面に桐が描かれている。342は青磁の鉢で、底部が蛇ノ目凹型高台である。343～348は陶器である。343は碗で、口鏽を施す。344は土瓶で、白土・鉄釉で文様を描く。345は徳利で、外面には白土の流し掛けがあり、高取系の18世紀後半以降の製品である。346は陶器の播鉢、347は鉢で内外面に刷毛目を施し、見込に目跡がある。348も徳利で、外面に大黒天の貼り付け文があり、底面に分銅形の刻印がある。17世紀末～18世紀前半の高取系(上の原窯跡)である。349は土師質土器の焜炉で、外面の中心に花唐草文の型押がある。

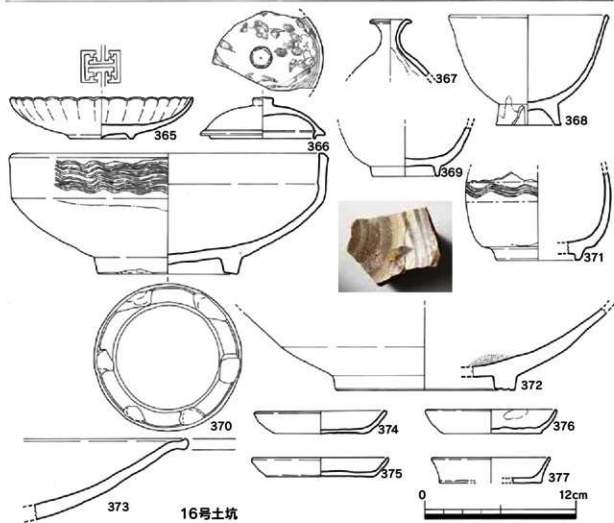
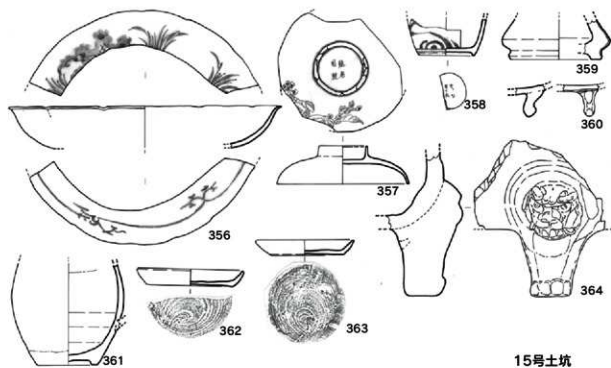
### 15号土坑 (第23図)

15号土坑は13号土坑の東側に隣接し、16号・18号土坑を切る。遺構検出面の標高は約3.7mである。遺構の平面形はほぼ正方形で、大きさは検出面で長さ1.32m・幅1.13mである。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、深さは検出面から0.65mである。床面は水平で平坦である。埋土は基盤層に近い暗黄灰色砂質土が中心で、遺構の用途は廃棄土坑かと考えられる。

遺物は陶器の碗・瓶、磁器の碗・皿・蓋・猪口・香炉・瓶・仏花瓶、瓦質土器の火鉢、土師器の皿などが中量出土している(第26図・第27図)。350は磁器の広東碗で、外面に中国童子を描く。351も磁器の碗で、外面には丸文のススキがある。352は磁器の皿で、内外面に草花文を配する。353は陶器の碗で、内面に風景を描く。354も陶器の碗で、外面に刷毛目の波状文をめぐらす。18世紀前半



第26图 14号·15号土坑出土遺物実測図(縮尺1/3)



第27图 15号·16号土坑出土遺物実測図(縮尺1/3)



の唐津系(現川)と考えられる。356は磁器の皿で、外面は唐草文、内面は草花文である。357は磁器の蓋で、つまみの内側に「〇老〇製」の銘がある。358は磁器の猪口で、底面に「大明年製」の銘がある。359は青磁の仏花瓶、360も青磁で香炉の脚かと考えられる。361は陶器の瓶、362・363は土師器の皿である。364は瓦質土器の火鉢の脚部と推定され、獅子形の型押がある。

#### 16号土坑(第23図)

16号土坑は13号土坑の北側に隣接し、15号・21号土坑に切られる。遺構検出面の標高は約3.7mである。遺構の平面形は南北方向に長い長方形で、大きさは検出面で長さ3.70m・幅1.00mである。壁面は垂直に立ち上がり、深さは1.72mまで掘削したが、床面に達していない。埋土は砂質土と粘質土が互層に堆積するが、掘削した最下層は円礫層となっており、湧水をともなう。遺構の用途は不明である。主軸の方位はN-30°-Eである。なお、当遺構の検出面で長径0.40m・短径0.32mのやや楕円形の焼土面を検出したが、当遺構の埋没後の遺構である。

遺物は陶器の碗・鉢・壺、磁器の皿・蓋・瓶、土師器の皿の他、漆器・土製人形・土錘・軒平瓦・軒丸瓦・丸瓦・煙管・鉄釘などが多量に出土した(第27図・第28図)。365は青磁の皿で、見込に紗彩文の型打がある。肥前の1640年代頃の作か。366は柴付の蓋で、外面に草花文を描く。367は白磁の瓶である。368・369は陶器の碗で、368の高台には切込がある。370は陶器の鉢で、外面に波状文の刷毛目をめぐらし、高台には胎土目跡が6カ所にある。371は陶器の壺で、外面に波状文の刷毛目をめぐらす。372・373は陶器の鉢で、373の内面には同心円状や波状の刷毛目をほどこす。見込に砂目跡があり、肥前の18世紀前半代のものか。374～377は土師器の皿である。378は土製品の舟、379・380は土錘である。381は丸瓦、382は左三つ巴文かと考えられる軒丸瓦、383は三つ葉文の軒平瓦である。384・385は鉄釘、386は用途不明の銅製品、387は煙管である。

#### 17号土坑(第23図)

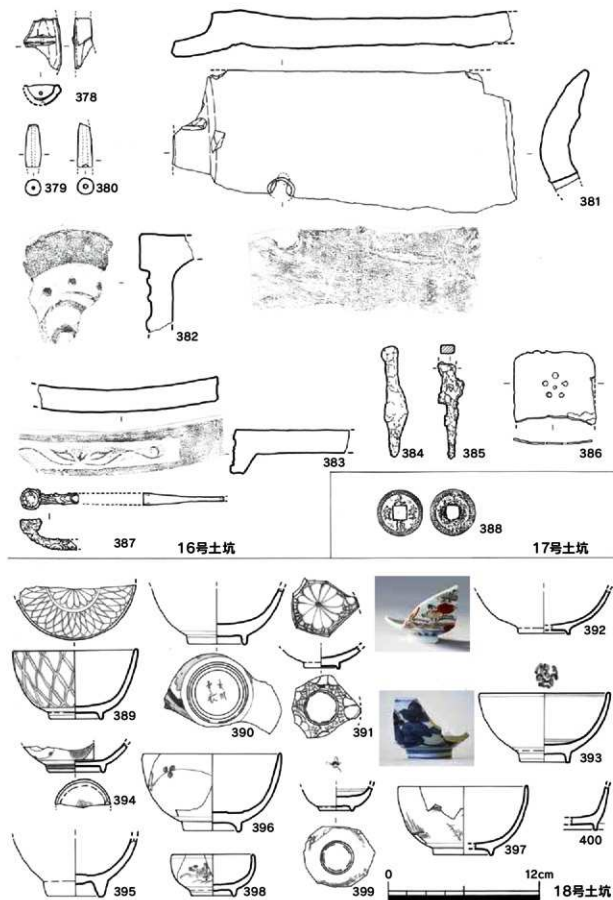
17号土坑は15号土坑の南東側に位置し、遺構検出面の標高は約3.7mである。遺構の平面形はやや不整形で他のピットと切り合い、大きさは長さ1.26m・幅1.25mである。深さは0.17mと浅く、床面は中央部が窪み気味である。遺構の用途は不明である。

遺物は遺構の南側の床面から「元豊通寶」と考えられる宋銭が出土している(第28図388)。

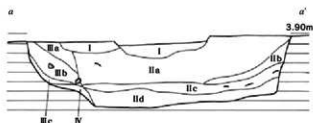
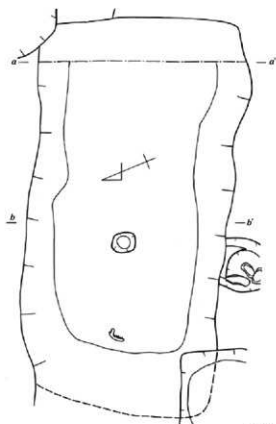
#### 18号土坑(第29図)

18号土坑は調査区中央部のやや南側に位置し、15号土坑や2号建物跡のP3・P4・P5などに切られる。遺構検出面の標高は約3.8mである。遺構の平面形は東西方向に長い長方形で、大きさは検出面で長さ4.25m・幅2.26mと大型である。壁面は70°程度の角度で立ち上がり、深さは最深部で0.89mと深い。床面は全体的にほぼ水平な平坦面をなし、大きさは長さ3.05m以上・幅1.44mである。床面の中央部よりやや西側で長径25cmの楕円形ピットを検出し、西端部からは獸骨の下顎骨が出土した。埋土は全体的に炭化物を含み、土質は上層では弱砂質土、下層では弱粘質土で基盤層に近い性質となる。遺構の用途は不明である。主軸の方位はN-62°-Wである。

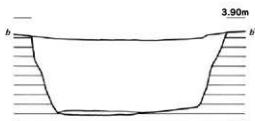
遺物は陶器の碗・皿・摺鉢、磁器の碗・小坏・皿・鉢・猪口・火入れ・瓶、土質土器の焙烙・片口、土師器の皿などの多量の土器類の他、土製人形・木製品(漆器・曲げ物・箸?)・砥石・鉄製品・獸骨などが出土している(第28図～第31図)。389～406と422は磁器である。389～397は碗で、389は内外面に網目文、見込に菊花文を描き、底面に銘がある。18世紀前半の肥前の製品である。390の底面には「大明年製」の銘がある。391は外面と見込に菊花文を描く。392は色絵で、松・笹・花などを描く。393は外面に草木文や動物らしき絵柄がある。394は外面に雪輪文を描き、底面には渦福がある。396は外面が梅樹かと考えられ、見込を蛇ノ目軸剥ぎする、1680～1770年代の肥前



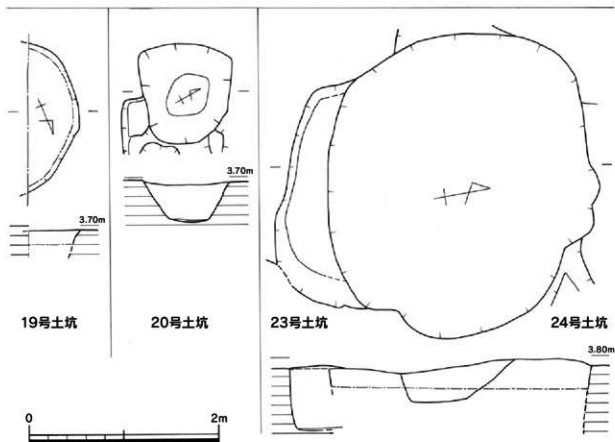
第28図 16号・17号・18号土坑出土遺物実測図(縮尺1/3、ただし388は1/2)



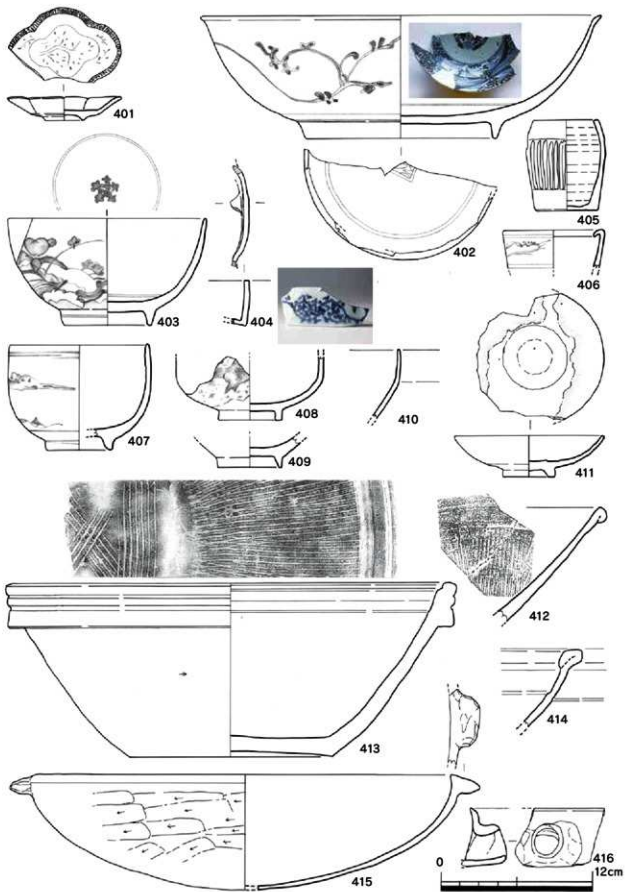
- I: 暗灰色面砂質土層 (炭化物を少量含む)
- IIa: 暗褐色面砂質土層 (炭化物を中量、小礫を少量含む)
- IIb: 暗灰色砂質土層 (炭化物・褐色ブロックを少量含む)
- IIc: 暗褐色面粘質土層 (炭化物を中量、小礫を少量含む)
- II'd: 暗灰色面粘質土層 (炭化物・褐色ブロックを少量含む)
- II'c: 暗褐色面砂質土層 (炭化物・小礫を少量含む)
- II'b: 暗褐色面砂質土層 (炭化物・褐色ブロックを少量含む)
- II'c: 暗褐色面粘質土層 (炭化物を少量含む)
- IV: 暗褐色色砂質土層 (基盤層)



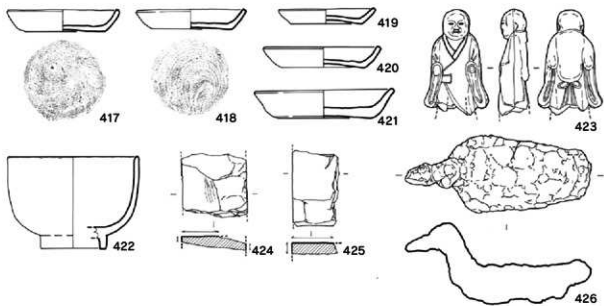
18号土坑



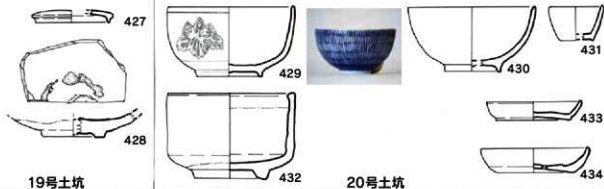
第29図 土坑実測図3 (縮尺1/40)



第30图 18号土坑出土遗物实测图(缩尺1/3)



18号土坑



19号土坑

20号土坑



21号土坑

第31图 18号·19号·20号·21号土坑出土遗物实测图(缩尺1/3)

(波佐見)の製品である。398・399は小杯で、外面にはともに草花文を描く。400は白磁の猪口である。401は白磁の皿で、内面は型打の草木文を施す。402はやや大型の鉢で、文様は外面が花唐草文、内面が蛸唐草文、見込が草花文で、底面に銘がある。403も鉢で、外面に草木文、見込にコンニャク印判の五弁花を配し、底面には「大明年製」の銘がある。404は器種不明で、外面に蛸唐草文を描く。405は筒状の青磁で、器種は不明である。406は火入れで、外面の文様は風景か。407～414は陶器である。407～410は碗で、407は陶胎染付である。408は鉄軸を施し、18世紀前半の小石原系と考えられる。410も鉄軸をほどこし、天目碗か。411は皿で、銅緑軸を使用し、見込は蛇ノ目軸剥ぎである。412～414は播鉢で、412には鉄軸を施す。414は口縁を内側に折り曲げて厚くしている。415・416は土師質土器で、415が焙烙、416が片口である。417～421は土師器の皿である。422は白磁の碗で、口鏽を施す。423は僧形の土人形である。424・425は砥石で、ともに天草石か。426は火のしの可能性のある鉄製品である。

#### 19号土坑 (第29図)

19号土坑は18号土坑の東側に位置し、東半は調査区外となっている。遺構検出面の標高は約3.7mである。遺構の平面形は円形かと考えられ、大きさは検出面で1.8m程度と推定される。壁面はやや斜めに立ち上がり、深さは0.21mしか掘削していない。遺構の用途は不明である。

遺物は陶器の碗、磁器の蓋などが少量出土している(第31図)。427は白磁で、合子の蓋かと考えられる。428は陶器の皿で、見込は砂目跡が残り、中央が盛り上がる。17世紀代の製品である。

#### 20号土坑 (第29図)

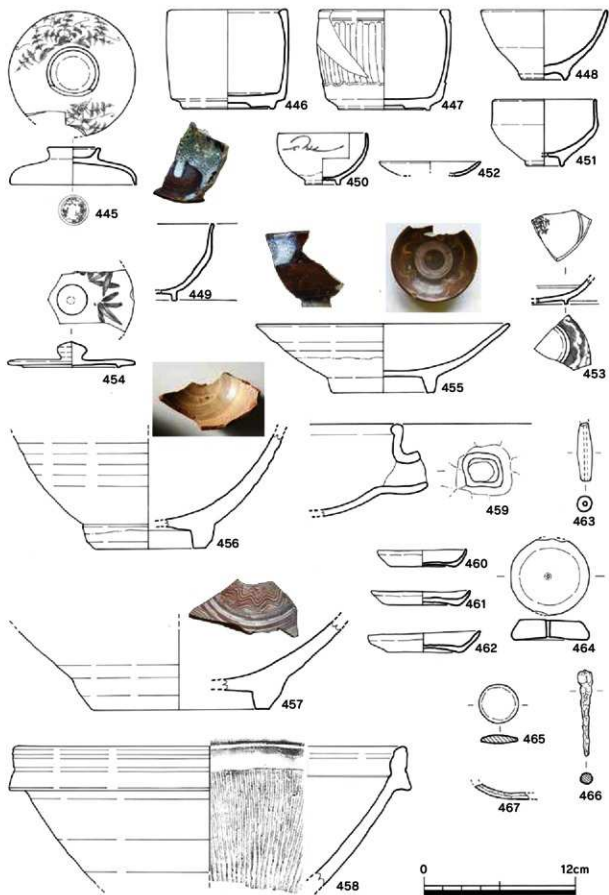
20号土坑は調査区中央部付近で18号土坑の北側に位置し、54号土坑を切る。遺構検出面の標高は約3.7mである。遺構の平面形は隅丸方形で、大きさは検出面で長さ1.05m・幅0.98mである。壁面は60°程度の角度で開きながら立ち上がる。深さは0.45mで、床面はほぼ平坦であるが、大きさは0.42m程度と狭い。遺構の用途は廃棄土坑の可能性もある。出土遺物の中に29号土坑と接合するものがあり、2つの遺構が同時併存したことも推定される。

遺物は陶器の碗・皿・播鉢、磁器の碗・猪口、土師器の皿などが中量出土している(第31図)。429・430は磁器の碗で、外面の文様は429がコンニャク印判の桐で、430は網目文である。ともに18世紀前半の肥前の作である。431は白磁の猪口である。432は陶器の碗で、外面に灰軸を施す。433・434は土師器の皿である。

#### 21号土坑 (第41図)

21号土坑は20号土坑の西側に隣接し、16号・54号土坑を切り、22号土坑に切られる。遺構検出面の標高は約3.6mである。遺構の平面形はほぼ正方形で、大きさは検出面で長さ1.93mである。壁面は垂直に近く立ち上がり、深さは0.36mとやや浅い。床面はほぼ水平な平坦面をなし、中央部付近から板状の木材を出土した。遺構の用途は廃棄土坑と考えられる。

遺物は陶器の碗・小杯・皿・蓋・鉢・播鉢・壺・甕、磁器の碗・小杯・皿・蓋・猪口・火入れ、土師質土器の片口、土師器の皿など多量の土器類の他、土鍾・碁石・煙管・鉄釘・紡錘車などが出土している(第31図・第32図)。435～447は磁器である。435・436は碗で、文様は435が外面が松・竹・梅、内面が四方禪文、見込が五弁花で構成され、436は外面が「壽」崩し、内面が四方禪文?見込が「壽」である。ともに18世紀後半の肥前のものである。437～440は小杯で、437は外面が草花文と鳥文を配する肥前(波佐見)の作である。438は青磁で、439は色絵で布袋を描く。440は外面にコンニャク印判の菊花文を押す。441は猪口で、外面と見込に「壽」字文を配する。442～444は皿で、442は内外面に草木文を描く。443は角皿で、口縁が口鏽で、底面に「大明年製」の銘がある。444は型打で、



第32図 21号土坑出土遺物実測図 (縮尺1/3、ただし465は1/2)

高台が菱形の平面形をなす。445は磁器の蓋で、見込に松竹梅円形を描く。446・447は青磁の火入れで、ともに底部が蛇ノ目凹型高台である。448～458は陶器である。448・449・451・453は碗で、449は内外面にワラ灰釉?の流し掛けを施す高取系の製品である。453は陶胎染付で、見込は手書きの五弁花である。450は小杯で、外面に鉄軸の絵がある。452は小皿である。454は扁平な蓋で、外面に笹の葉がめぐらされている。455は中型の皿で、内面に刷毛目があり、見込は蛇ノ目軸剥ぎである。456・457は鉢で、内面にはともに刷毛目を施す。457は見込に重ね焼き痕があり、18世紀前半代の唐津の製品である。458は陶器の播鉢で、関西系(堺?)のものである。459は土師質土器の片口である。460～462は土師器の皿である。463は土鍾、464は紡錘車かと考えられる。465は黒石の碁石、466は鉄釘、467は煙管である。

## 22号土坑 (第41図)

22号土坑は21号土坑を切って北側に位置する。遺構検出面の標高は約3.6mである。遺構は平面形が円形に近く、大きさは検出面で長径1.14m・短径1.12mである。壁面は70°程度の角度で立ち上がり、深さは0.82mとやや深い。床面は皿状に窪む。遺構の用途は廃棄土坑の可能性がある。

遺物は陶器の碗・皿・猪口、磁器の小杯・蓋、土師質土器の焔炉、土師器の皿など中量の土器類と漆器が出土している(第33図)。468は磁器の小杯で、外面に草花文を描く。469は磁器の鉢状の器形を呈し口縁には蓋の受け部がある。470は磁器の蓋で、外面に花唐草文、内面に四方禪文を描く。471～473は陶器の碗で、471は鉄軸を施す天目か。473は内面に白土の流し掛けを施す。474は陶器の猪口で、外面に鶴を描き、高台の3ヶ所に切込がある。475は陶器の皿で、見込は蛇ノ目軸剥ぎである。476は土師器の皿である。477は土師質土器で、器形はちり取り形で、下端に円孔がある。478は土師質土器の焔炉である。

## 23号土坑 (第29図)

23号土坑は21号土坑の北西側に隣接し、24号土坑に切られる。遺構検出面の標高は約3.7mである。遺構の平面形は隅丸方形と推定され、大きさは検出面で長さ2.35mである。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、深さは0.63mである。床面は検出した範囲では平坦である。遺構の用途は廃棄土坑かと考えられる。

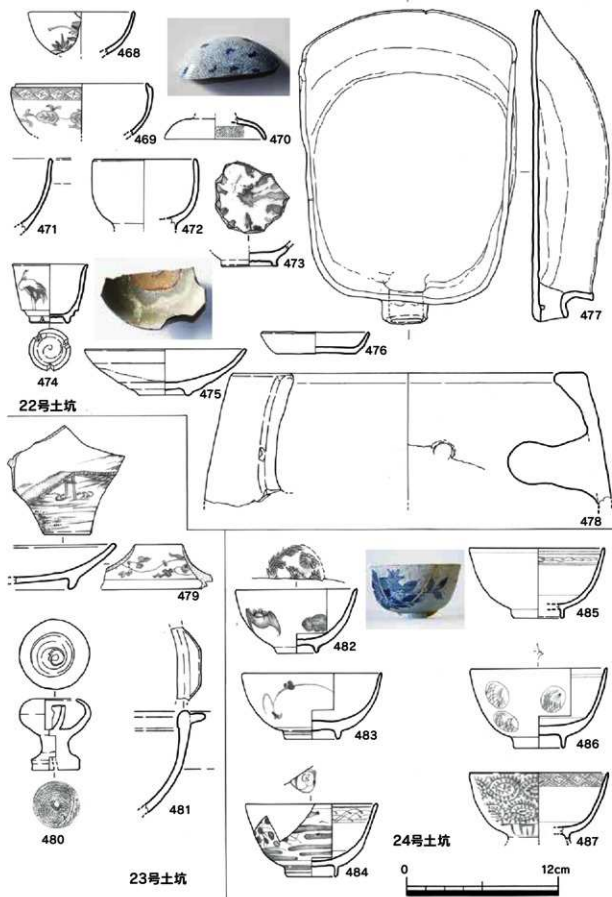
遺物は陶器の乗燭、磁器の皿、瓦質土器の火鉢、土師質土器の焙烙など中量の土器類と、木片・種子などが出土している(第33図)。479は磁器の皿で、外面に唐草文、内面に風景を描く。480は陶器の乗燭、481は土師質土器の焙烙であろう。

## 24号土坑 (第29図)

24号土坑は調査区中央部付近に位置し、23号土坑を切る。遺構検出面の標高は約3.7mである。遺構の平面形は基本的に隅丸方形で、大きさは検出面で長さ3.25m・幅2.75mと大型である。壁面はほぼ垂直に立ち上がると推定されるが、深さは0.30mまでしか掘削していない。遺構の用途は廃棄土坑と考えられる。

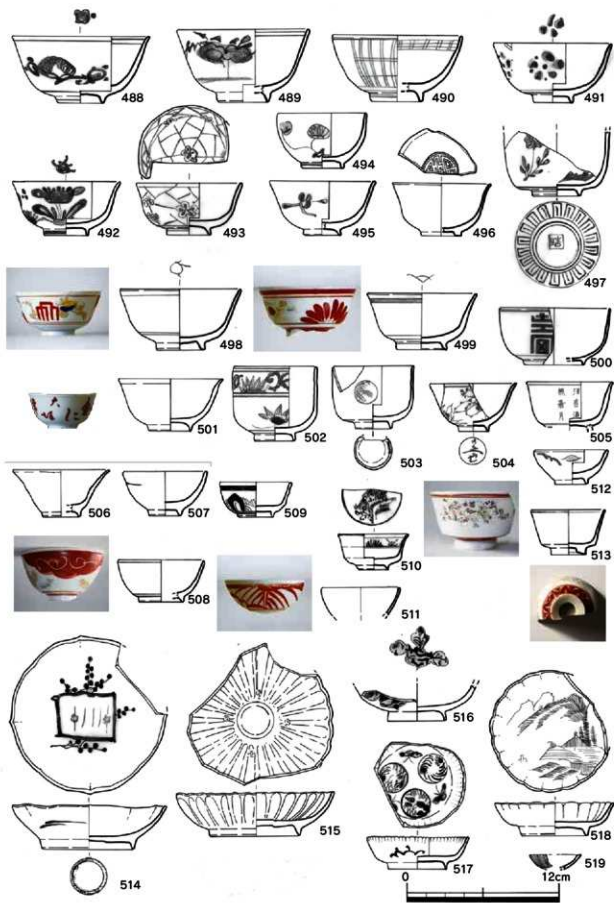
遺物は陶器の碗・小杯・皿・蓋・播鉢・猪口・急須・土瓶・鍋・行平・片口・火入れ・灯明受け皿・徳利・燭瓶・壺、磁器の碗・小杯・皿・紅皿・蓋・鉢・猪口・湯飲み・段重・合子・火入れ・仏飯器・瓶・蓮華、瓦器の焔炉・壺、瓦質土器の鉢・火鉢、土師質土器の蓋・急須・こね鉢・焙烙・焔炉・焔炉の火皿・火消し壺、土師器の皿・蓋など非常に多量の土器類の他、土製人形・硯・碁石などが出土している(第33図～第40図)。482～550は磁器である。このうち482～501は碗で、482は外面に蝙蝠・雲、見込に龍を配する。483は見込に蛇ノ目軸剥ぎを施す。484は端反で、外面に草花文、内面に青海波を描く。485は外面に石榴の花、内面に鎖つなぎを描き、焼き継ぎがある。486は外面にスキの丸文、



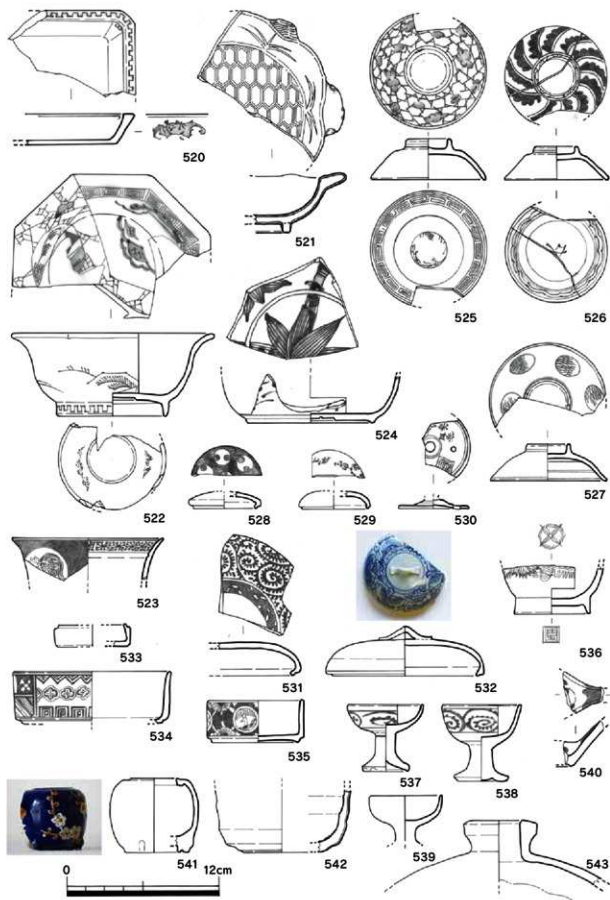


第33图 22号·23号·24号土坑出土遗物实测图(缩尺1/3)

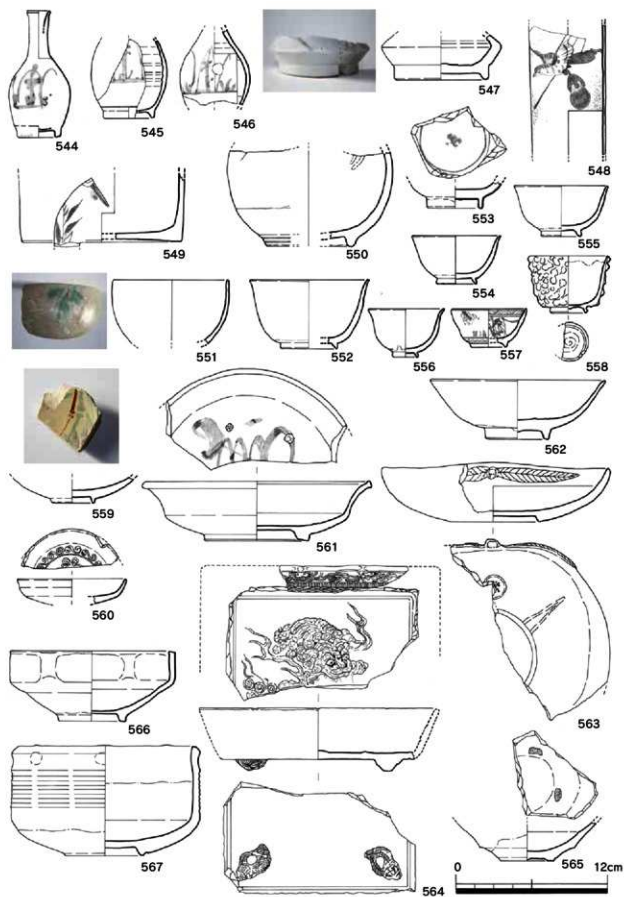
487 は外面に蛸唐草文・櫛齒文、内面に四方禪文を配する。488・489 は外面に草花文を描く。490 は内外面に二重格子を描く、1820～1860年代の肥前（波佐見）産である。491 は外面に梅花、492 は花文を配し、口縁はともに端反である。493 は内外面に梅花と氷裂文を描く。494 は外面に葵を描く瀬戸美濃系か。495 は口縁が端反で、口銹を施す。496 は白磁で、見込に「壽」の円形の型押がある。これも瀬戸美濃系か。497 は筒形に近く、外面に草花文・櫛齒文、見込に花文を配し、底面に銘がある。498～500 は色絵で、498 は朱・青・金色で外面に源氏香文・草花文を描く。499 は朱・金色で、外面に花文を描く。500 は器壁が薄く、朱・青・金色で外面に「壽」・花文を描く。501 は赤絵で、「〇に 大坂 常」の文字を書く。502・503 は湯飲みで、502 は外面に菊花文？・唐草文、503 はスキの丸文がある。504～513 は小杯である。504 は外面に草花文を描き、底面には銘がある。505 は外面に蘇軾の後赤壁賦の漢詩がある。506 は白磁である。508 は色絵で、朱・金色で外面に雲などを描く。509・511 は赤絵である。510 は見込に鯉の滝登りを描き、口縁には口銹を施す。513 は色絵で、黒・朱・黄・金・青色で外面に唐草？・花卉などを描く。514・515・517・518 は皿で、514 は見込に巻物・梅樹を描き、3ヶ所に目跡を残し、底部は蛇ノ目凹型高台である。515 は白磁の菊花皿で、底部は蛇ノ目凹型高台である。517 は見込に蝶と丸文を配し、口縁に染付の口銹をめぐらす。518 は見込に風景を描く。516 は碗で、外面と見込にかぶを描く、18世紀前半の朝妻の製品である。519 は白磁の紅皿である。520 は角皿で、外面に蝙蝠を描く。521 は青磁の皿で、全体的に亀形を呈し、内面は亀甲文の型打である。522～524 は鉢で、522 は八角形で、外面に風景・櫛齒文、内面に雷文・スキの丸文・松などを配し、底部は蛇ノ目凹型高台である。523 は内面の口縁直下に蓋を受ける段をめぐらし、文様は外面が鶏の窓絵、内面が七宝文である。524 は外面に草花文、内面に植物を描き、底部は蛇ノ目凹型高台である。525～532 は蓋である。525 は外面に梅花・氷裂文、内面に雷文、見込に松竹梅円形を配する。526 は外面にねじり花を描き、焼き継ぎがある。527 は外面にスキの丸文を描き、486の碗とセットになるものかもしれない。528 は瑠璃釉で、外面に分銅状の丸文があり、口縁に赤色顔料の付着がみられる。529 は合子の蓋状の器形で、外面に花文がある。530 は急須の蓋かと考えられ、外面に「〇楽年製」の文字と銘がある。531・532 は段重の蓋で、531 は外面には蛸唐草文・花文があり、532 は蝶・牡丹を配する。533 は白磁で、合子の身と考えられる。534・535 は段重で、534 は外面に花文・鋸齒文・雷文を描き、535 は丸文（人物・乗馬武士）と花を配する。536 は碗かと考えられ、外面に草花文、見込に十字花を描く。537～539 は仏飯器で、537・538 は外面に蛸唐草文を描くが、539 は緑釉の無文である。540 は蓮華である。541 は器種不明の瑠璃釉で、外面に梅樹（白土・茶色の釉）を描き、底部に3カ所の脚が付く。542 は青磁の火入れ、543 は染付の瓶かと考えられる。544～546 は小型の瓶で外面に草花文等を描く。547 は体部の張りが下位にある瓶である。548 は筒状の形態で器壁が薄く、外面に鷹・なすびを描き、吹墨がある。549 はやや大型の筒状で、底部に脚が付く。550 は体部が球形の瓶である。551～610 は陶器である。551～553 は碗で、551 は灰白色・薄緑色で外面に草花文を描く。553 は陶胎染付で、見込にコンニャク印判の五弁花を配す。554～556 は小杯で、554 は灰釉、555 は白色釉と透明釉、556 は灰釉と緑釉を施す。557・558 は猪口で、557 は外面に文字・櫛齒文、内面に竹などを細かく描く。558 は外面が虫喰軸状を呈し、高台に切込がある。559～561 は皿で、559 は色絵で内面に朱・黄緑色で竹を描く。560 は見込に花・唐草を白土の象嵌で描く、18C後半以降の肥後・八代窯産かと考えられる。561 も皿で、鉄釉で見込に「壽」の文字を書く。関西系か。562 は鉢で、見込は蛇ノ目刺ぎである。563 は器形が桃形の皿で、全面に黒色釉を施し、側面に双葉の貼付があり、外面に二重丸に「楽」の印判があることから、楽焼であろう。564 は緑釉を用いた角皿で、型押で内面に花唐草文、見込に獅子を配する。底



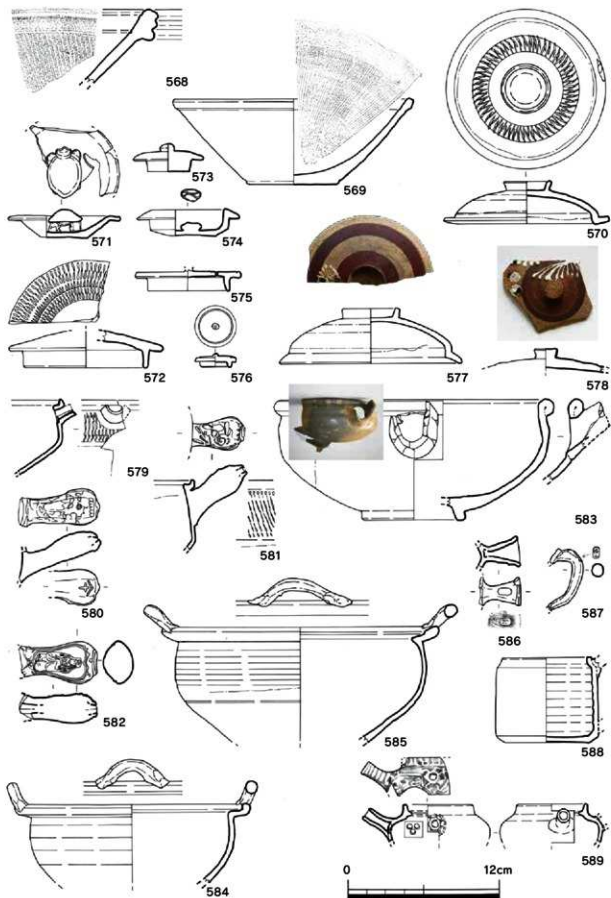
第34图 24号土坑出土遺物実測図1(縮尺1/3)



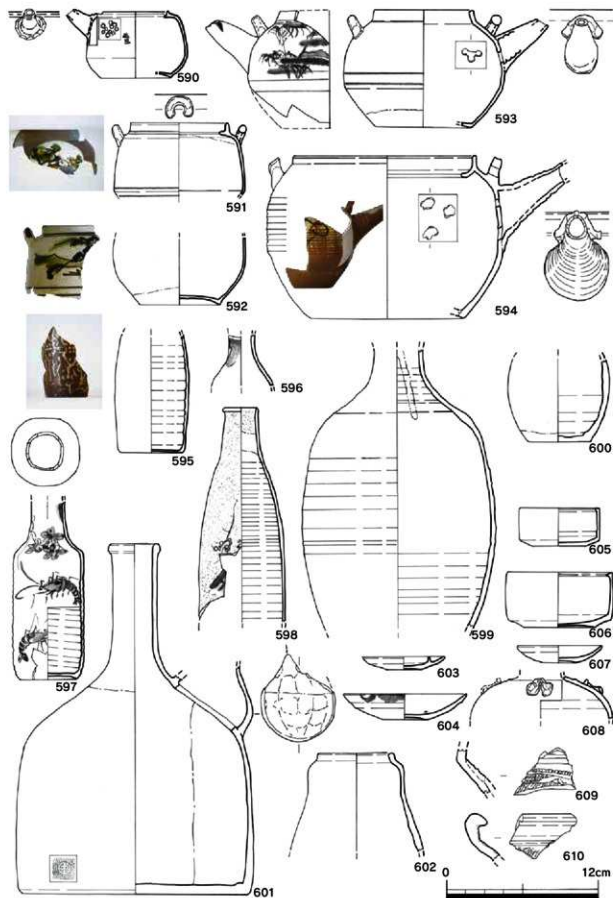
第35图 24号土坑出土遺物実測図2(縮尺1/3)



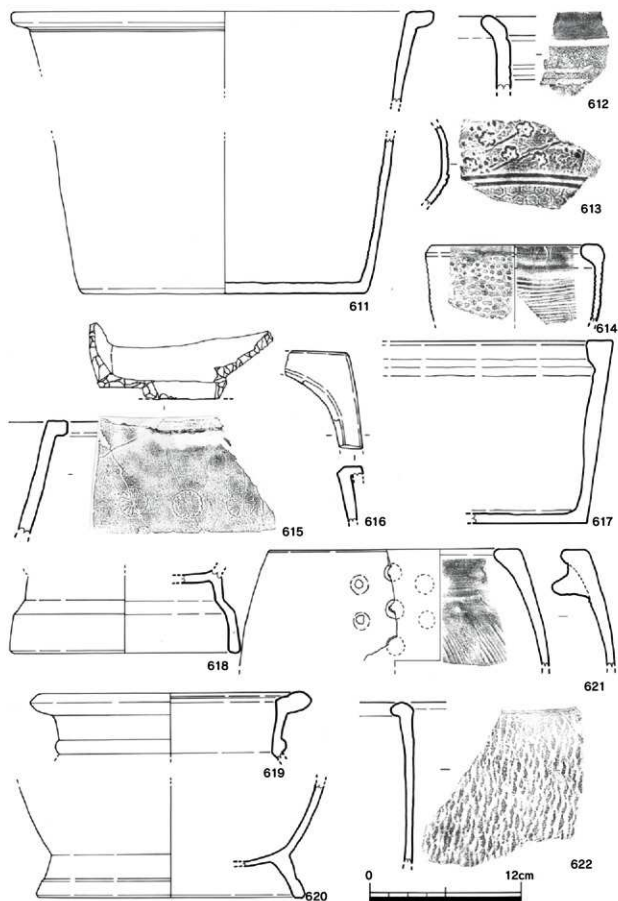
第36图 24号土坑出土遺物実測図3 (縮尺1/3)



第37图 24号土坑出土遗物实测图4 (缩尺1/3)

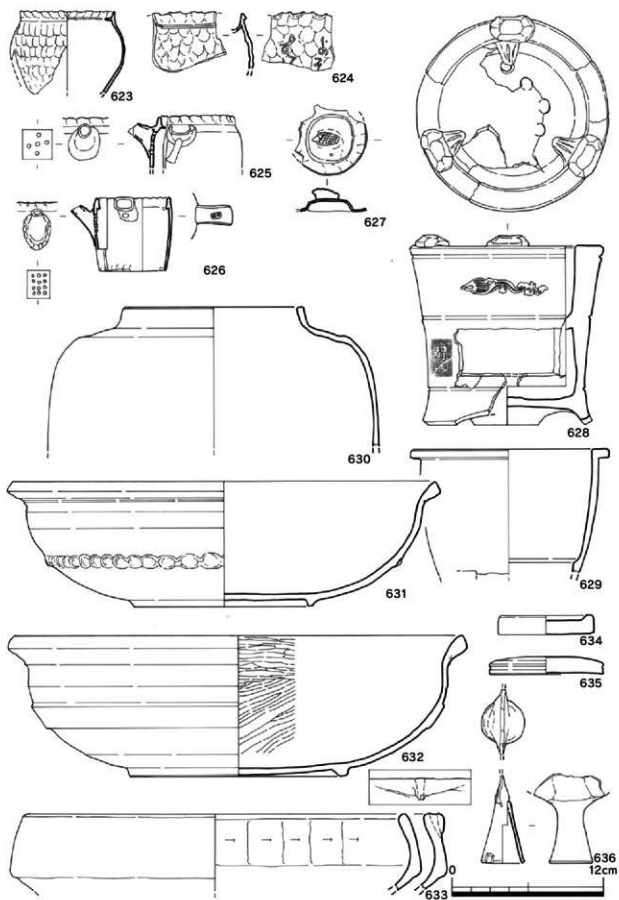


第38图 24号土坑出土遺物実測図5 (縮尺1/3)



第39图 24号土坑出土遺物実測図6 (縮尺1/3)





第40图 24号土坑出土遗物实测图7(缩尺1/3)

部の四隅には巻貝を模した脚が付く。565も皿かと考えられるが、器高がやや高く、見込に目跡が残る。566・567は鉢である。566は八角形で、見込の3ヶ所に目跡がある。567は体部が直立する器形である。568・569は摺鉢で、ともに鉄軸を施し、568は塀産かと考えられる。570～578は蓋である。570は外面に鉄軸と飛び鉋を施す関西系で、18世紀後半のものである。571はつまみに亀形を付ける。573はワラ灰軸を使用する。576は小型で、茶壺等の蓋か。577・578は飛び鉋以外に、白土・緑軸を用い外面に花文等を描く。579～582は行平である。579・581は外面上半に飛び鉋を施す。580・582は取手の破片である。583は片口、584・585は鍋である。鍋には鉄軸が施されている。586～590は急須で、587の取手には「松山」の刻印がある。588の器形は円筒形である。589は緑軸を用いて外面に草花文を描く。590は外面に「虫？」の刻印がある。591～594は土瓶である。591・592は鉄軸・白土・青緑軸などを用いて外面に風景などを描く、関西系である。593は外面に竹、594は草花文を描く。595～598・600は瓶である。595は外面が白土の流し掛けて、18世紀後半～19世紀前半の小石原系である。596は外面が緑軸の流し掛けてである。597は平面形が隅丸方形で器壁が薄く、海老・草花文を配する。598は梅樹を描き全体に吹墨を施す。599は徳利で、鉄軸と灰軸を使用する。601は煙瓶で、鉄軸・灰軸・透明軸を施し、底面に「㊦」の刻印を押す。602は器種不明であるが、茶壺の可能性もある。603は灯明受け皿、604は灯明皿である。605・606は火入れで、小型のものである。607もススが附着することから灯明皿として使用されていたようだ。608は四耳壺で灰軸を施す。609・610は壺かと考えられ、609は凸帯に櫛歯の刺突文があり、緑色と鈍い朱色の軸を施す。610は緑軸を施す。611～622は瓦器または瓦質土器である。611は鉢で、広い平底に、体部が直線的に外上方に立ち上がり、口縁が水平に短く反する器形である。612～614・616・617は火鉢である。613の体部には松竹梅・亀甲文の型押文様がある。615は板作りの器種不明品で、外面に菊花の印判を押す。617は平面形が方形の製品である。618は火鉢や壺状の器の脚部である。619・620は壺かと考えられる。621は焜炉で、在地の製品であろう。622は器種不明で、外面に回転印文を施す。623～636は土師質土器である。623～626は急須で、関西系のものである。624の外面にはひら仮名がへら書きされている。625・626は板作りで、626の取手の下面には「琴橋」の刻印がある。627の蓋のつまみは松ぼっくりを模している。628・629は焜炉である。628は体部上半に籠状の押型があり、下半には「博多利三良」の刻印がある。630は火消し壺である。631・632はこね鉢、633は焙烙である。631の外面には波状の突帯、632は低平な突帯をめぐらす。633は18世紀前半頃の関西系と考えられる。634・635は蓋かと考えられ、634は焼壺壺のものか。636は器種不明で、取手の部品か。637～640は土師器の皿である。641は硯、642は陶製品の人物と犬の形である。

## 25号土坑 (第41図)

25号土坑は24号土坑の北西に隣接し、26号土坑を切るが、西側の大半が調査区外となっている。遺構検出面の標高は約3.4mである。遺構の平面形は不明であるが、大きさは検出した範囲で3.50mをはかる。壁面は大きく開くものと考えられ、深さは0.10mまでしか掘削していない。遺構の用途は廃棄土坑かと考えられる。

遺物は陶器の碗・鉢・摺鉢・燗壺、磁器の碗・小坏、土師質土器のこね鉢・甕、土師器の皿など中量の土器類の他、砥石が出土している(第42図)。643～645は磁器の碗である。643は内外面に網目文、見込に花文を描き、底面に渦福の銘がある。1700～1750年代の肥前の製品である。644はくらわんか手で、外面に折枝文・雪輪草花文を描く。645は色絵で、外面に草花文・鳥を描く。646は陶器の碗である。647は陶器の鉢で、底部は蛇ノ目高台である。648は土師質土器の甕である。649は陶

器の挿鉢、650は陶器の乗燭である。651は土師質土器のこね鉢で、外面に波状の突帯をめぐらす。652は土師器の皿である。653は鉄製の鏡である。

#### 26号土坑 (第41図)

26号土坑は25号土坑に切られて北東側に位置し、西側は調査区外となっている。遺構検出面の標高は約3.4mである。遺構の平面形はやや不整形な方形に近いものと推定され、大きさは検出した部分で長さ1.64mである。壁面は垂直に近く立ち上がり、深さは0.30mまで掘削したが床面に達していない。遺構の用途は廃棄土坑かと考えられる。

遺物は陶器の碗・皿・湯飲み・徳利・茶壺・甕、磁器の碗・蓋・紅皿、瓦質土器の火鉢、土師質土器の焙烙、土師器の皿などの多量の土器類とともに、砥石・銅銭などが出土している(第42図・第43図)。654～657は磁器の碗である。文様は654が外面に風景(山水)と折れ松葉、655が内外面に輪宝繁文、見込に五弁花、656が外面に龍と雲、657は見込に昆虫を描く。658は磁器の蓋で、外面の文様は丸文散らしてある。659は白磁の紅皿である。660～662は陶器の碗である。660は筒形の器形で、陶胎染付で外面に丸文を描く。661は内外面とも流し掛けて、上野・高取系である。663は陶器の皿で、見込と高台端部に砂目跡がある。664は陶器の甕で、鉄軸とワラ灰軸を施す。665は陶器の瓶の底部で、外面に墨書がある。666は陶器の器種不明品で、胎土が黒色で、外面の下端に三角形の中に短剣状のものを配した文様をめぐらしている。667は陶器の茶壺である。668は瓦質土器の火鉢で、外面に馬と「河濱亭」の刻印がある。669は土師器の皿で、670は土師質土器の焙烙である。671は砥石で、石材は天草石である。672は寛永通寶である。

#### 27号土坑 (第41図)

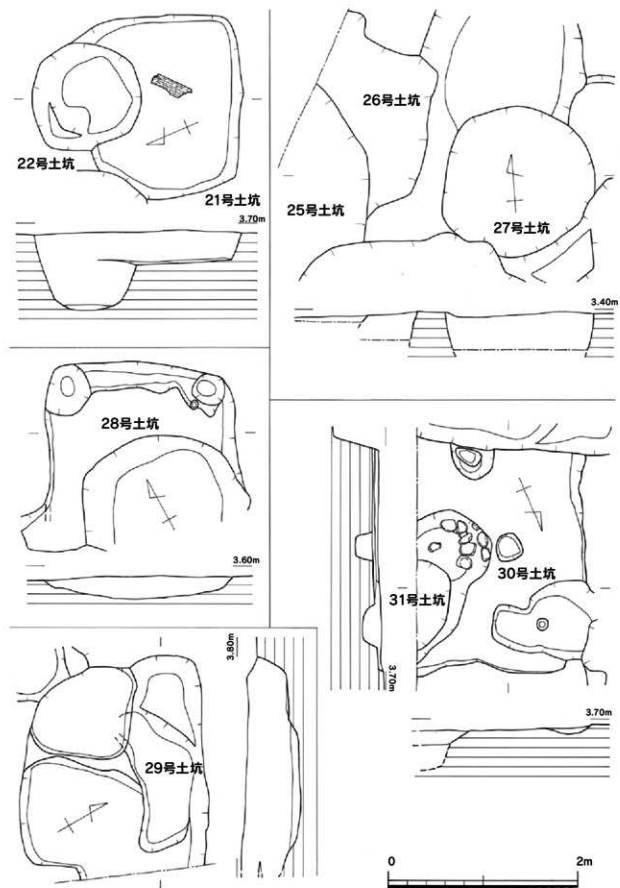
27号土坑は26号土坑の東側に隣接し、遺構検出面の標高は約3.4mである。遺構の平面形はほぼ円形で、大きさは検出面で長径1.60m・短径1.58mである。壁面は垂直に近く立ち上がり、深さは0.44mまで掘削したが床面には達していない。遺構の用途は廃棄土坑かと考えられる。

遺物は陶器の碗・挿鉢・灯明受け皿、磁器の碗・小杯・皿・蓋・油壺、土師器の皿などの多量の土器類とともに、漆器・軒棧瓦・砥石・銅銭などが出土している(第43図)。673～681は磁器である。673・674は碗で、外面に673は風景(山水)と折れ松葉、674は花と虫を描く。675は小杯で、外面に草文と、濃み地白抜き文の唐草文を施す。676は白磁の小杯である。677は皿で、外面に唐草文、見込に五弁花を配し、底部は蛇ノ目型高台である。1730～1780年代の肥前の製品である。678・679は蓋で、文様は678では外面に草花文、内面に四方禪文、見込に丸文を配する。679は外面に菊花文を描く。680は色絵の油壺であろう。681は器種不明品の取手部と考えられ、ワラ灰軸を施す。682～686は陶器である。682・683は無文の碗である。684は器種不明の小片で、唐草文の型打に緑軸を施す。685は灯明受け皿、686は挿鉢である。687～691は土師器の皿である。692は砥石で、石材は天草石であろう。693は「寛永通寶」の文銭である。694は軒棧瓦で、丸瓦部分は左三ツ巴である。

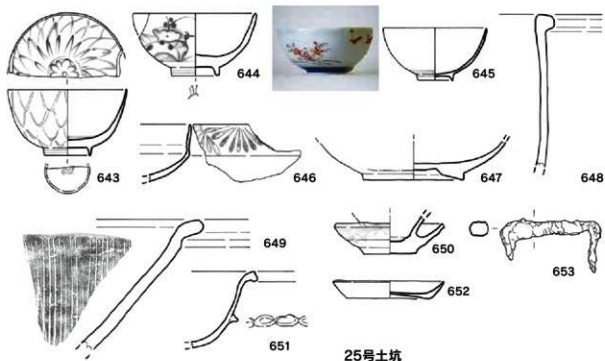
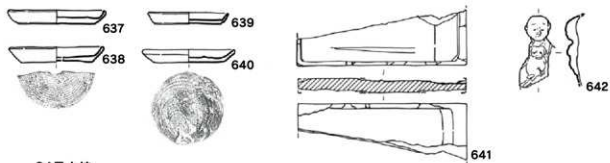
#### 28号土坑 (第41図)

28号土坑は26号土坑の北東側に隣接し、南側は他の土坑に切られている。遺構検出面の標高は約3.5mである。遺構の平面形は方形で、大きさは検出面で2.10mである。壁面は大きく開きながら立ち上がり、深さは0.23mと浅い。床面は皿状にやや窪み、北側と東側の隅には径35cm～45cmの円形ピットがあり、両者をつなぐ北東辺の壁際では幅25cm前後の溝状遺構が検出された。遺構の用途は廃棄土坑かと考えられる。

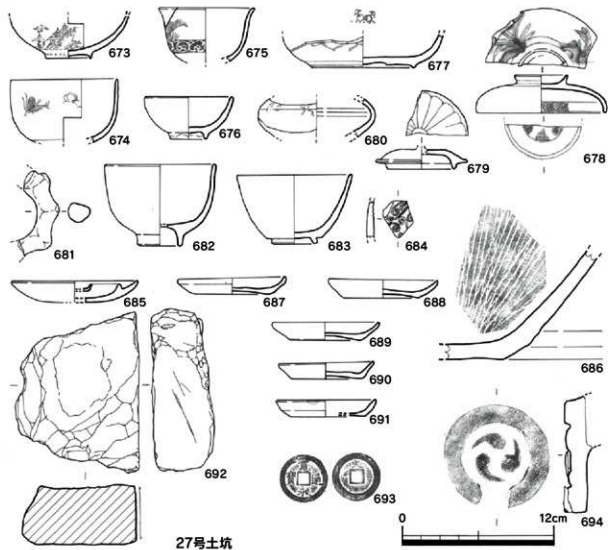
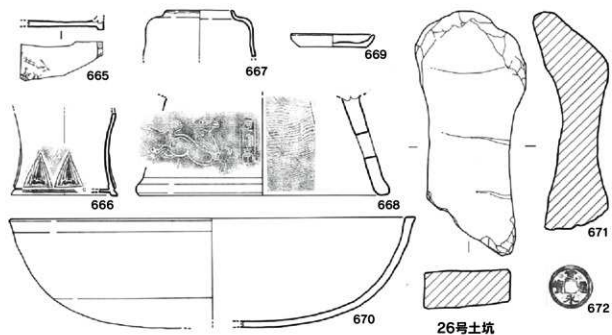
遺物は陶器の碗・鉢・火入れ・甕、磁器の碗・小杯・皿・蓋、瓦質土器、土師質土器のこね鉢・焙烙・壺・甕、土師器の皿などの中量の土器類とともに、丸瓦が出土している(第44図)。695・696は磁器の碗で、



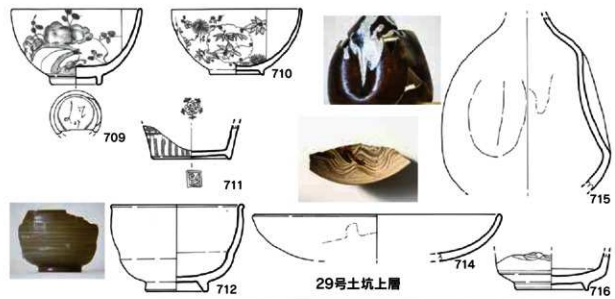
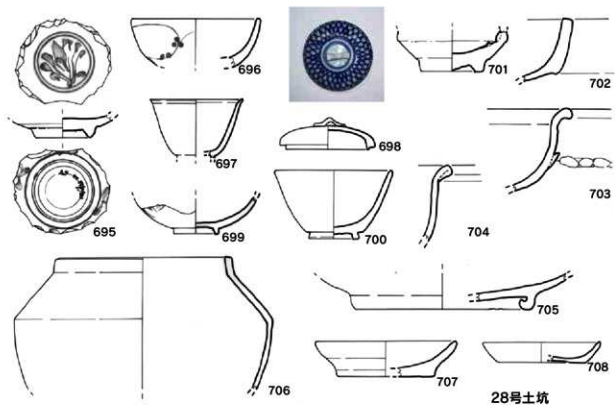
第41图 土坑实测图4 (缩尺1/40)



第42图 24号·25号·26号土坑出土遗物实测图(缩尺1/3)



第43図 26号・27号土坑出土遺物実測図(縮尺1/3、ただし672・693は1/2)



第44图 28号土坑·29号土坑上層·29号土坑中層出土遺物实测图(縮尺1/3)

695 は見込に草文を描き、底面に砂目跡が残る。696 は外面に梅樹を描く、くらわんか手か。697 は白磁の小杯である。698 は磁器の蓋で、外面に網目文がある。699・700 は陶器の碗で、699 は外面に草花文を描く色絵である。701 は陶器の器種不明品である。702 は土師質土器の焙烙、703～705 はこね鉢、706 は壺である。703 の外面には波状の突帯をめぐらす。707・708 は土師器の皿である。

### 29号土坑 (第41図)

29号土坑は調査区中央部の東側壁面近くに位置し、30号土坑を切り、2号建物跡のP6・P7に切られる。遺構検出面の標高は約3.8mである。遺構の平面形は基本的に隅丸方形を呈し、大きさは検出面で長さ2.25m・幅1.97mである。壁面は70°程度の角度で立ち上がり、深さは最深部で0.45mである。床面は東部の一部が一段低くなっている。遺構の用途は廃棄土坑と考えられる。

遺物は陶器の碗・皿・鉢・播鉢・片口・徳利、磁器の碗・小杯・皿・紅皿・蓋・猪口・水滴、土師質土器の片口・焙烙・甕、土師器の皿などの多量の土器類とともに、砥石・煙管が出土している(第44図・第45図)。709～716は上層出土品である。709・710は磁器の碗で、文様は709では外面に梅・草花文、710は外面に雪輪文・松竹梅?を施す。711は磁器の猪口で、見込に五弁花、底面に渦福を描く。712・713は陶器の碗で、712は内外面に刷毛目を施す。713は見込に目跡がある。714は陶器の皿で、内面に白土と鉄軸で波状文の刷毛目をめぐらす。715は陶器の徳利で、体部を一部へこませ、鉄軸にワラ灰軸を流し掛けする。18世紀前半代の高取系か。716は磁器の器種不明品である。

717～724は中層出土品である。717は磁器の碗で、外面に丸文を描く。718は磁器の色絵の小杯で、外面に花見風景?(鳥・梅樹・緑台?)、内面に花文を配する。肥前の1710～1740年代の製品か。719は磁器の水滴で、外面に型押しと染付で鳥・木を描く。720は土師器の皿である。721は陶器の大型の播鉢で、高台下半には漆喰状の付着物がある。722は土師質土器の焙烙である。723は土師質土器の大甕で、口径約44.0cmをはかり、内面には青海波タタキのちなデの調整痕がある。724は煙管である。

725～730は下層出土品である。725は磁器の皿で、内外面に草花文を描く。726は磁器の蓋で、外面に草花文・網目文を施し、1710～1740年代の肥前の製品である。727は白磁の紅皿である。728は陶器の片口で、刷毛目によって外面に波状文、内面に渦文をめぐらす。729は陶器の鉢で、内面に刷毛目の波状文をめぐらし、見込に目跡がある。18世紀前半代の唐津の製品である。730は土師質土器の片口で、高村産である。

### 30号土坑 (第41図)

30号土坑は29号・31号土坑に切られ、東側が調査区外となっている。遺構検出面の標高は約3.7mである。遺構の平面形は方形かと考えられ、大きさは検出長2.32mである。深さは最深部でも0.06mとごく浅く、床面は水平な平坦面をなす。遺構の用途は不明である。

遺物は磁器の皿、土師器の皿が少量出土している(第46図)。731は磁器の皿で、見込に鳥と雲を描く。732は土師器の皿である。

### 31号土坑 (第41図)

31号土坑は30号土坑を切り、2号建物跡のP8と切り合い、東側は調査区外となっている。遺構検出面の標高は約3.7mである。遺構の平面形は不明である。大きさは検出長0.98mである。深さは調査範囲内の最深部で0.45mである。遺構の用途は不明である。

遺物は陶器の皿、磁器の湯飲み・皿・蓋、土師質土器の焙烙、土師器の皿などが少量出土している(第46図)。737は磁器の湯飲みで、型紙摺りにより外面に菊花文・櫛歯文、内面に輪宝繁文を施文する。



19世紀後半の肥前製か。738は土師質土器の焙烙で、関西系である。

### 32号土坑 (第47図)

32号土坑は24号土坑の東側に隣接し、上面を33号土坑に切られる。遺構検出面の標高は約3.8mである。遺構の平面形は隅丸長方形で、大きさは33号土坑の床面で長さ1.82m・幅1.25mである。壁面は60°程度の角度で開きながら立ち上がり、床面の深さは検出面から1.13mと深い。床面は中央部付近が不整形に深さ0.10m程度窪む。遺構の用途は不明である。主軸の方位はN-74°-Wである。

遺物は陶器の碗・鉢・播鉢・火入れなどの土器類と木製品・獣骨が中量出土している(第46図)。733は陶器の碗で、鉄軸を施す。734は陶器の火入れ、735は陶器の鉢で、ともに釉薬は灰赤か。736は陶器の播鉢で、鉄軸を施し、1600～1650年代の肥前製である。獣骨は牛馬等の歯である。

### 33号土坑 (第47図)

33号土坑は27号土坑の東側に隣接し、32号・53号土坑を切る。遺構検出面の標高は約3.8mである。遺構の平面形は隅丸長方形で、大きさは検出面で残存長3.85m・幅3.34mとやや大型である。壁面は垂直に近く立ち上がり、深さは0.73mである。床面はほぼ水平な平坦面を呈する。遺構の用途は不明であるが、出土遺物がごく少ないことから廃棄土坑ではないと考えられる。

遺物は磁器の小坏、土師器の皿などが少量出土している(第46図)。739は白磁の小杯である。740は土師器の坏で、底部に板目が残る。

### 34号土坑 (第47図)

34号土坑は33号土坑の東側に位置し、36号土坑と切り合い、東側は調査区外となっている。遺構検出面の標高は約3.8mである。遺構の平面形は東西方向に長い溝状を呈し、大きさは検出長2.24m・幅1.30mである。壁面は垂直に近く立ち上がり、深さは0.61mである。床面は水平に近い。遺構の用途は廃棄土坑かと考えられる。主軸の方位はN-76°-Wである。

遺物は陶器の灯明受け皿、磁器の碗・皿・猪口・双耳瓶、土師質土器の焙烙・甕、土師器の皿、土製人形などが中量出土している(第46図)。741～743は磁器の碗である。741・743は染付で、文様は741が外面に唐草文、743が外面に丸文を描く。742は青磁で、見込にへら彫りがあり、龍泉窯系である。744は磁器の猪口である。745は青磁の双耳瓶で、耳部は半環状を連ねる。746は磁器の皿で、外面に唐草文、内面に菊花文、見込に五弁花を配し、底面には「大明年製」と想定される銘がある。747は陶器の灯明受け皿、748は土師質土器の甕である。749～751は土師器の皿である。752は土人形の大黒天である。

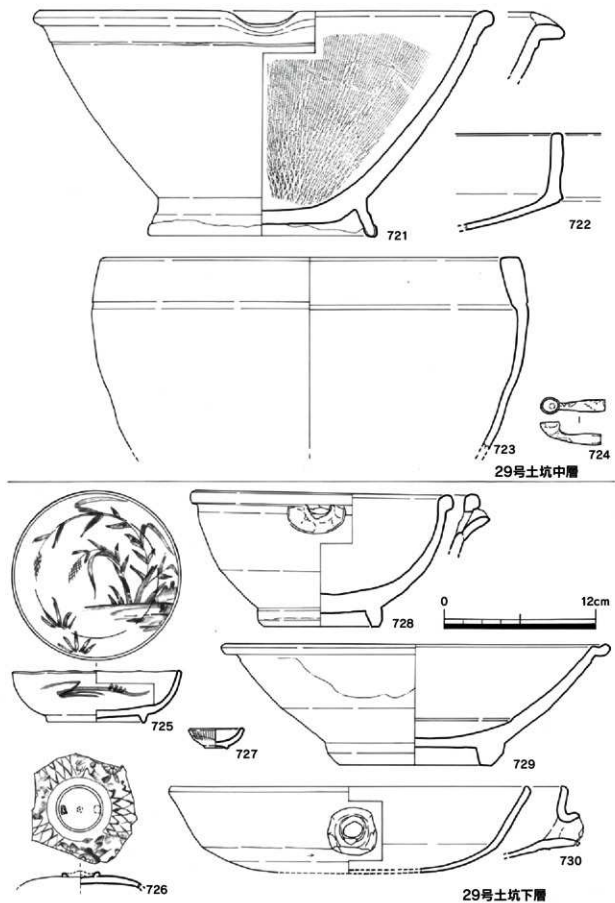
### 35号土坑 (第47図)

35号土坑は34号土坑の北側に隣接し、3号不整形土坑と切り合い、東側は調査区外となっている。遺構検出面の標高は約3.8mである。遺構の平面形はやや不整形で、大きさは検出した部分で長さ1.63m・幅0.90mである。深さは0.46mまで掘削したが床面に達していない。遺構の用途は廃棄土坑である。

遺物は磁器の碗・小坏、土師質土器とともに軒平瓦等の瓦類が多量に出土している(第46図)。753は磁器の碗で、見込の絵柄はコウモリか。754は磁器の胎軸の小杯で、外面に喫茶する人物他と「〇風雅」の文字が書かれている。755・756は軒平瓦で、755が柏葉文、756が楯文である。

### 36号土坑 (第47図)

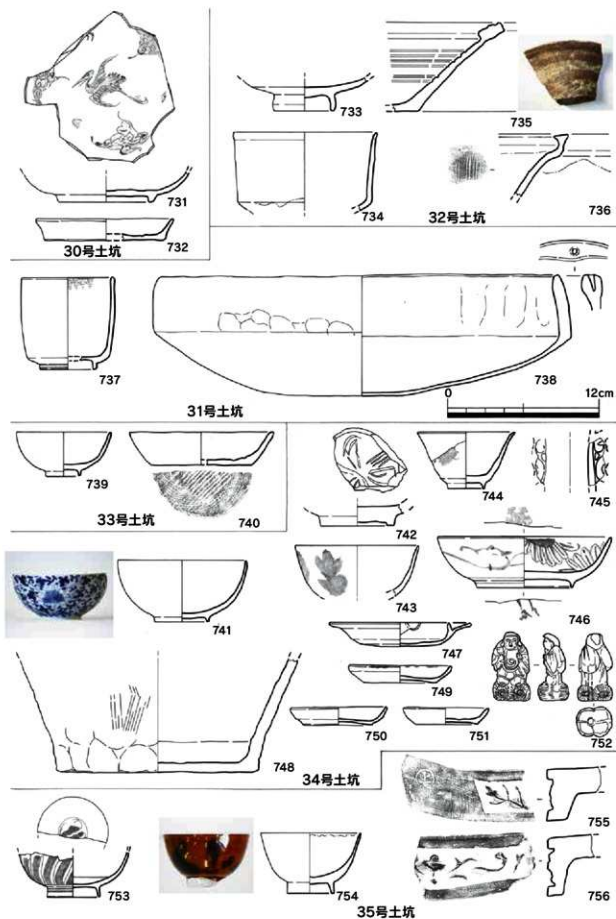
36号土坑は35号土坑の西側に位置し、53号土坑を切り、34号土坑と切り合う。遺構検出面の標高は約3.8mである。遺構の平面形は円形に近く、大きさは検出面で長径1.13m・短径1.03mである。壁面は垂直に近く、深さは0.85mとやや深い。床面は水平である。遺構の用途は廃棄土坑かと考えら



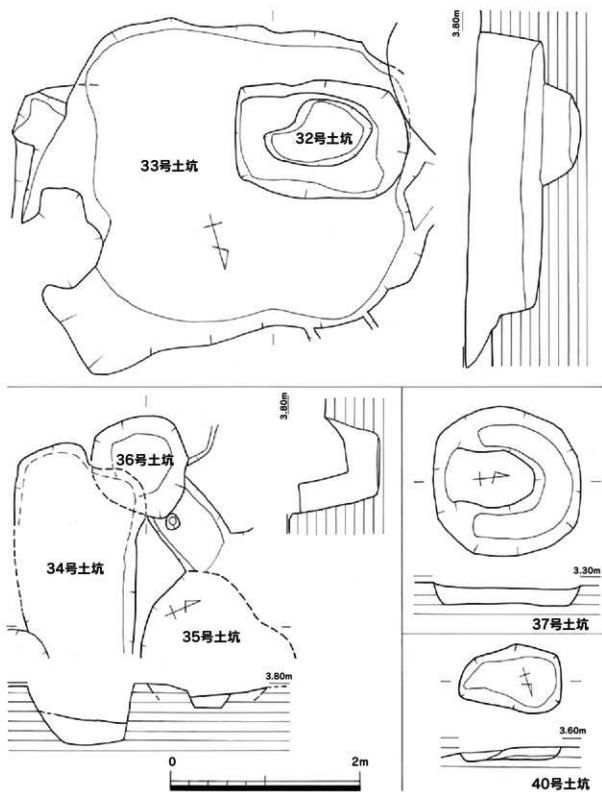
29号土坑中層

29号土坑下層

第45図 29号土坑中層・29号土坑下層出土遺物実測図(縮尺1/3、ただし723は1/4)



第46图 30号·31号·32号·33号·34号·35号土坑出土遗物实测图(缩尺1/3)



第47图 土坑实测图5(缩尺1/40)

れる。

遺物は陶器の皿、磁器の碗・湯飲み・油壺、土師質土器の焙烙、土師器の皿など中量の土器類と漆器が出土している（第48図）。757は磁器の碗、758は磁器の湯飲みである。759は磁器の油壺で、鉄軸と青磁を併用している。760は陶器の皿で、内面に刷毛目を施す。761は土師質土器の焙烙、762・763は土師器の皿である。

### 37号土坑（第47図）

37号土坑は調査区のやや北部に位置し、遺構検出面の標高は約3.3mである。当遺構周辺から北側は広範囲にわたって削平による攪乱を受けている。遺構の平面形はほぼ円形で、大きさは検出面で長さ1.57m・短径1.55mである。壁面は70°程度の角度で立ち上がり、深さは検出面から最深部で0.35mである。床面は中央部と南側を囲むように馬蹄形に窪んでいる。遺構の用途は不明である。

遺物は磁器の碗・猪口、土師器の皿などが中量出土している（第48図）。764は磁器の碗で、外面に花文を施す。765は磁器の猪口、766～769は土師器の皿である。

### 38号土坑（第49図）

38号土坑は37号土坑の南側に位置し、39号土坑に切られる。遺構検出面の標高は約3.7mである。遺構の平面形は隅丸方形で、大きさは検出面で残存長1.40m・幅1.33mである。壁面は50°程度の角度で開きながら立ち上がり、深さは0.57mである。遺構の用途は廃棄土坑かと考えられる。主軸の方位はN-72°-Wである。

遺物は陶器の碗・皿・徳利、磁器の瓶、土師器の皿など中量の土器類と砥石・煙管が出土している（第48図）。770は青磁の瓶で、高台内側に砂目跡がある。771は陶器の碗で、鉄軸を施し、天目か。772は陶器の皿で、1610～1650年代の肥前の製品と考えられる。773・774は陶器の徳利で、774は觚形である。775は土師器の皿である。776は煙管で、木質が残存する。

### 39号土坑（第49図）

39号土坑は33号土坑の北側に位置し、38号土坑を切る。遺構検出面の標高は約3.7mである。遺構の平面形は隅丸方形に近く、大きさは検出面で長さ1.42m・1.25mである。壁面は垂直に近く立ち上がり、深さは0.93mとやや深い。床面は水平な平坦面をなす。遺構の用途は不明である。

遺物は土師器の高坏や土錘・木製品が少量出土している（第48図）。777は土師器の高坏で、8世紀代のものか。778は土錘である。

### 40号土坑（第47図）

40号土坑は39号土坑の西側に位置し、遺構検出面の標高は約3.5mである。遺構の平面形は基本的に隅丸長方形を呈し、大きさは検出面で長さ1.07m・幅0.68mである。壁面はやや開きながら立ち上がり、深さは0.27mとやや浅い。床面は東側がやや低くなっている。遺構の用途は不明である。主軸の方位はN-71°-Wである。

遺物は磁器の小杯と煙管などが少量出土している（第48図）。779は磁器の小杯、780は煙管である。

### 41号土坑（第49図）

41号土坑は40号土坑の西側に位置し、1号不整形土坑を切り、西側は調査区外となっている。遺構検出面の標高は約3.6mである。遺構の平面形は方形に近いものと推定され、大きさは検出部分で長さ2.02m・幅0.88mである。壁面は開きながら立ち上がり、深さは0.20mまで掘削したが床面に達していない。遺構の用途は不明である。

遺物は陶器の皿・徳利、磁器の碗などが少量出土している（第48図）。781は磁器の碗で、底面に銘がある。782は白磁の碗で、口縁が玉縁を呈する。783は陶器の皿、784は陶器の徳利か。

#### 42号土坑 (第49図)

42号土坑は調査区北部で41号土坑の北西に位置し、43号土坑と切り合う。遺構検出面の標高は約3.5mである。遺構の平面形は楕円形に近く、大きさは検出面で長径1.56m・短径1.24mである。壁面はやや開きながら立ち上がり、深さは検出面から0.61mである。床面は水平な平坦面をなすが、中央部付近で浅いピットが検出された。遺構の用途は廃棄土坑かと考えられる。

遺物は陶器の碗、磁器の皿、土師器の皿など中量の土器類の他、土人形・碁石・銅銭などが出土している(第48図)。785は磁器の皿で、見込の文様は不明である。786は陶器の碗で、高台内側に砂目跡がある。787は土師器の皿、788は動物の土人形である。789は黒石の碁石、790は銅銭であるが種別は不明である。

#### 43号土坑 (第49図)

43号土坑は42号土坑と北側で切り合い、遺構検出面の標高は約3.5mである。遺構の平面形はやや不整形で、大きさは検出面で長さ2.06m・幅1.50mである。壁面は70°程度の角度でやや開きながら立ち上がり、深さは0.56mである。床面はほぼ水平な平坦面をなし、長さ30cmの円礫が検出された。遺構の用途は不明である。

遺物は土師器の皿と鉄釘が少量出土している(第50図)。791は土師器の皿、792は鉄釘である。

#### 44号土坑 (第49図)

44号土坑は43号土坑の北側に位置し、45号土坑を切る。遺構検出面の標高は約3.5mである。遺構の平面形は楕円形に近く、大きさは検出面で長さ1.14m・幅0.79mである。深さは0.17mと浅く、床面は水平な平坦面をなす。床面のやや北西部で長径0.37mのピットが検出された。遺構の用途は不明である。

遺物は出土していない。

#### 45号土坑 (第49図)

45号土坑は西側が44号土坑に切られる。遺構検出面の標高は約3.5mである。遺構の平面形は楕円形に近く、大きさは検出面で長径1.35m・短径1.22mである。壁面は65°程度の角度で開きながら立ち上がり、深さは0.33mである。床面はやや皿状に窪む。遺構の用途は廃棄土坑と考えられる。

遺物は陶器の碗・鉢・播鉢・甃、磁器の皿・鉢・猪口・瓶、土師器の壺壺などの中量の土器類と土製円板・獸骨などが出土している(第50図)。793～795は磁器の皿で、793の内面は花卉の型打で、見込には花文を描く。1610～1630年代の肥前の製品である。794は型打の角皿で、内面から見込に唐草文を描く。795は瑠璃釉で、見込は型打の雲か。796は白磁の猪口、797は磁器の瓶で外面に花文を施す。798は青磁の鉢で、底面に輪状に鉄軸を施している。799・800は陶器の碗で、799は陶胎染付で外面に唐草文を描く。801は陶器の鉢で、内面に刷毛目と流し掛けがみられる。802は陶器の播鉢、803は陶器の甃で褐釉を施す。804は土師器の壺壺、805は土製品の円板で瓦質土器を転用している。

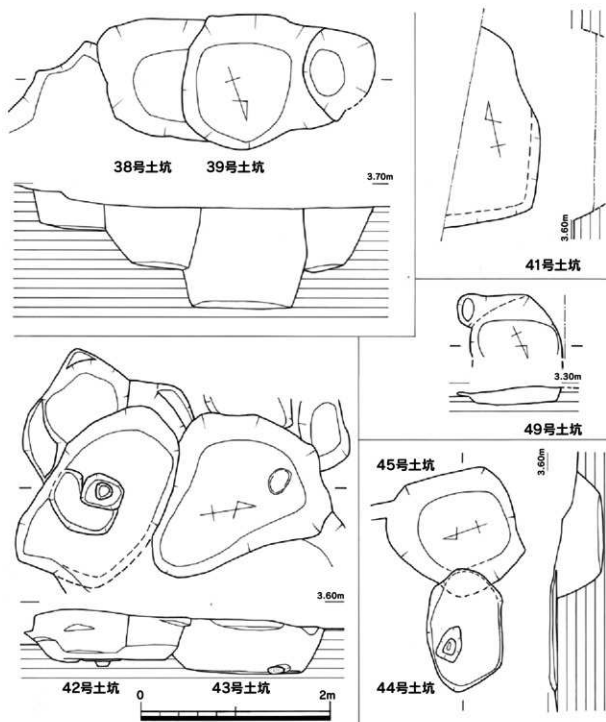
#### 46号土坑 (第51図)

46号土坑は調査区の北端部近くに位置し、1号不整形土坑と切り合う。遺構検出面の標高は約3.7mである。遺構の平面形はほぼ円形で、大きさは検出面で径0.96mである。壁面は65°程度の角度で開きながら立ち上がり、深さは0.36mである。床面は中央部がやや窪む。遺構の用途は不明である。

遺物は陶器の蓋・土瓶、磁器の小坏、瓦器の火鉢、土師器の坏・蓋などが少量出土している(第50図)。806は磁器の小坏で、外面に松葉と折れ松葉を配する。807・808は陶器の土瓶で、807はワラ灰釉、808は鉄釉を施す。809は陶器の蓋で、外面に飛び鉋をめぐらす。810は瓦器の火鉢、811は土師質

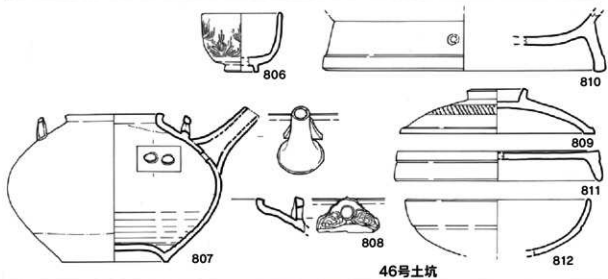
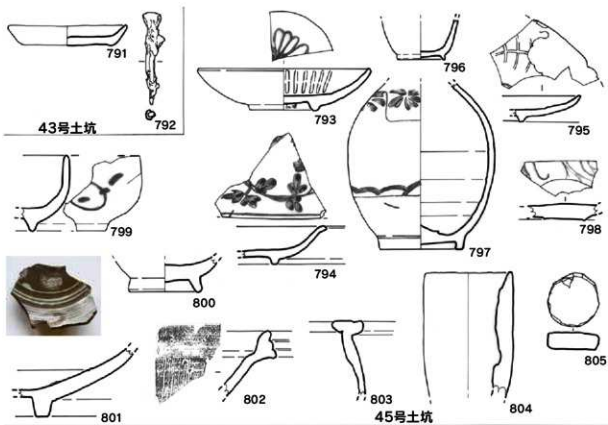


第48図 36号・37号・38号・39号・40号・41号・42号土坑出土遺物実測図(縮尺1/3、ただし789・790は1/2)

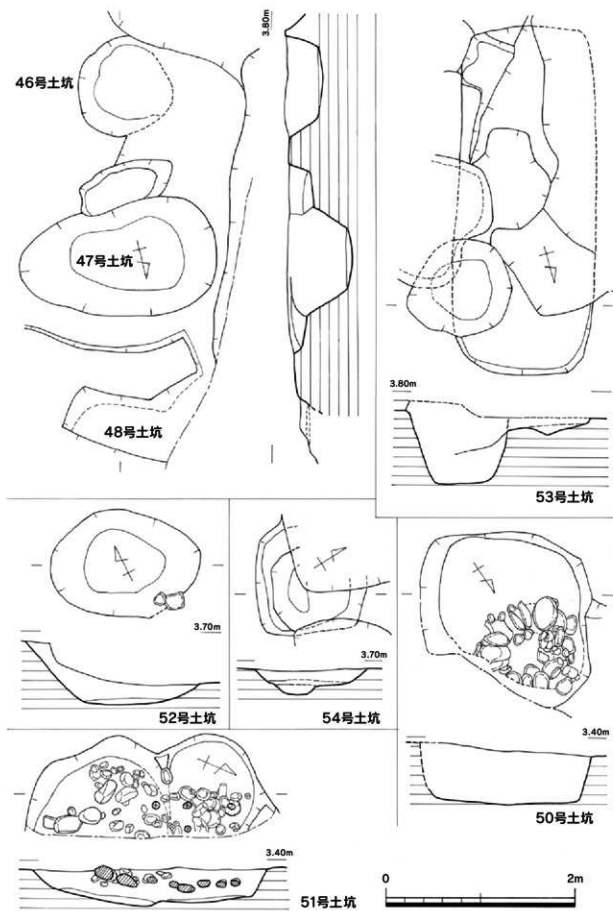


第49图 土坑实测图6 (缩尺1/40)





第50图 43号·45号·46号·47号土坑出土物实测图(缩尺1/3)



第51图 土坑实测图7 (缩尺1/40)

土器の蓋、812は土師器の坏である。

#### 47号土坑（第51図）

47号土坑は46号土坑の北側に位置し、遺構検出面の標高は約3.7mである。遺構の平面形は楕円形で、大きさは検出面で長径2.07m・短径1.21mである。壁面は60°程度の角度で開きながら立ち上がり、深さは0.59mである。床面は皿状に窪む。遺構の用途は廃棄土坑かと考えられる。

遺物は陶器の小杯・皿・蓋・播鉢・行平・瓶、磁器の碗・小杯・皿・蓋・瓶・仏飯器、瓦器の火鉢、瓦質土器の鉢、土師質土器のこね鉢・壺、土師器の坏・皿など中量の土器類と、土鍾・軒椀瓦・人形・木製品・石製品・ガラス片などが出土している（第50図・第52図・第53図）。813～817・819～826は磁器である。このうち813～816は碗で、813の外面には丸文と鳥、内面には四方禪文を描く。814は色絵と薄い青磁釉を使用して外面に小槌を描く。底面に「波佐見焼」の刻印がある。815・816は色絵で、外面の文様は815が亀甲文と紅葉文、816が亀甲文と草花文で、ともに口紅を施す。817は白磁の小杯である。818は陶胎染付の皿で、内面に草文、見込に梅花文を描く。819～822は磁器の皿で、819が型打の青磁で、内面に風景を描く。820は六弁の輪花で、外面に海浜風景（鳥・帆掛け舟）、内面に型打の同心円、見込に山水風景を配する。底部は蛇ノ目型凹高台である。821は体部外面に鉄釉を施す。822は八角皿で、内面に草花文を描く。823は色絵の段重の蓋で、外面に中国童子・草花文・格子などを描く。824も蓋で、外面に蝶を描く。825は仏飯器で、外面に輪宝繁文をめぐらす。826は青磁の瓶である。827・828は陶器の小杯で、827は外面に鳥のような文様を描き、高台に切込が3つあり、萩焼と考えられる。829は陶器の皿、830は陶器の蓋でつまみは亀である。831・832は陶器の行平で、外面に飛び鉋を施す。833は陶器の播鉢、834は陶器の瓶である。835は土師質土器の壺、837は土師質土器のこね鉢である。836は土師器の坏、838は瓦質土器の鉢である。839は土鍾、840は土製品の人物である。841は軒椀瓦で、丸瓦の部分は右三ッ巴である。842は器種不明の石製品で、石材は滑石である。

#### 48号土坑（第51図）

48号土坑は47号土坑の北側に位置し、北側が削平を受け、西側は調査区外になっている。遺構検出面の標高は約3.6mである。遺構の平面形は方形かと考えられ、大きさは残存部分で長さ1.18m・幅1.15mである。深さは検出面から0.17m掘削したが床面には達していない。遺構の用途は不明である。

遺物は陶器の碗、磁器の碗、土師質土器のこね鉢、土師器の皿、土製人形などが少量出土している。

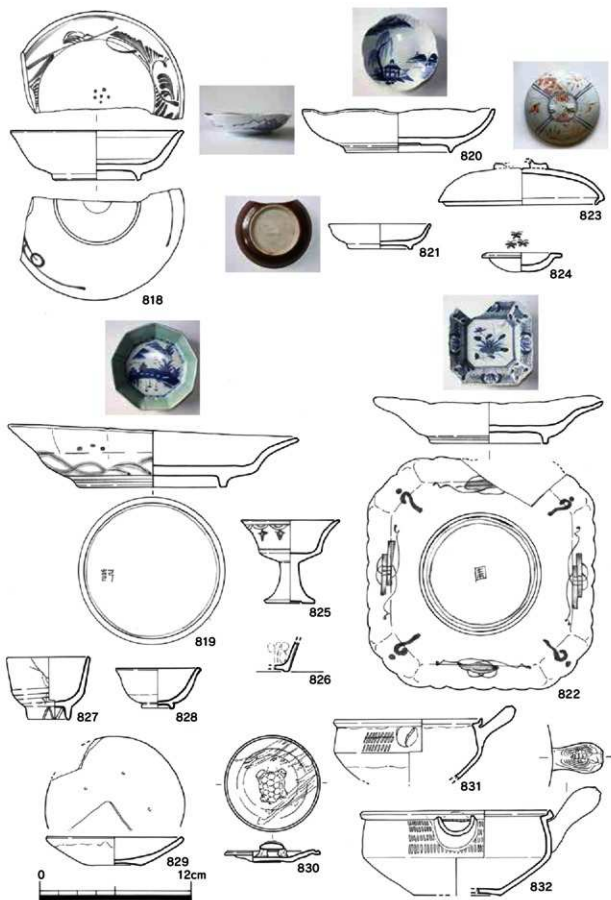
#### 49号土坑（第49図）

49号土坑は調査区北西隅に位置し、北側が調査区外となっている。遺構検出面の標高は約3.3mである。遺構の平面形は隅丸方形ないし楕円形と推定され、大きさは検出した部分で長さ0.68m・幅0.95mである。深さは0.21mで、床面は水平に近い。遺構の用途は不明である。

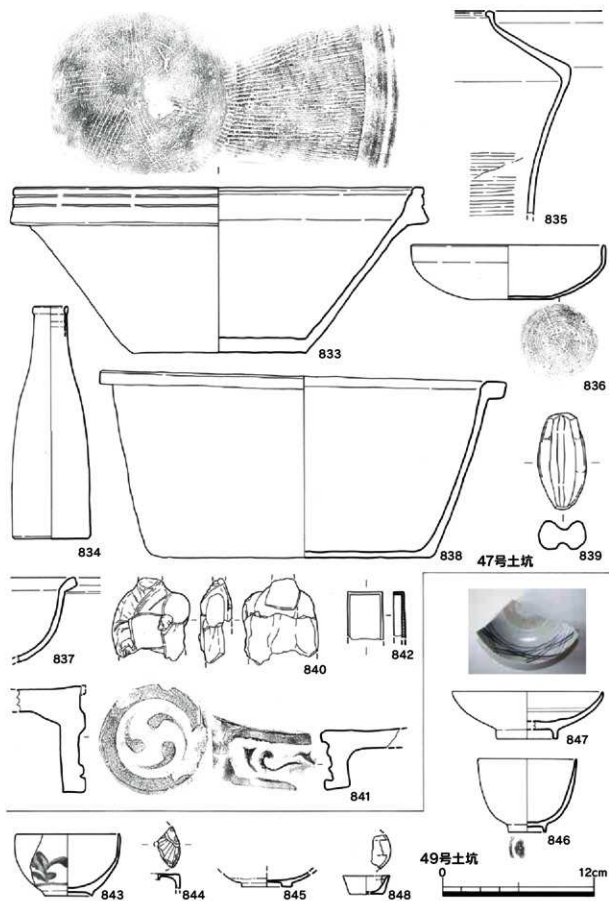
遺物は陶器の小杯・ままごと道具、磁器の碗・小杯・皿・水滴などが少量出土している（第53図）。843は磁器の小杯で、外面に草花文を描く。844は磁器の水滴で、上面に型打文様がある。845・846はともに陶器の小杯である。846の底面には「萬古」の刻印がある。847は磁器の皿で、内面に二重格子を描き、見込は蛇ノ目軸剥ぎである。848は陶器のままごと道具で器種は不明である。

#### 50号土坑（第51図）

50号土坑は調査区北端部に位置し、北東側は調査区外となっている。遺構検出面の標高は約3.3mである。遺構の平面形は基本的に隅丸方形かと考えられ、大きさは検出面で長さ1.80m・幅1.30mである。壁面は垂直に近く立ち上がり、深さは0.50mである。遺構内の北部には長さ35cm以下の円



第52图 47号土坑出土遗物实测图(缩尺1/3)



第53图 47号·49号土坑出土遺物実測図(縮尺1/3)

礫が環状に積み上げられている。遺構の用途は不明である。

遺物は陶器の碗・皿・花瓶、磁器の碗・皿、土師質土器のこね鉢などが中量出土している（第54図）。849は磁器の碗で、外面に風景を描く。850・851は磁器の皿で、851は外面に唐草文、内面に風景、見込に五弁花を配し、口縁は口銹、底面に「太明成〇〇製」の銘がある。852は陶器の碗、853は陶器の皿である。854は陶器の花瓶かと考えられ、平面形が六角形で、外面に円形の刺突文を施す。855は土師質土器のこね鉢で、底面に装飾突帯をめぐらす高村産である。

#### 51号土坑（第51図）

51号土坑は50号土坑の北側に位置し、東側は調査区外となっている。遺構検出面の標高は約3.3mである。遺構の平面形は円形の土坑が2基連続したような瓢箪形に近い形状を呈し、大きさは検出した部分で長さ2.62m・幅1.10mである。深さは0.36mで、床面は北半がほぼ水平であるが、南半は中央に向かって深くなっている。床面の中央部から北側では径0.15m以下の円形小ピットが5基検出され、杭跡かと考えられる。なお、遺構内からは径20cm前後の円礫が多量に出土した。遺構の用途は不明である。

遺物は陶器の碗・小杯・皿・挿鉢・火鉢、磁器の碗・小杯・皿・蓋・火入れ・仏飯器・瓶、瓦質土器の火鉢、ガラス瓶、土製人形、種子などが中量出土した（第54図・第55図）。856～869は磁器である。856・857・860は碗で、文様は856は外面に蝙蝠・蓮の花・「壽」、見込に瓢箪、857は外面に植物、860は外面に格子文を描く。これらは18世紀後半から19世紀初めの肥前の製品である。858・859は小杯である。861は磁器の皿で、外面に唐草文、内面に花唐草文、見込に五弁花を配する。862・863は蓋で、863は外面に鳥・花を描き、内面に紅が付着することから紅入れの蓋と考えられる。864・865は火入れで、864は底部が蛇ノ目凹型高台である。866は仏飯器、867・868は瓶で、868の外面には草木文を描く。869は壺で、外面に連続渦巻き文をめぐらし、口銹を施す。870～877は陶器である。870～873は碗で、871の内外面には刷毛目を施し、872の外面には松葉を描く。874は大型の挿鉢、875は皿で見込に型打文様がある。876は器種不明の二彩陶器である。877は火鉢か。878は瓦質土器の火鉢で、外面に刺突文がある。879は陶製品の人形で鉄軸を施し、布袋かと考えられる。

#### 52号土坑（第51図）

52号土坑は51号土坑の南側に位置し、遺構検出面の標高は約3.6mである。遺構の平面形は楕円形で、大きさは検出面で長径1.58m・短径1.12mである。壁面は50°程度の角度で開きながら立ち上がり、深さは最深部で0.64mである。床面はわずかに皿状に窪む。遺構の用途は不明である。

遺物は出土していない。

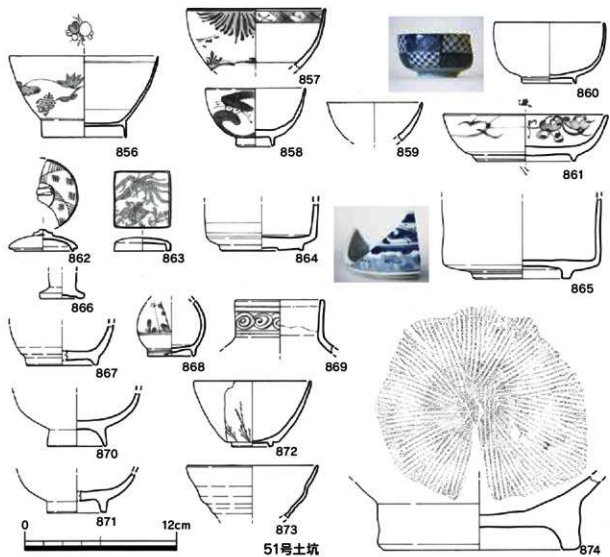
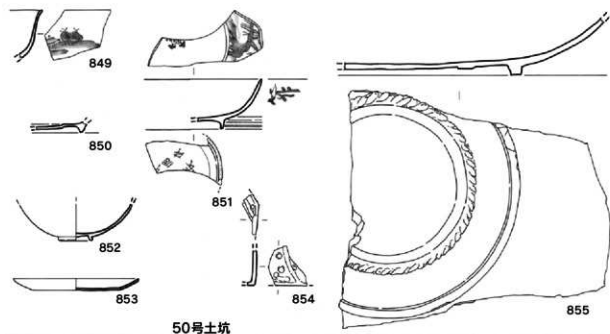
#### 53号土坑（第51図）

53号土坑は調査区中央部付近に位置し、33号・36号土坑など複数の遺構に切られる。遺構検出面の標高は約3.6mである。遺構の平面形は南北方向に長い長方形で、大きさは検出面で長さ3.66m・1.47mである。深さは0.15mと浅く、床面は平坦である。遺構の用途は不明である。主軸の方位はN-16°-Eである。

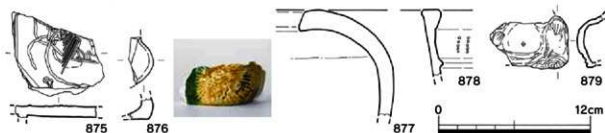
遺物は出土していない。

#### 54号土坑（第51図）

54号土坑は調査区中央部付近に位置し、20号・21号土坑に切られる。遺構検出面の標高は約3.6mである。遺構の平面形は方形で、大きさは検出面で長さ1.18m・幅1.17mである。壁面は40°程度の角度で大きく開き、深さは最深部で0.30mである。床面の南半は一段低くなっている。遺構の用



第54图 50号·51号土坑出土遺物実測図(縮尺1/3)



第55図 51号土坑出土遺物実測図(縮尺1/3)

途は不明である。

遺物は出土していない。

#### 4 溝状遺構

明確な溝状遺構として番号を付した遺構は調査区の南部で5条確認された。大きさは5号溝状遺構は幅が広いが、他は小規模な遺構である。方位はすべて城下町の町割りとはほぼ並行し、1号溝状遺構が南北方向で、他は東西方向である。

##### 1号溝状遺構(第56図)

1号溝状遺構は調査区南端に位置し、3号溝状遺構に切れ、2号溝状遺構を切り、南側は調査区外に延びる。遺構検出面の標高は約3.8mである。遺構は南北方向に直線的に延び、大きさは検出面で幅0.63m、長さは5.17mを検出したが、北側は3号溝状遺構と接する部分から途切れている。深さは0.05mと浅く、床面は基本的に平坦であるが、長さ30cm前後の不整形の浅いピットが7基検出された。床面の標高は南北両端とも3.71mと同じである。主軸の方位は $N-21^{\circ}-E$ である。

遺物は出土していない。

##### 2号溝状遺構(第56図)

2号溝状遺構は調査区南端部に位置し、1号溝状遺構に切れ、東西両方向は調査区外に延びる。遺構検出面の標高は約3.8mである。遺構は直線的に延び、大きさは検出面で幅が0.46m、長さは8.22分を検出した。西側で一部途切れ、東端は他の遺構と切り合う。深さは0.05mと浅く、床面は全体的に平坦で、標高は西端が3.75m、東端が3.79mと、相対的に東側がやや高くなっている。主軸の方位は $N-72^{\circ}-W$ である。

遺物は須恵器と瓦質土器の小片が微量出土している。

##### 3号溝状遺構(第56図)

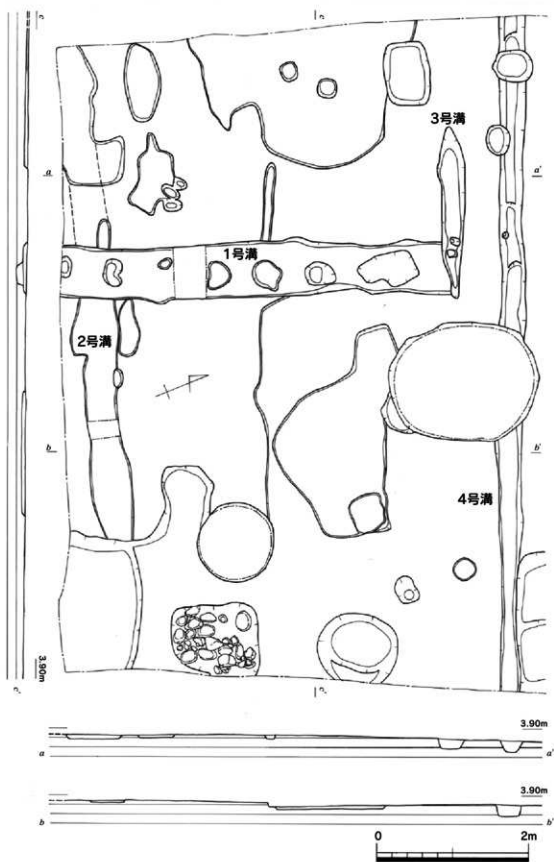
3号溝状遺構は1号溝状遺構の北端に位置し、1号溝状遺構を切る。遺構検出面の標高は約3.8mである。遺構は東西方向に延びるが短く、大きさは検出面で幅0.36m、長さは2.25mのみ残存した。深さは0.13mで、床面は平坦であるが、東側で径10cm程度の小ピット2基を検出した。埋土は灰色の弱砂質土で、炭化物を微量含む。主軸の方位は $N-72^{\circ}-W$ である。

遺物は土師質土器の鉢や瓦質土器が少量出土している(第58図)。880は土師質土器の鉢で、口縁直下に細い突帯をめぐらす。

##### 4号溝状遺構(第56図)

4号溝状遺構は3号溝状遺構の北側に並行して走り、1号土坑に切れ、東西両方向は調査区外に延びる。遺構検出面の標高は約3.8mである。遺構は直線的に延び、大きさは検出面で幅0.35m、長さは8.87m分を検出した。深さは最深部で0.20mとやや深く、床面は西側の3ヶ所に低い段差があ





第56図 溝状遺構実測図1 (縮尺1/50)

る。断面の形状は逆台形を呈する。床面の標高は西端で3.61 m、東端で3.64 mと、わずかに東側が高くなっている。埋土は灰色の弱砂質土である。主軸の方位はN-72°-Wである。なお、2号・3号・4号溝状遺構は主軸の方位が一致し、それぞれの間隔は2号・3号間がそれぞれ4.81 m、3号・4号間が0.77 mである。

遺物は土師質土器、土師器の皿、用途不明石製品などが少量出土している（第58図）。881・882は土師器の皿である。

#### 5号溝状遺構（第57図）

5号溝状遺構は4号溝状遺構の北側に位置し、10号土坑に切れ、東西両方向は調査区外に延びる。遺構検出面の標高は約3.7 mである。遺構は直線的に延び、大きさは最大幅3.07 m、長さは9.00 m分を検出した。深さは西側の最深部で1.16 mをはかるが、中央部付近については床面と基盤層の土質が類似していたため掘り過ぎてしまった。この部分は木製品等が出土した面が本来の床面となる。壁面はやや上位で角度が変わる部位もあるが、基本的に60°程度の角度で開く。床面は中央がやや皿状に窪むが、溝全体としては逆台形の断面形となる。標高は西端で2.49 m、東端で2.76 mであることから、溝内では東から西に水が流れていたと考えられる。遺構内の埋土は上層（IV a・IV b・IV c層）は黄灰色ないし暗褐色の弱砂質土層で、中層（IV d層）は径5～10 cm程度の円礫層、下層（IV e層）は暗黄灰色の弱粘質土層である。基盤層は上位から中位では明黄灰色弱粘質土、下位では暗灰色粘土層となる。主軸の方位はN-74°-Wである。

遺物は主に中層及び下層から多量に出土し、陶器の碗・皿・鉢・播鉢・徳利・壺、磁器の碗・皿・段重、瓦質土器の播鉢、土師質土器の播鉢、土師器の皿、弥生土器の甕、埴輪などの土器類の他、瓦類・木製品（棒状・板状・漆器・編み籠）・筭・碁石・鉄釘・人骨（頭骨）・獣骨・種子などがある（第58図）。883・884は磁器の碗で、883は外面に草花文を描き、884は青磁である。885は磁器の皿で、見込に花文を描く。886・887は陶器の碗、888は陶器の皿である。889・890は陶器の播鉢、892は陶器の壺である。891・893は陶器の徳利である。894は瓦質土器の播鉢で、底部内面に波状に櫛目を入れる。895は土師器の皿、896は土師器の鉢または杯の脚部か。898は埴輪である。899は漆器の皿で、暗赤褐色の色調を呈する。900は木製の櫛、901は板状の木製品である。902は黒石の碁石、903は筭で、魚のような線刻がある。人骨は成人の頭骨と考えられ、一部に切削による溝状の痕跡が残る。

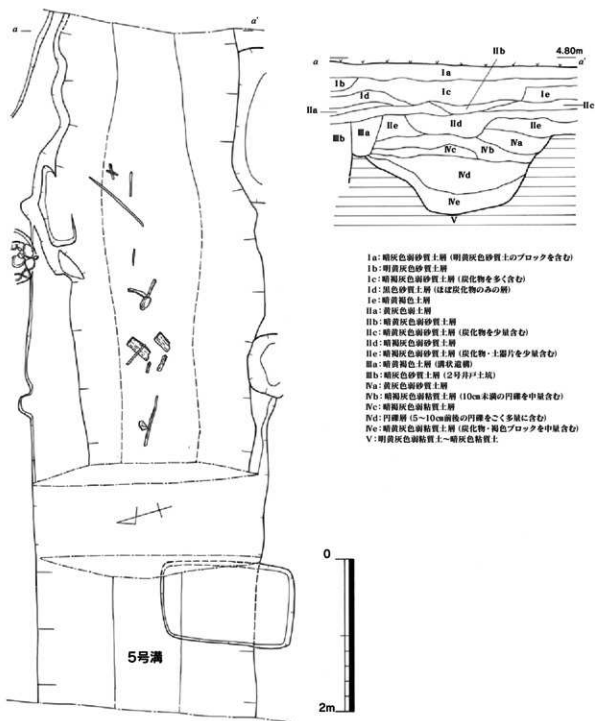
## 5 その他の遺構

その他の遺構としては不整形の大型土坑（SX）やピット（SP）がある。不整形土坑のうち番号を付したものは調査区の北側に3基が集中する。ピットは調査区全体に大小のものが多数分布する。不整形土坑の個別実測図は掲載しないが、調査区内の位置は第3図を参照していただきたい。

#### 1号不整形土坑（第3図参照）

1号不整形土坑は調査区北部の西側に位置し、41号土坑・2号不整形土坑に切れ、西側は調査区外に大きく広がると考えられる。遺構検出面の標高は約3.4 mである。遺構は検出面で長さ9.40 m・幅2.42 mを確認した。深さは0.2 mほど掘削したが床面には達していない。ただし、検出した壁面の角度からみて深い遺構ではないようである。埋土は掘削した深度までは暗灰色の弱砂質土である。

遺物は陶器の碗・皿・鉢・乗燭、磁器の碗・小杯・皿・鉢・仏飯器、土師器の杯・皿の他、瓦類・碁石・碁石・煙管などが多量に出土している（第59図）。904～913は磁器である。904は白磁の碗、905・906は青磁の碗である。907は小杯で、底面に「大明成化年製」の銘がある。908は鉢で、見込に「月」の文字がある。909～912は皿で、909は見込に松、910は内面に斜格子、見込に風

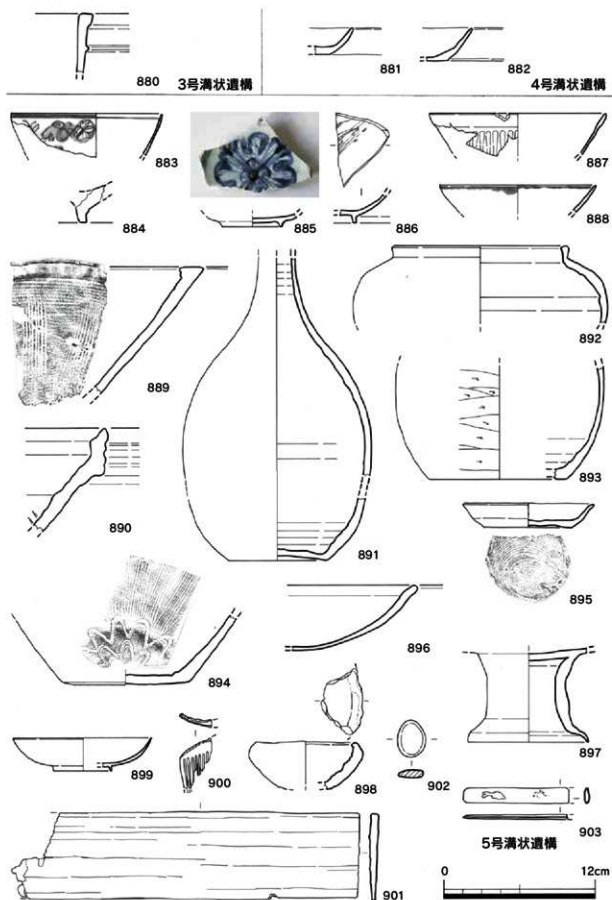


第57図 溝状遺構実測図2 (縮尺1/50)

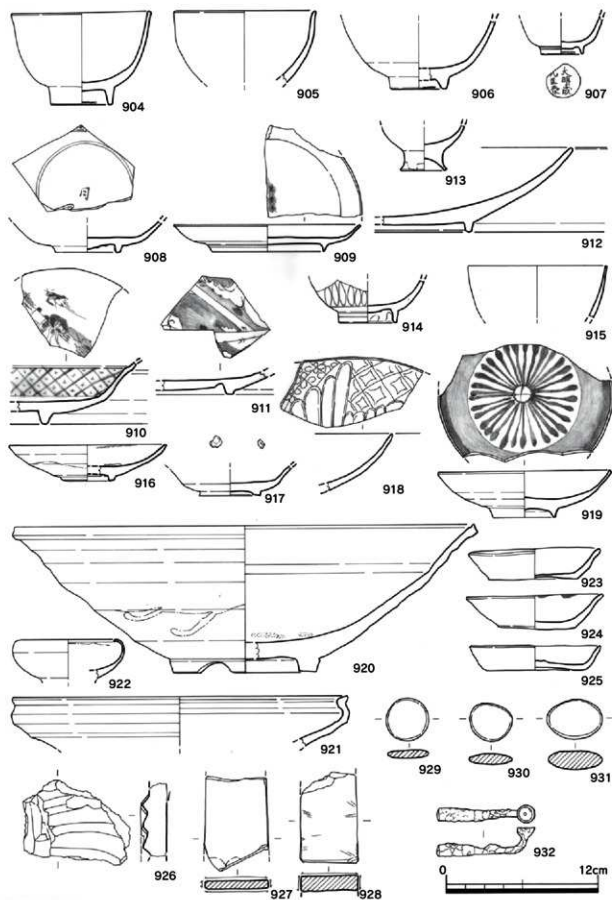
景を描く。913は白磁の仏飯器である。914~917・919~922は陶器である。914・915は碗で、914の外面に網目文を施す。916~920は皿で、917は見込に目跡がある。918は青磁で、1680~1740年代の肥前(波佐見)製か。919は鉄軸を使用し、見込に花文を描く。920は大型品で、見込に目跡を残し、1610~1650年代の肥前製である。921は鉢、922は乗燭か。923~925は土師器の坏である。926は道具瓦の破片かと考えられ、断面三角形の突帯を並行して貼り付けている。927・928は砥石である。929~931は碁石で、929・930が黒石、931は白石である。932は煙管である。

## 2号不整形土坑 (第3図参照)

2号不整形土坑は1号不整形土坑を切って北側に位置し、大部分が西側の調査区外に延びている。



第58図 3号・4号・5号溝状遺構出土遺物実測図 (縮尺1/3、ただし901は1/4、902は1/2)



第59図 1号不整形土坑出土遺物実測図(縮尺1/3、ただし929・930・931は1/2)

遺構検出面の標高は約3.4 mである。遺構は検出面で長さ3.25 m・幅0.20 mを確認した。深さは0.3 mほど掘削したが床面には達していない。

遺物は陶器の土瓶、磁器の碗・蓋などが少量出土している（第60図）。933は磁器の碗で、外面に中国童子を描く。934は933とセットと考えられる蓋で、外面に中国童子・草花文を描く。935は陶器の土瓶で、鉄軸を施す。

### 3号不整形土坑（第3図参照）

3号不整形土坑は1号不整形土坑の東側に位置し、35号土坑と切り合い、東側は調査区外に延びている。遺構検出面の標高は約3.7 mである。遺構は検出面で長さ5.20 m・幅2.75 mを確認した。深さは検出面からの最深部で0.36 mである。埋土は暗灰色の弱砂質土が中心で、土器類以外に円礫を多く含んでいる。遺構の用途は廃棄土坑かと考えられる。

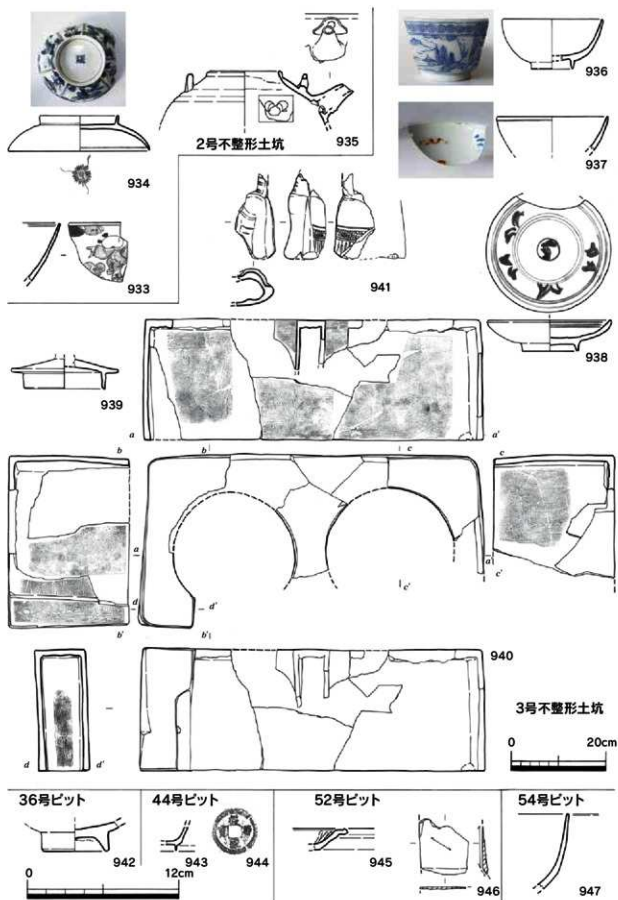
遺物は陶器の蓋、磁器の小杯・皿、土師質土器のカマド、土製人形などが中量出土している（第60図）。936・937は磁器の小杯で、936の外面には風景と連続渦巻文を描く。938は磁器の皿で、内面に双葉状の文様を配し、見込に蛇ノ目軸刺ぎを施す。939は陶器の蓋で、外面に花文を描く。940は土師質土器のカマドで、長さ72.8cm・幅36.5cm・高さ25.7cmをはかる。焚口は2口あり、板作りで外面にミガキ、内面にハケの調整を施す。941は土人形で、化粧まわしをつけた力士であろう。

### ビット他（第3図参照）

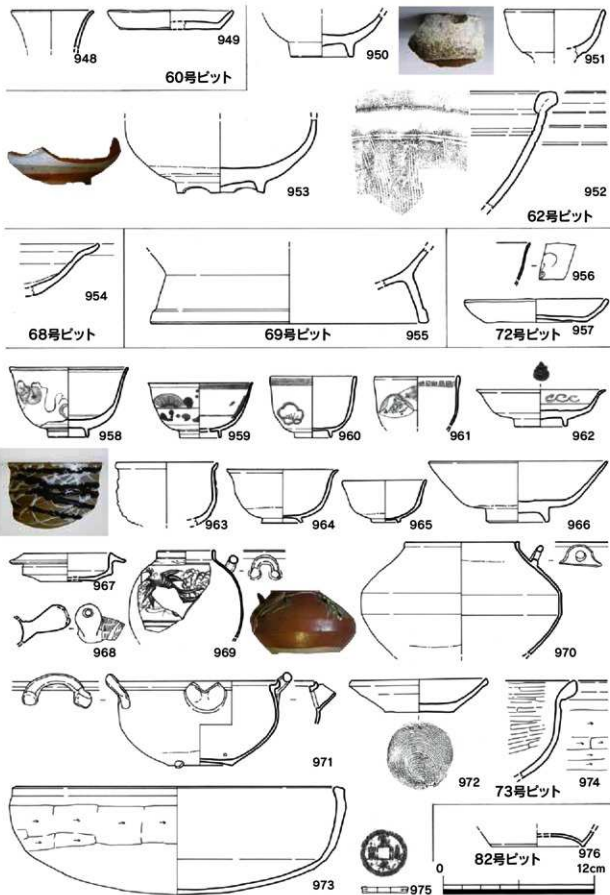
ここでビットとした遺構は柱穴状・土坑状・溝状など多様な形状を呈するが、相対的にやや小型の遺構である。遺構番号は調査時の遺構番号をそのまま使用したため欠番が多くある。各遺構の詳細は記述しないが、調査区内の位置については第3図を参照していただきたい。主な出土遺物のみ以下に記載する（第60図・第61図）。

942は36号ビットから出土した陶器の碗である。943・944は44号ビットの出土品で、943が白磁の猪口、944が種別不明の銅銭である。945・946は52号ビットの出土品で、945が陶器の皿で、内面に花卉状の凹凸がある。946は鉄製品の鏝である。947は54号ビットから出土した陶器の碗である。948・949は60号ビットの出土品で、948が白磁の小杯、949が土師器の皿である。950～953は62号ビットの出土品である。950が磁器の碗、951が陶器の小杯、952が陶器の搥鉢、953は陶器の壺で白土と緑釉で外面に施文する。954は68号ビットから出土した陶器の皿である。955は69号ビットから出土した瓦質土器の火鉢で、脚部の破片である。956・957は72号ビットの出土品で、956が磁器の小杯、957が土師器の皿である。958～975は73号ビットの出土品である。958は磁器の碗で、外面につる草をめぐらし、19世紀代の瀬戸美濃製か。959は磁器の小杯で、外面に松を描く。960・961は磁器の湯飲みで、960は外面に梅花・丸文、961は内面に雷文を描く。962は磁器の皿で、内面に濃み地白抜き文で鎖状の連続文をめぐらし、見込は蛇ノ目軸刺ぎである。963は陶器の碗で、外面には白土・鉄軸でビラ掛けを施す。19世紀前半の萩焼である。964・965は陶器の小杯、966は陶器の皿で、966の見込は蛇ノ目軸刺ぎである。967は陶器の蓋で、関西系である。968は陶器の急須、969・970は陶器の土瓶で、968の外面には飛び鉋を施す。969は外面に鳳凰？と雲、970は外面に笹を描く。971は陶器の鍋、972は陶器の皿である。973は土師質土器の焙烙、974は土師質土器のこね鉢である。975は3枚重なった銅銭で、最上面は寛永通寶である。976は82号ビットから出土した陶器の瓶または急須であろう。

977～997は遺構検出面より上の包含層から出土した遺物である（第62図）。977～988は磁器である。977・978は碗で、外面の文様は977が風景、978は鶴を描く。979は小杯で、外面に松葉文を描き、口銜を施す。980・981は鉢で、外面の文様は980が窓絵、981は草花文である。982・

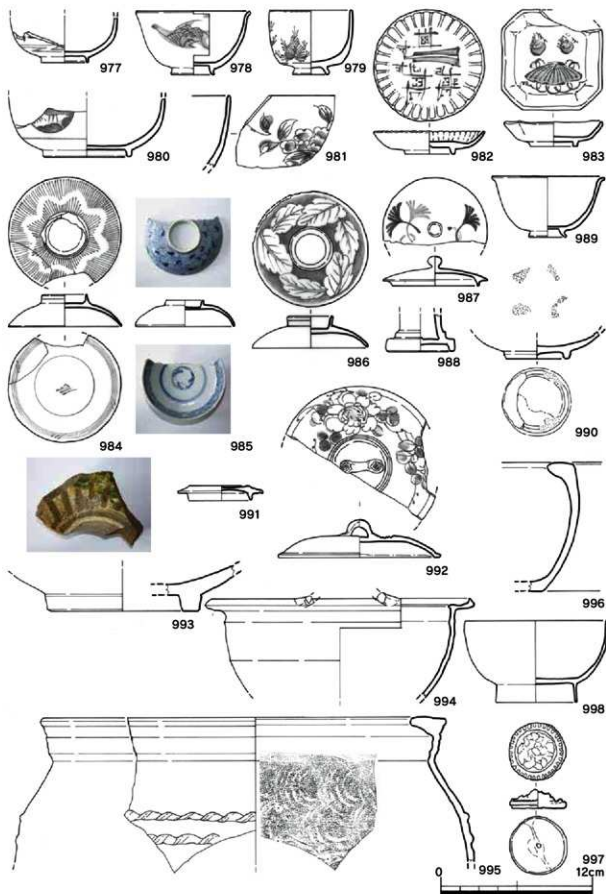


第60図 2号・3号不整形土坑、36号・44号・52号・54号ビット出土遺物実測図  
(縮尺1/3、ただし940は1/8、944は1/2)

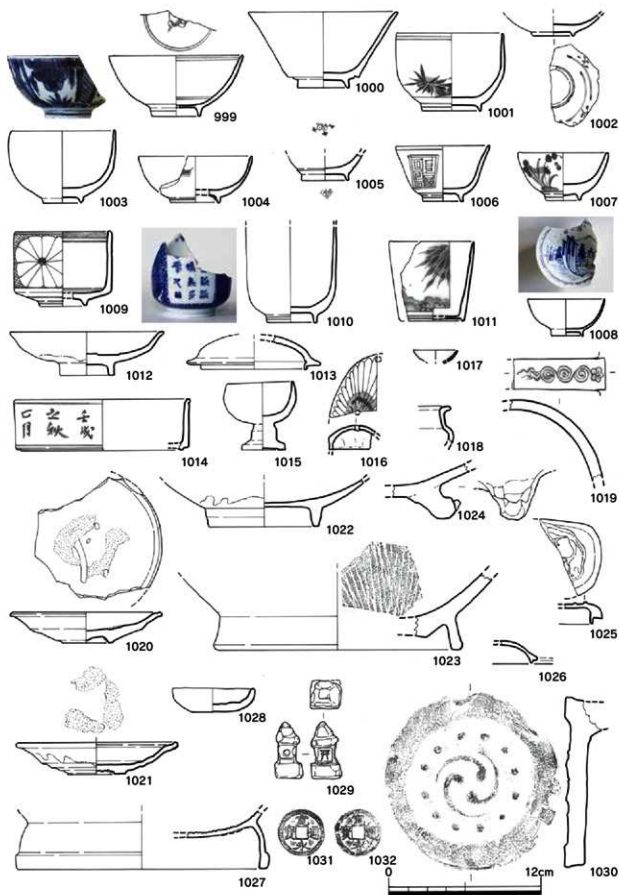


第61図 60号・62号・68号・69号・72号・73号・82号 ビット出土遺物実測図 (縮尺1/3、ただし975は1/2)





第62圖 包含層出土遺物実測図(縮尺1/3)



第63図 表面採集遺物実測図 (縮尺1/3、ただし1031・1032は1/2)

983は皿で、見込の文様は、982が閉じた扇、983が貝である。984～987は蓋で、985は外面に花唐草文、内面に四方禪文、見込に松竹梅円形を配する。986は外面に木の葉、987は銀杏の葉と実を描く。988は仏花瓶か。989～995は陶器である。989は小坏、990は皿であろう。991・992は蓋で、992は外面に草花文を描く。993は皿、994は鍋、995は甕で外面に波状突帯をめぐらし、内面に青海波タタキの調整痕が残る。996は瓦質土器の火鉢、997は器種不明の土製品である。998は木製の碗で、漆または赤色顔料塗布している。

999～1032は表面採集遺物である（第63図）。999～1019は磁器である。999～1001・1009は碗で、999は外面に草木文、1001は外面に植物を描く。1000は白磁である。1009は筒形を呈し、外面に菊花・格子を描く。1002～1008は小杯で、文様は1002が外面に草木文、1005が見込に五弁花、1007が外面に草花文、1008が内面に海浜風景を描く。1003は青磁である。1007は1680～1770年代の肥前（波佐見）の製品である。1010は湯飲みで、外面に詩歌・櫛歯文、内面に輪宝繁文を配する。1011はソバ猪口で、外面に植物を描く。1012は青磁の皿で、見込は蛇ノ目軸剥ぎで、砂目跡も残る。1013は磁器の蓋、1014は段重で外面に詩歌を記す。1015は白磁の仏飯器、1017は紅皿である。1016は型打の水滴で、外面は菊花文である。1018は琉璃軸で、香炉であろう。1019は取手状の器種不明品で、外面に渦文と花文を配する。1020～1025は陶器である。1020・1021は皿で、ともに見込に砂目跡があり、1650年代より古いものである。1022は鉢で、内面に刷毛目をめぐらす。1023は播鉢、1024は鉢の脚部である。1025は蓋で、外面に型打の草木文を施す。1026は琉璃軸の蓋である。1027は瓦質土器の火鉢、1028は土師器の蓋か。1029は土製品の灯籠である。1030は軒丸瓦で、左三ッ巴である。1031・1032は寛永通寶である。

第1表 出土遺物観察表

出土遺物 番号	遺物 番号	器種	法量 (cm)			成形	裝飾			底面 内底	製作地	製作年代	備考	
			器高	口径	底径		給付輪案	文様						裝飾特徴
								外・内	見込					
SE2	1	磁器・碗	6.2	(10.0)	4.0	吹付・透明釉	外・内面 見込: 丸文(S/S)	・磁器				反転底元 取戻		
SE2	2	磁器・碗	(4.3)		4.0	吹付・透明釉	内: 華文?			見込に目録		反転底元		
SE2	3	磁器・小杯	4.6	6.6	3.2	吹付・透明釉	外・内面	・牡丹						
SE2	4	磁器・小杯	(2.0)		2.8	吹付・透明釉	見込: 丸文(縦)	・磁器	型紙透り?					
SE2	5	磁器・猪口	4.0	6.0	2.6	白磁						反転底元 貫入有り		
SE2	6	磁器・皿	2.5	(2.6)	6.8	吹付・透明釉	外・内面 見込: 風・竹			磁有り		反転底元		
SE2	7	磁器・皿	2.0	(0.0)	(6.0)	吹付・透明釉	外・内面			口紅(染付)				
SE2	8	磁器・皿	2.0		6.0	色絵・透明釉	外・内面 内: 四方様文・梅文				肥前	1710~1710年 代	貫入有り 彩色は青・赤・金色	
SE2	9	磁器・仏飯器	(2.2)		4.0	白磁							反転底元	
SE2	10	磁器・水漬	(2.2)	(3.6)		型打	白磁	外: 竹(型打)					裏面に毎日録	
SE2	11	磁器・香炉	(4.4)			白磁							口紅(裏面に毎日録)	
SE2	12	磁器・火入れ	不明		7.4	青磁							裏面に毎日録	
SE2	13	磁器・蓋	2.5	6.0	3.5	吹付・透明釉	外・内面 内: 華文・梅・竹 見込: 竹				肥前	19C前半?	反転底元	
SE2	14	磁器・蓋	2.7	8.8	3.7	吹付・透明釉	外・内面 内: 風・竹 見込: 松竹梅四神・磁器				肥前	19C前半?	反転底元	
SE2	15	陶器・碗	(4.2)	(4.0)		輪捺					見込に目録		反転底元	
SE2	16	陶器・碗	(3.4)		3.0	鉄輪								
SE2	17	陶器・碗?	(2.6)		3.1	鉄輪?					見込に磁?		反転底元	
SE2	18	陶器・楕鉢	(3.8)			鉄輪								
SE2	19	陶器・楕鉢	(4.3)			鉄輪								
SE2	20	陶器・皿	(6.8)			吹付	見込: 七宝文・風車?				型紙透り?		口紅(側面に磁の跡)	
SE2	21	土師質土器・ 蓋	(2.5)			型打?								
SE2	22	陶器・合子?	2.7	(5.0)	3.8	透明釉					高松		カヌルのつまみ 中央に丸有り 外底に毎日録	
SE2	23	陶器・楕形	(3.2)		4.8	鉄輪					高松?		反転底元・貫入有り	
SE2	24	瓦質土器・火鉢	(8.0)		(19.0)	鉄輪							反転底元 内底へツケテ	
SE2	25	土師質土器・ 火鉢	(5.4)		(14.0)	鉄輪							反転底元 内外面にハワケテ	
SE2	26	陶器・壺	(16.4)	(22.0)		鉄輪・透明釉	外・内面 見込: 龍・唐文				高松	18C後半?	反転底元	
SE2	27	土師質土器・ 埴伊の六角?	(1.8)	(0.8)		鉄輪								
SE2	28	土師質土器・ 埴伊	35.7	(33.0)	(24.0)	鉄輪	外: 口紅(正取印)						反転底元 外底に十字・内底にハ 瓦質の取手	
SE2	29	石製品・石臼	径 12.5 厚さ 6.7										石臼 透脚部 長さ4.7cm 石材: 頁岩 重さ42.5g	
SE2	30	石製品・砥石	長さ 16.4 幅 4.9 厚さ 0.8											
SK1	31	磁器・碗?	(3.2)	6.0		色絵・透明釉	外・内面 見込: 蓮	・紅葉					反転底元 型紙透り?	
SK2	32	陶器・碗	(3.7)		(3.1)	透明釉・ ワラ釉								
SK2	33	陶器・碗	(4.0)		(4.7)	ワラ釉								
SK3	34	磁器・碗	6.2	12.0	6.0	吹付・透明釉	外・内面 内: 華文 見込: 牡丹						貫入有り	
SK3	35	磁器・碗	5.8	(10.0)	(4.2)	吹付・透明釉	外・内面 内: 華文 見込: 蓮							
SK3	36	磁器・碗	5.9	10.2	4.2	吹付・透明釉	外・内面 内: 華文 見込: 蓮				肥前	1820~1860年 代	取戻	
SK3	37	磁器・碗	5.8	(10.0)	(3.7)	吹付・透明釉	外・内面 内: 華文 見込: 蓮	・梅花					取戻	
SK3	38	磁器・碗	5.6	9.1	3.8	吹付・透明釉	外・内面 内: 華文 見込: 蓮							
SK3	39	磁器・碗	5.6	9.6	4.1	吹付・透明釉	外・内面 内: 華文 見込: 蓮	・胡蝶			肥前	1820~1860年 代	つらねの十字	
SK3	40	磁器・碗?	4.5	9.0	3.2	吹付・透明釉	外・内面 見込: 蓮						取戻	
SK3	41	磁器・碗	4.8	9.2	(3.6)	吹付・透明釉	外・内面 内: 華文 見込: 蓮	・梅花			肥前?	1820~1860年 代	取戻	
SK3	42	磁器・碗	4.5	9.0	3.3	色絵・透明釉	外・内面 見込: 蓮						取戻	
SK3	43	磁器・碗	4.5	8.8	(3.3)	色絵・透明釉	外・内面 見込: 蓮						取戻 彩色は青・白・緑灰色	
SK3	44	磁器・碗	4.7	7.6	3.4	白磁								

SK2	45	磁器・漬口	4.3	0.7	13.0	白陶	染付・透明釉	内:人物・無面赤土		磁有り			反転底土		
SK3	46	磁器・小坏	2.8	6.8	2.6	白陶	染付・透明釉	内:草花文・磁線 内:草花文		〔口塗〕			反転底土		
SK3	47	磁器・小坏	4.0	6.4	2.7	白陶	染付・透明釉	外:磁線・竹					反転底土		
SK3	48	磁器・小坏	4.1	6.9	3.2	白陶	染付・透明釉	外:文字?					反転底土		
SK3	49	磁器・小坏	2.9	15.0	12.1	白陶	染付・透明釉	内:磁線					反転底土		
SK3	50	陶器・小坏	4.3	6.7	2.9	白陶	白土・染付・透明釉	外:竹					反転底土		
SK3	51	磁器・小坏	4.4	6.3	3.0	白陶	染付・透明釉	内:草花文・磁線					反転底土		
SK3	52	磁器・酒飲み	3.0	5.0	3.0	白陶	染付・透明釉	外:丸文字・竹・物の象 内:磁線					反転底土		
SK3	53	磁器・酒飲み	10.0	0.0		白陶	青磁染付	内:四方模文・磁線				肥前	18C後半	反転底土	
SK3	54	磁器・酒飲み	5.3	6.4	10.0	白陶	染付・透明釉	外:磁線・花文 内:磁線・菊文・ひざ文				肥前	18C後半	反転底土	
SK3	55	磁器・皿	2.3	10.0	8.4	白陶	白磁	見込:子原状の磁粒		口塗			青化底土 黄化底土 肥前白磁器蓋台		
SK3	56	磁器・皿	4.2	13.3	8.0	白陶	白磁	見込:子原状の磁粒		口塗			青化底土 肥前白磁器蓋台		
SK3	57	磁器・皿	2.1	8.9	3.7	白陶	白磁	見込:子原状の磁粒		口塗			青化底土		
SK3	58	磁器・鉢	5.4	12.6	5.2	白陶	青磁・染付・透明釉	内:風景(画面・家・山々)					口塗15年の輪花		
SK3	59	磁器・皿	2.6	9.0	4.4	白陶	染付・透明釉	見込:緑?					口塗緑輪花		
SK3	60	磁器・皿	2.5	10.2	4.0	白陶	染付・透明釉	見込:鳥獣(家屋・帆船船口)		口塗		肥前	1820～1860年代	輪花蓋	
SK3	61	磁器・皿	3.7	12.2	16.0	白陶	染付・透明釉	見込:動物				肥前	18C末～19C前半	反転底土 白磁輪花・肥前白磁器蓋台 口塗輪花 肥前白磁器蓋台	
SK3	62	磁器・皿	3.4	13.1	7.5	白陶	染付・透明釉	内:草花文					反転底土		
SK3	63	磁器・皿	2.8	9.5	4.5	白陶	染付・透明釉	内:磁線・双葉 見込:双葉					反転底土		
SK3	64	磁器・皿	2.3	9.0	14.0	白陶	染付・透明釉	内:雲文(雲脚) 見込:雲脚(雲脚・染付)				奥平美濃	19C前半～中葉?	反転底土 黄化底土 黄化底土有り	
SK3	65	磁器・皿	3.5	20.6	9.4	白陶	染付・白土・透明釉	内:風景(家屋・帆船・山池)					全面に黄化有り		
SK3	66	磁器・皿	黄2 1.7	白線 8.4	底黄 4.2	白陶	染付	内:?					全面に黄化有り		
SK3	67	磁器・紅皿	2.1	6.4	1.8	白陶	白磁	外:磁器草文				肥前	18C後半以降	反転底土	
SK3	68	磁器・紅皿	1.7	4.9	2.4	白陶	白磁						反転底土		
SK3	69	磁器・蓋	11.0	8.8		白陶	染付・透明釉	外:風景・磁器草文・磁線 内:草文・磁線					反転底土		
SK3	70	磁器・蓋	2.0	8.7	つぎみ 3.9	白陶	染付・透明釉	外:磁線・双葉 内:磁線・雲文・磁線 見込:牡丹輪花形・磁線				肥前	18C後半以降	反転底土	
SK3	71	磁器・蓋	3.0	9.0	つぎみ 3.9	白陶	染付・透明釉	外:磁線・雲・松葉 内:磁線・草文 見込:牡丹輪花形				肥前	19C代?	一部反転底土	
SK3	72	磁器・蓋	1.7	5.4		白陶	染付・透明釉	外:鳥・花・磁線					骨子の透け →土間の内面に穴の付いた骨子の蓋?		
SK3	73	磁器・蓋	1.5	4.1		赤土・白土	陶質釉						黄化有り		
SK3	74	陶器・蓋	1.8	3.7		白陶	透明釉	外:菊文(型打)				肥前	19C代	黄化有り	
SK3	75	磁器・蓋	11.0	0.0		白陶	染付・透明釉	外:磁線・花笠草?				肥前	19C代	黄土七ツ	
SK3	76	磁器・段重	2.7	9.4	8.0	白陶	染付・透明釉	外:磁線・花笠草?				肥前	19C代	黄土七ツ	
SK3	77	磁器・段重?	14.0	12.0		白陶	色絵・透明釉	外:磁線(草?)・植物					反転底土 黄色土色・青・黄緑 →土間の外側に黒い 黄土七ツ?		
SK3	78	磁器・蓋	1.6	5.5		白陶	色絵・透明釉	外:磁線(草文・陶・菊) 内:〔A〕の底文				関西系?	19C代	反転底土 黄土七ツ 黄土七ツ	
SK3	79	磁器・急須	14.0	15.0		白陶	染付・透明釉	外:磁線・草文・黄月○ A(土)				関西系?	19C代	反転底土 黄土七ツ 黄土七ツ	
SK3	80	磁器・火入れ	7.4	10.2	19.0	白陶	色絵・透明釉	外:列色・彩色(茶色)					反転底土		
SK3	81	磁器・仏飯器	5.4	15.0	3.0	白陶	白磁						肥前	18C後半以降	反転底土
SK3	82	磁器・仏飯器	14.0			白陶	染付・透明釉	外:磁線・磁器草文?				肥前	18C後半以降	反転底土	
SK3	83	磁器・仏飯器	3.3	6.0	3.3	白陶	染付・透明釉	外:磁線・磁器草文?				肥前	18C後半以降	反転底土	
SK3	84	磁器・まごころ道具(急須)	2.8	1.7	4.6	白陶	白磁	外:赤・緑(型打)				肥前	19C前半	反転底土	
SK3	85	磁器・瓶	7.3	1.8	2.8	白陶	染付・透明釉	外:雲?・梅文?				肥前	19C前半	反転底土	
SK3	86	磁器・瓶	10.0	2.3	3.8	白陶	染付・透明釉	外:鳥・雲(和)・磁線文?・磁線					反転底土		
SK3	87	磁器・瓶	19.0	0.0		白陶	白磁						反転底土		
SK3	88	陶器・瓶	16.2		17.0	白陶	白土・染付・透明釉	外:磁線・竹?					反転底土		
SK3	89	磁器・戸重	0.8	2.2		白陶	透明釉					肥前	18C後半以降	反転底土	
SK3	90	磁器・器種不明	12.0			不明	染付・透明釉	外:竹					青が等の跡跡? 黄土七ツ有り		
SK3	91	磁器・器種不明	14.0			白陶	青磁						反転底土		
SK3	92	陶器・小坏	4.3	6.8	3.2	白陶	陶質釉						反転底土		
SK3	93	陶器・撞鉢	7.6	18.8	7.8	白陶	鉄釉				前切?		反転底土 黄土・焼土層有り		
SK3	94	陶器・鉢?	5.5	11.0	5.4	白陶	鉄釉?						反転底土 黄土有り。底面にスチ付着		
SK3	95	陶器・行平	5.3	9.8	4.1	白陶	透明釉						反転底土		
SK3	96	陶器・行平	10.0	14.0		白陶	鉄釉・透明釉	外:黄ひ粉					反転底土 内面透明釉		
SK3	97	陶器・行平	10.2	20.0		白陶	透明釉					関西系	19C代	反転底土	
SK3	98	陶器・蓋	3.2	13.2	つぎみ 2.9	白陶	鉄釉	外:磁線				関西系		つぎみに磁平	
SK3	99	陶器・蓋	3.6	12.8	つぎみ 3.7	白陶	鉄釉・黄釉?	外:黄ひ粉						内面鉄釉?	
SK3	100	陶器・蓋	12.0	10.0		白陶	鉄釉・白土・灰釉?	外:黄ひ粉・インツン(赤・白土)				関西系	18C後半	反転底土 内面透明釉?	
SK3	101	陶器・蓋	2.5	9.8	2.4	白陶	鉄釉	外:再施に鉄線					反転底土 の土みは半練土		
SK3	102	陶器・蓋	1.6	4.7	3.4	白陶	白土・緑釉・鉄釉・透明釉	外:輪花?			ハナ型?	関西系	19C代	黄土有り	
SK3	103	陶器・蓋	3.0	11.0	3.8	白陶	白土・透明釉	外:磁粒に白土			高砂?	関西系	19C代	つぎみに型打の龜	

SK3	104	陶器・急須	6.4	4.0	5.3	不明	鉄軸	外：清水○○○(鉄軸)					反転度元 注口基部の孔は49個 外面に縦方向の彫目	
SK3	105	陶器・土瓶	9.3	9.7		070	白土・鉄軸・ 透明軸	外：メッシュ網(白土)・梅花? (鉄軸)		関西系	19C代		反転度元	
SK3	106	陶器・土瓶 107 欠釜	13.0	12.6	11.0	070	白土・鉄軸			前編に墨書 あり				
SK3	108	陶器・土瓶	11.4	9.0	7.2	070	鉄軸	外：幾ひ網		前編に墨書 あり			注口基部の孔は1つ	
SK3	109	陶器・土瓶	6.4	5.4	3.0	型打?	白土・鉄軸・ 透明・鉄軸	外：牡丹?		関西系?	19C以降		体部は輪花(約8等) 注口基部の孔は2つ	
SK3	110	陶器・土瓶	14.7	12.7	10.5	070	白土・鉄軸・ 鉄軸	外：メッシュ網(白土)・梅花? (鉄軸)		関西系	19C代		注口基部の孔は3つ	
SK3	111	陶器・主まご 道具(急須)	2.6	2.6	2.5	型打?		外：鹿文・雲の子					前編に彫目あり	
SK3	112	瓦質土器・火鉢	(10.3)	10.2		070		外：海流風雲(型押し)					反転度元 外面→フシガキ、内面→コハ クナダ	
SK3	113	陶器・灯明受 付皿	2.0	01.0	0.30	070	透明軸			関西系	19C代		反転度元 貫入あり	
SK3	114	陶器・灯明受 付皿	4.7	6.4	4.0	070	透明軸			関西系	19C代		貫入あり	
SK3	115	陶器・器種不 明	(1.9)			070?	二部(緑・黄)	外：正文?の記付 内：縦方向に彫込け					口縁に花文に緑軸	
SK3	116	陶器・器種不 明	(2.7)			型打?	緑軸・透明軸	外：縦方向の亀紋						
SK3	117	瓦器・火鉢	5.3	27.4	24.2	070		外：凸部					正面が透台形の脚3つあり 外面→クハナダ	
SK3	118	瓦質土器・ 甕?	(13.1)			070							外面→フシガキ、内面に 新海流の印を	
SK3	119	土師質土器・ 蓋	(1.0)	6.7		非→5ね				関西系			平面形に五角形 つらみあり 内面に彫目あり	
SK3	120	土師質土器・ 土瓶	(10.2)	11.1		不明				関西系			体部外面に彫目あり 注口基部の孔は2つ	
SK3	121	土師質土器・ 蓋	2.6	16.4		つらみ付 2.9	070						表面に墨書? 外面→クナダ	
SK3	122	土師器(皿)	9.6	7.2	3.8	070				前編?				
SK3	123	土師質土器・ 楕円の火皿?	1.5	12.2		070?							中央に3つ、外周に2つの内 彫あり	
SK3	124	土師質土器・ 楕円	19.1	18.3		070		外：沈線・朱					上面部に3つつの突起 跡が3箇所	
SK3	125	不明土製品	長さ (10.8)	幅 9.3	高さ 2.9								形状は不明の壺状	
SK3	126	土製品・人形 (狍犬?)	(11.6)	幅 10.6		型打								
SK3	129	石製品・砥石	長さ (10.3)	幅 5.4	厚さ 4.5								長軸方向の4線を縦線として 使用 石材：凝灰岩?	
SK3	130	銅製品・煙管	長さ 3.7	高さ 1.9									長さ5.9g	
SK3	131	鉄製品?・器 種不明	長さ 4.0	幅 2.7	厚さ 0.3								方形の板状 長さ19.5g	
SK3	132	鉄製品・釘?	長さ (8.0)										長さ16.3g	
SK3	133	鉄製品・釘	長さ 6.0										長さ5.4g	
SK3	134	鉄製品・釘	長さ (5.5)										長さ4.1g	
SK3	135	鉄製品・釘	長さ (4.5)										長さ2.6g	
SK3-4	136	磁器・碗	4.8	9.0	(4.0)	070	染付・透明軸	外：草文文・蓮瓣 内：蓮瓣						
SK3-4	137	磁器・碗	6.0	9.2	(3.6)	070	染付・透明軸	外：蓮瓣 内：幾ジマ					反転度元	
SK3-4	138	磁器・酒飲み 杯	5.4	7.2	3.2	070	染付・透明軸	外：蓮物					反転度元	
SK3-4	139	磁器・小杯	5.0	7.0	3.0	070	染付・透明軸	外：蓮物・蓮瓣					反転度元	
SK3-4	140	磁器・小杯	4.1	7.2	3.2	070	染付・透明軸	外：蓮物					蓋台内側に彫目あり	
SK3-4	141	磁器・小杯?	2.5	6.0	(2.8)	070	染付・透明軸	外：竹?					反転度元	
SK3-4	142	磁器・皿	1.4	5.6	2.6	070	白軸						新蓋?	
SK3-4	143	磁器・合子?	1.0	5.0	4.0	070	白軸							
SK3-4	144	磁器・仏飯器	5.1	6.2	3.8	070	単軸・透明軸	外：割箸文				肥前?	19C前半～ 19C前半?	反転度元
SK3-4	145	磁器・火入れ	(4.4)		6.0	070	青軸						反転度元	
SK3-4	146	磁器・段重	3.4	5.0	(3.0)	070	染付・透明軸	外：蓮物・蓮瓣					反転度元	
SK3-4	147	磁器・盃洗	12.5	14.4	9.4	070	染付・透明軸	外：蓮物・蓮瓣 文・草文 内：蓮物・草文					跡付き	
SK3-4	148	磁器・瓶	(9.0)		3.4	070	染付・透明軸	外：蓮物・蓮瓣				肥前	19C前半	
SK3-4	149	磁器・瓶	(11.5)	2.1		070	単軸・透明軸	外：草文						
SK3-4	150	磁器・仏花瓶	10.8	2.0	4.4	070	染付・透明軸	外：蓮物・蓮瓣				肥前	19C前半	
SK3-4	151	磁器・器種不 明	(2.6)			型打	青軸						横糸線3つあり	
SK3-4	152	陶器・蓋	3.0	6.9	つらみ付 2.3	070	鉄軸						つらみはびげタン状 153?土瓶とセット	
SK3-4	153	陶器・土瓶	10.6	8.5	7.1	070	鉄軸	外：幾ひ網					口内に縦線彫の印が現存 注口基部の孔は1つ 152?土瓶とセット	
SK3-4	154	陶器・蓋	(2.4)	10.0		070	単軸	外：幾ひ網					反転度元	
SK3-4	155	陶器・片口	8.3	19.4	7.9	070	透明軸					彫込に目録 あり	関西系?	



SK4	207	磁器・蓋	1.3	5.3		ワタ	金付・透明釉	外・瀬戸・牡丹?		関西系?		つらみに梅吉の等打 288の急須とセット
SK4	208	磁器・急須	6.7	5.8	3.9	ワタ	金付・透明釉	外・瀬戸・牡丹?・唐草		関西系?		注口基部の孔は3つ 無目蓋子。有り 207の蓋とセット
SK4	209	磁器・急須	(5.7)	6.3	3.5	ワタ	金付・透明釉	外・瀬戸・亀甲(〇〇造)		関西系?		注口基部の孔は3つ
SK4	210	磁器・瓶	(4.4)			ワタ	金付・透明釉	外・惣業		肥前	19C後半	反転度元
SK4	211	磁器・瓶?	(3.9)			ワタ	青磁					
SK4	212	磁器・瓶	(4.6)	4.6		ワタ	白磁?					
SK4	213	磁器・蓮華	(2.9)	長谷 石造	4.7	型打	金付・透明釉	内・亀				
SK4	214	磁器・筆筒	9.7	4.9		型打	金付・透明釉	外・菊花の透かし葉の部分に 金付		肥前	19C代	形造は右往款 内面に磨きかす
SK4	215	陶器・碗	(4.2)		5.4	ワタ	陶胎金付	外・瀬戸・?				反転度元 高台部に鉄輪
SK4	216	陶器・碗	5.3	(7.4)	(3.4)	ワタ	白土・鉄輪?	外・尾?		関西系?		反転度元
SK4	217	陶器・碗?	(1.5)		4.6	ワタ	白磁?			志野?		反転度元 内面に磨きかす
SK4	218	陶器・小坏	3.9	6.3	3.1	ワタ	細線・灰釉			上野・高松		内外面に貫入
SK4	219	陶器・小坏	2.6	6.0	2.4	ワタ	白土					
SK4	220	陶器・鉢?	(9.1)			ワタ	鉄輪・灰釉	内: ?		尾込に白磁		外面に灰釉、内面に鉄輪と 一部灰釉
SK4	221	陶器・楕鉢	6.5	(18.0)	(6.0)	ワタ	鉄輪			赤坂?		反転度元
SK4	222	陶器・鉢?	(3.5)		6.8	ワタ	透明釉					尾込に白磁 4つ
SK4	223	陶器・灯明皿	(2.4)	(1.4)	(4.2)	ワタ	透明釉	内: マ(ハコ編み文様)		ハコ型		白磁器外面にメス付
SK4	224	陶器・楕鉢	14.3	(11.4)	(12.0)	ワタ	鉄輪					反転度元 高台付き
SK4	225	陶器・火入れ	(3.3)	10.0		ワタ	陶胎金付・ 鉄輪	外・瀬戸		肥前	18C後半	反転度元 内面に鉄輪
SK4	226	陶器・植木鉢	(2.1)	15.8	7.8	ワタ	鉄輪	外: 亀ひね				裏面に丹孔 蓋面の3か所に半円形の鉄り
SK4	227	陶器・蓋			つらみ 2.8	ワタ	鉄輪・白土・ 透明釉	外・瀬戸・厚ひね・インタン 掛け		関西系	18C後半	つらみに高台状
SK4	228	陶器・蓋	3.7	12.0	つらみ 2.1	ワタ	鉄輪・白土・ 灰釉	外・瀬戸・惣業? (白土)		関西系?		つらみにボタテ 鉄輪に鉄輪、内面に灰釉
SK4	229	陶器・蓋	1.8	9.1	つらみ 1.6	ワタ	透明釉	外: 三重の法螺		関西系?		つらみに高台状 全面に貫入
SK4	230	陶器・蓋	3.2	5.8	つらみ 1.6	ワタ	鉄輪?					つらみに今や扁平な縁状
SK4	231	陶器・蓋?	(2.4)			ワタ	鉄輪	外・瀬戸、菊花釉の陶胎(組 付)				
SK4	232	陶器・蓋	1.5	6.6	3.4	ワタ	鉄輪・透明釉			ハコ型	関西系?	つらみに小輪土塊を架け 白磁器面に鉄輪
SK4	233	陶器・蓋	3.6	7.4	つらみ 2.0	ワタ	透明釉					つらみに今や扁平な縁状 287の土瓶とセット
SK4	234	陶器・土瓶	(1.2)	8.1	2.0	ワタ	鉄輪?・白土・ 透明釉	外・梅花? (白土・鉄輪)				注口基部の孔は3つ 貫入有り、前面にメス付 287の蓋とセット
SK4	235	陶器・土瓶	(3.0)	(3.2)		ワタ	白土・鉄輪・鉄 輪?・透明釉	外: ?		白磁		反転度元
SK4	236	陶器・土瓶	10.4	8.3	3.2	ワタ	金付・白土・ 透明釉	外・瀬戸・マ(インタン掛け?)		関西系	18C後半	注口基部の孔は3つ
SK4	237	土師質土器・ 急須?	(3.6)			手づね						数字
SK4	238	土師質土器・ 急須?	(4.0)			手づね						数字、上部に「〇」の彫刻 有り
SK4	239	陶器・灯明受 け皿	1.2	6.4	(2.6)	ワタ	透明釉			関西系?	19C代	内面に透明釉・貫入
SK4	240	陶器・灯明受 け皿	3.9	5.9	4.4	ワタ	透明釉			関西系	19C代	内面に透明釉・貫入
SK4	241	陶器・乗櫛	7.5	3.7	4.5	ワタ	鉄輪			赤坂?		数字付、注口の切込線が 内面に付着
SK4	242	陶器・鉢	7.9	16.3	7.0	ワタ	透明釉			尾込に白磁 4つ残存		内外面に透明釉
SK4	243	陶器・皿?	(1.1)			ワタ	緑釉	内: マ				前面も磨く前面に鉄輪
SK4	244	陶器・行平	(12.2)	16.6	3.7	ワタ	透明釉			ハコ型		数字は磨平 蓋面にユボボタテ状の 内外筋14、前面にメス付
SK4	245	陶器・行平	10.2	14.8	6.0	ワタ	鉄輪・透明釉	外: 亀ひね 数字・マ		関西系	18C後半	内面に透明釉
SK4	246	陶器・行平	6.1	10.1	4.6	ワタ	透明釉	外: 「カマ」・〇〇の磨き				数字は磨平、貫入有り、 内外筋14、前面にメス付
SK4	247	陶器・行平?	(5.4)			型打	鉄輪・透明釉	マ		関西系	18C後半	229の蓋とセット?
SK4	248	陶器・行平?	6.9	(4.6)		ワタ	鉄輪・白土・鉄 輪?・透明釉	外: 亀ひね		関西系	18C後半	229の蓋とセット?
SK4	249	陶器・鉢	13.3	21.3	7.8	ワタ	透明釉					尾込に白磁 4つ
SK4	250	陶器・香?	(6.4)	(17.4)		ワタ	外: 二重の法螺					内面に磨きかす 4つ
SK4	251	陶器・器種不 明	(13.2)	14.0	14.2	ワタ	細線釉	外: 二 斜方向に尾込				器台形の磨きかす付
SK4	252	陶器・瓶	(12.6)		6.3	ワタ	鉄輪・透明釉	外・風車?				反転度元
SK4	253	陶器?・灯明 皿	1.4	5.8	2.8	ワタ	透明釉					口縁部にメス付 内面に貫入
SK4	254	土師質土器・ 蓋	3.2	6.3		手づね						急須の蓋か? つらみに磨平または丸か? 前面に二重白磁
SK4	255	土師質土器・ 急須	6.1	6.3	8.2	製作中	灰釉	外: 口縁に雲文(型押)		春日組・電 器	関西系	注口基部の孔は7つ 外面に磨物の付着 内面に灰釉
SK4	256	土師質土器・ 急須	6.1	7.8	(7.5)	製作中	外: キシ(型押)					反転度元 注口基部の孔は3つ 注口の隅部に亀目?付



SK4	257	陶器・急須	(1.8)			白土・透明釉	白土・透明釉					白土・透明釉
SK4	258	陶器・急須	(1.9)	0.29		白土・透明釉	白土・透明釉	内:?				白土・透明釉
SK4	259	陶器・茶壺?	3.7	0.40	3.4	手づね	白土・透明釉	外:足平・面(白土)				
SK4	260	土師質土器・こね鉢	12.2	35.2	14.3	叩削		外:変状の表面		へらツクリ	裏付	白線外周を把握させる 外周へらツクリ、内周を白線内面に赤色顔料塗布
SK4	261	土師器・皿	1.2	7.3		叩削				裏切		
SK4	262	土師器・皿	2.9	11.0	7.4	叩削				裏切		
SK4	263	土製品・人形(胎)	長さ (2.2)	長さ (5.3)	幅 (1.8)	型打		外:下平に滑の文様				表面に顔色の付着物有り
SK4	264	土製品・人形(人物)	(3.3)			型打						人物の顔面
SK4	265	銅製品?・器種不明	径 3.2	厚さ 0.5								円板状 長さ3.1g
SK4	266	金属製品・用途不明	厚さ 0.4	長さ 2.7	幅 2.8							平面部が縦長の二等辺三角形に深い縦状の彫刻、縦玉は斜めの合巻?
SK4	267	銅製品・煙管	長さ 8.7	径 0.7								長さ10.0g
SK4	268	石製品・基石	径 2.1	厚さ 0.3								長さ3.2g
SK4	269	石製品・硯	厚さ 0.7	長さ 14.8	幅 4.5			表面に彫刻による文字				平面部が長方形 ほぼ直交の彫刻、縦玉は斜めの合巻?
SK4	271	木製品・蓋	長さ (17.6)	幅 26.4	厚さ 0.7							平面部が長方形 ほぼ直交の彫刻、縦玉は斜めの合巻?
SK4	272	木製品・底板?	径 (26.6)		厚さ 0.9							曲げ物の彫刻が 縦横、3平?
SK4	273	木製品・箸	長さ (13.1)		太さ 0.55							彫刻・不明
SK4	274	木製品・建築部材?	長さ 10.5	幅 2.3	厚さ 4.8							彫刻? 縦横、3平または3/4平?
SK5	275	磁器・碗	4.7	9.0	3.2	叩削	染付・透明釉	外:マ・縦線 内:?				
SK5	276	磁器・碗	(2.6)		(4.0)	叩削	色絵・透明釉	外:マ・縦線				反転度なし 器が縦向き
SK5	277	磁器・小杯	2.9	4.8	2.9	型打	染付	外:草花文 内:草花文				
SK5	278	磁器・小杯	4.3	0.1	(3.4)	叩削	染付・透明釉	外:マ・縦線				反転度なし
SK5	279	磁器・小杯	(4.0)	6.20		叩削	染付・透明釉	外:丸線(1本)・縦線 内:草文・縦線				反転度なし
SK5	280	磁器・猪口	3.5	(5.0)	(3.0)	叩削	染付・透明釉	外:長線の短点 内:長線の短点				反転度なし
SK5	281	磁器・段重	4.8	(11.0)	(10.0)	叩削	色絵・透明釉	外:龍・土				反転度なし
SK5	282	磁器・急須	3.2	6.40	(6.0)	叩削	染付・透明釉	外:龍脚・縦線				反転度なし
SK5	283	陶器・土瓶	3.5	8.6	7.4	叩削	白土・灰釉	外:輪花			裏し、掛け	反転度なし 口は直交の角は3/4つ
SK5	284	陶器・壺	2.9	(3.4)		叩削	透明釉	外:龍脚(1本)				反転度なし 口は直交の角は3/4つ
SK5	285	陶器・蓋	1.5	8.5	3.1	叩削	白土・透明釉	外:亀のつまみ			裏切	陶器品 19C代?
SK5	286	土師質土器・火酒し壺?	(8.0)			叩削						内面スリ付着
SK5	287	土師質土器・焙烙	(4.4)	(24.2)		叩削						反転度なし 内面?が、外周へらツクリ 内面スリ付着
SK5	288	土師質土器・こね鉢	(12.6)	(47.2)	(19.4)	叩削		外:変着			裏面に変着	反転度なし 内面へらツクリが、外周 がツクリツクリ
SK5	289	土師器・皿	1.3	0.6	(0.4)	叩削				裏切		反転度なし
SK5	290	鉄製品・小刀?	長さ (10.8)	幅 0.29	厚さ 0.7							長さ3.1g
SK6	291	磁器・ソコ猪口	(6.3)	(9.2)	(6.1)	叩削	白釉					反転度なし
SK6	292	陶器・碗	(4.5)	(11.4)		叩削	白土・染付・透明釉	外:草文				反転度なし
SK6	293	土師器・皿	1.3	7.1	5.3	叩削				裏切		反転度なし
SK6	294	土師器・皿	(1.4)	8.20	(7.0)	叩削				裏切		反転度なし
SK6	295	陶器・蓋	1.9	2.3		叩削	透明釉			裏切		反転度なし
SK6	296	銅板・寛永通寶	径 2.3	厚さ 0.12								長さ6g
SK7	297	陶器・碗	(3.6)			叩削	白土・透明釉	外:刷毛目 内:刷毛目			見込に白線	17世紀代?
SK7	298	土師器・皿	1.2	9.0	7.4	叩削				裏切		反転度なし
SK8	299	磁器・ソコ猪口	(4.0)	(8.4)		叩削	染付・透明釉	外:網目・丸文(花)			肥前	1710~1730年 代
SK8	300	磁器・ソコ猪口	5.6	7.4	3.9	叩削	白釉					反転度なし
SK9	301	磁器・碗	4.9	(10.2)	4.1	叩削	染付・透明釉	外:水雲文				反転度なし
SK9	302	磁器・碗	(2.1)		4.5	叩削	染付・透明釉	外:丸文・水雲文				反転度なし
SK9	303	磁器・瓶	(4.8)	(6.6)	(6.2)	叩削	染付・透明釉	外:縦線				
SK9	304	陶器・碗	5.5	(10.0)	4.0	叩削	灰釉・透明釉	外:裏し、掛け				裏面が?
SK9	305	陶器・碗	5.9	10.4	3.8	叩削	灰釉?	外:裏し、掛け				貫入有り ゆがみ有り
SK9	306	陶器・皿	1.9	11.0		叩削	?					
SK9	307	陶器・花瓶?	(6.4)			型打	染付・灰釉?	外:マ(型打)				平面部内面 白線外周部と2本の白線
SK9	308	陶器・椀鉢	(6.9)			叩削						
SK9	309	土師器・皿	1.3	9.2	8.0	叩削				裏切		
SK9	310	土師器・皿	1.5	9.0	6.8	叩削				裏切		スリ付着
SK9	311	土師器・皿	1.5	8.20	7.1	叩削				裏切		反転度なし
SK10	312	磁器・小杯	(4.8)			叩削	染付・透明釉	外:縦線・草花文?				

SK10	313	土師質土器・ 片口	06.1)	09.2)	07.0)								反転直交 内外面ともヘラツブシナツ	
SK11	314	磁器・小杯	3.3	6.6	3.5	07.0)	染付・透明釉	外: 英文					見込に白色付着	
SK11	315	陶器・楕鉢	08.3)			07.0)	鉄釉						口縁外側面に4軸の凹線	
SK12	316	磁器・酒飲み	6.7	07.6	14.2)	07.0)	染付・透明釉	外: 蘭語・和・竹・英文 内: 蘭語・西方様文 見込: 玉舟文	ロンコヤク 印用		肥前	1740～1780年 代	反転直交	
SK12	317	磁器・皿	4.1	03.2)	09.0)	07.0)	染付・透明釉	外: 並書草文 内: 草花文 見込: 玉舟文	ロンコヤク 印用	高橋	肥前	1690～1710年 代	反転直交	
SK12	318	磁器・皿	4.1	07.0)	03.0)	07.0)	染付・透明釉	外: 並書草文 内: 草花文 見込: 玉舟文			肥前	18C代	反転直交	
SK12	319	磁器・鉢?	02.9)		11.0)	07.0)	染付・透明釉	外: 並書草文 内: 見込・蘭文		高橋	肥前	18C代	反転直交	
SK12	320	磁器・鉢	9.4	01.0)	06.0)	暫打?	青磁	青磁・染付 見込: ?・蘭文					反転直交 口縁に凹線4輪並	
SK12	321	磁器・火入 皿?	03.0)		06.7)	07.0)	青磁						口・目留型露出	
SK12	322	磁器・鉢	05.3)		6.4	07.0)	染付・透明釉	外: 草花文 見込: 草花文						
SK12	323	陶器・碗	3.7	09.0	4.9	07.0)	灰釉・鉄釉?	外: 瓦・鉄・不(灰釉)						反転直交 貫入有
SK12	324	陶器・碗	01.6)		4.6	07.0)	透明釉	内: 輪文						貫入有
SK12	325	陶器・碗	02.6)		4.5	07.0)	白土・灰釉	外: 輪毛目 内: 輪毛目				肥前	17C後半?	反転直交
SK12	326	陶器・酒飲み	06.0)	06.2)		07.0)	灰釉							反転直交 貫入有
SK12	327	陶器・鉢?	14.6)		13.0)	07.0)	白土・鉄釉	外: 輪毛目 内: 輪毛目			肥前	17C後半?	反転直交 見込面有 見込面有 見込面有 見込面有	
SK12	328	土師質土器・ 俵形	05.7)	03.0)		07.0)								反転直交 口縁に突片付着
SK12	329	土製品?	03.5)											上端部に孔
SK13	330	磁器・碗	03.4)		4.4	07.0)	染付・透明釉	外: ?						新台形面に口縁目録
SK13	331	磁器・碗	02.2)		3.2	07.0)	染付・透明釉	外: 蘭語						反転直交
SK13	332	磁器・小杯	02.5)		02.0)	07.0)	白磁							反転直交
SK13	333	陶器・鉢	02.8)			07.0)	灰釉	内: 蓮華						反転直交
SK13	334	陶器・器種不 明	02.0)		3.6	07.0)	透明釉							反転直交 貫入有
SK14	335	磁器・碗	6.0	01.0)	14.7)	07.0)	染付・透明釉	外: 蘭語・草花文・蘭語文 内: 西方様文 見込: 草花文				肥前	1740～1780年 代	反転直交
SK14	336	磁器・碗	6.0	06.9)	03.0)	07.0)	染付・透明釉	外: 蘭語・草花(蘭?) 内: 西方様文 見込: ?				肥前	18C後半?	反転直交
SK14	337	磁器・碗	5.1	09.0)	3.7	07.0)	染付・透明釉	外: 草木文				肥前	18C後半?	反転直交
SK14	338	磁器・碗	14.1)	09.2)		07.0)	青磁							口縁に凹線・平形露出
SK14	339	磁器・皿	3.8	04.0)	8.8	07.0)	染付・透明釉	外: 並書草文 内: 梅・草花文 見込: 松竹蘭四羽				肥前	1740～1780年 代?	口縁に凹線 口・目留型露出 外縁部に目録
SK14	340	磁器・器種不 明	02.4)	長志 14.1)		暫打	染付・透明釉	外: 蘭語草文						口・目録?
SK14	341	磁器・器種不 明	06.5)	5.3		07.0)	染付・透明釉	外: 蘭語・和						反転直交
SK14	342	磁器・鉢?	14.1)			07.0)	青磁							口・目留型露出
SK14	343	陶器・碗	8.1	11.4	4.8	07.0)	灰釉?	灰釉?						
SK14	344	陶器・土瓶	07.1)	06.2)		07.0)	白土・鉄釉	外: 草花(梅?)						
SK14	345	陶器・徳利	14.1)		9.4	07.0)	白土・透明釉	外: 白土の染込・灰釉						
SK14	346	陶器・楕鉢	09.8)											口縁外側面に4軸の凹線
SK14	347	陶器・鉢	9.2	03.0)	06.0)	07.0)	白土・透明釉	外: 輪毛目 内: 輪毛目						反転直交
SK14	348	陶器・徳利	14.9)		7.5	07.0)	鉄釉	外: 輪毛・大黒文(染付)						反転直交 見込に目録
SK14	349	土師質土器・ 俵形	02.5)	09.8)	02.0)	07.0)		外: 並書草文(暫打)						反転直交 外縁に凹線・貫入有
SK15	350	磁器・碗	7.6	02.0)	06.1)	07.0)	染付・透明釉	外: 中国文字・蘭語 内: 蘭語 見込: 蘭語				肥前	1780～1810年 代	反転直交 広東紙・貫入有
SK15	351	磁器・碗	14.6)		14.2)	07.0)	染付・透明釉	外: 英文(CN字)・蘭語				肥前	18C後半?	反転直交
SK15	352	磁器・皿	01.5)			07.0)	染付・透明釉	外: 草花文 内: 草花文						
SK15	353	陶器・鉢	02.0)			07.0)	鉄釉・透明釉	内: 蘭文						
SK15	354	陶器・碗	6.5			07.0)	白土・透明釉	外: 蘭語文(輪毛目)						
SK15	355	土師質土器・ 皿	2.0	16.6	7.8	07.0)								
SK15	356	磁器・皿	03.3)	01.4)		07.0)	染付・透明釉	外: 並書草文 内: 草花文				肥前	1700～1740年 代	反転直交 口縁に凹線の輪文・貫入有
SK15	357	磁器・蓋	3.9	10.4	つぎの項 3.8	07.0)	染付・透明釉	外: 草花文・蘭語						
SK15	358	磁器・猪口	02.9)		4.4	07.0)	染付・透明釉	外: ?・蘭語						
SK15	359	磁器・仏花瓶	02.2)		02.0)	07.0)	青磁	青磁						
SK15	360	磁器・香炉	02.5)			07.0)	青磁	青磁						
SK15	361	陶器・碗	06.0)		4.8	07.0)	灰釉	灰釉						
SK15	362	土師質土器・ 皿	1.3	06.4)	06.0)	07.0)								
SK15	363	土師質土器・ 皿	1.2	7.8	3.7	07.0)								
SK15	364	瓦質土器・火 鉢	01.2)			07.0)?								
SK16	365	磁器・皿	3.3	14.4)	3.1	暫打	青磁	見込: 砂文(暫打)						反転直交・輪文露 露出面に口・目録
SK16	366	磁器・蓋	1.1	09.0)		07.0)	染付・透明釉	外: 蘭語・草花文						反転直交・種不詳?
SK16	367	磁器・鉢	14.5)	3.2)		07.0)	白磁							反転直交

SK16	368	陶器・碗	8.7	(12.6)	3.2	0770	透明釉							反転底文 裏面に印込有り
SK16	369	陶器・碗	(3.9)		5.3	0770	灰青色の釉							反転底文・裏入有り
SK16	370	陶器・鉢	9.4	(25.1)	11.1	0770	鉄釉・白土・透明釉	外:黄斑文(刷毛目)						反転底文 裏面に加土目跡つ
SK16	371	陶器・壺?	(6.9)		(6.5)	0770	鉄釉・白土・透明釉	外:黄斑文(刷毛目)						反転底文
SK16	372	陶器・鉢	(6.5)		(14.2)	0770	鉄釉・白土・透明釉	内:黄斑文・同心円文(白土)						裏面に印目 肥前
SK16	373	陶器・鉢	(6.2)			0770	刷毛目 透明釉							反転底文
SK16	374	土師器・皿	1.8	10.4	7.5	0770								赤褐色
SK16	375	土師器・皿	1.5	(0.8)	8.0	0770								赤褐色
SK16	376	土師器・皿	1.9	10.4	7.7	0770								反転底文 白線部にスス付着
SK16	377	土師器・皿	2.1	9.4	(8.0)	0770								反転底文
SK16	378	土製品・人形(舟)	(1.5)	長さ 14.0	幅 12.0	型打								反転底文
SK16	379	土製品・土鍾	長さ (3.2)	幅 1.1		手・つね								長さ4.9g
SK16	380	土製品・土鍾	長さ (2.9)	幅 1.2		手・つね								長さ4.9g
SK16	381	鉄製品・釘?	長さ (8.6)											長さ16.9g
SK16	385	鉄製品・釘?	長さ (7.6)											長さ12.9g
SK16	386	銅製品・器種不明	長さ (6.2)	幅 (5.2)	厚さ 0.1									方形の平面で四孔5つ有り 長さ20.7g
SK16	387	銅製品・煙管	長さ 4.5+4.4											長さ4.7g+2.5g
SK17	388	銅鏡・元豊通寶	径 2.4	厚さ 0.15										長さ2.9g
SK18	389	磁器・碗	5.3	9.0	(4.2)	0770	染付・透明釉	外:二重線目・細線 内:一重線目・細線 見込:青花文・細線						縦有り 肥前 18C前半
SK18	390	磁器・碗	(4.4)		4.6	0770	染付・透明釉	外:青花文?						「大明年製」 肥前
SK18	391	磁器・碗	1.6		2.8	0770	染付・透明釉	外:青花文 見込:青花文						肥前 1819年以降
SK18	392	磁器・碗	(3.2)		(4.0)	0770	色絵・透明釉	外:紅・黄・赤・紫・黒文?						縦有り 反転底文
SK18	393	磁器・碗	5.3	(10.2)	2.8	0770	染付・透明釉	外:細線・動物文・草木文 内:細線 見込:						
SK18	394	磁器・碗	(2.2)		(4.4)	0770	染付・透明釉	外:雲龍文・?						透磁 肥前 18C前半?
SK18	395	磁器・碗	(4.5)		(4.4)	0770	染付・透明釉							反転底文
SK18	396	磁器・碗	6.0	(0.0)	4.6	0770	染付・透明釉	外:鳥脚 見込:花文?						見込12cmノ 耳輪跡有 肥前 (唐色見)
SK18	397	磁器・碗	5.3	(10.2)	(4.6)	0770	染付・透明釉	外:?						肥前 18C前半?
SK18	398	磁器・小杯	3.2	8.0	2.4	0770	染付・透明釉	外:草木文 見込:花文?						肥前 18C前半?
SK18	399	磁器・小杯	(1.8)		2.6	0770	染付・透明釉	外:草木文 見込:花文?						肥前 18C前半?
SK18	400	磁器・清口	(3.2)			0770	白磁							裏入有り
SK18	401	磁器・皿	1.8	9.0	3.1	型打	白磁	内:草木(型打)						白線2輪着
SK18	402	磁器・鉢	9.7	(11.6)	(15.0)	0770	染付・透明釉	外:花唐草文 内:雲唐草文 見込:青花文						縦有り 肥前 18C代
SK18	403	磁器・鉢	8.4	(13.6)	8.4	0770	染付・透明釉	外:草木文 見込:玉唐草	コンコウヤ 埋刻					「大明年製」 肥前 18C代
SK18	404	磁器・器種不明	(3.5)			0770	染付・透明釉	外:龍唐草文						反転底文
SK18	405	磁器・器種不明	7.1	(5.1)	3.0	0770	青磁	外:龍方向の印線						反転底文
SK18	406	磁器・火入丸	(2.0)	9.0		0770	染付・透明釉	外:龍脚・風車						反転底文 裏面に印線
SK18	407	陶器・碗	82.0	(11.0)	(3.2)	0770	陶刻染付・ 鉄釉・透明釉	外:龍脚・唐草文・風車?						肥前系 18C前半?
SK18	408	陶器・碗	(4.9)		3.0	0770	鉄釉	外:?						反転底文 裏面に印線
SK18	409	陶器・碗	(2.5)		3.0	0770	白土・ 透明釉							小石唐草? 18C前半?
SK18	410	陶器・碗	(5.4)			0770	鉄釉							反転底文
SK18	411	陶器・皿	3.3	(11.8)	4.1	0770	刷毛目・ 透明釉							裏面に印目
SK18	412	陶器・楕鉢	9.0			0770	鉄釉							白線部部を内外方に折曲し、 鉄釉を塗布
SK18	413	陶器・楕鉢	13.6	(35.3)	(16.0)	0770								白線外側面に唐草文の印線
SK18	414	陶器・楕鉢	(6.1)			0770								白線部部を内外方に折曲し、 鉄釉を塗布
SK18	415	土師質土器・ 唐壺	9.1	(24.0)		0770								反転底文 長途→ウケズリ、内面子ナ?
SK18	416	土師質土器・ 丹口	(4.6)			0770								反転底文
SK18	417	土師器・皿	1.6	8.6	6.6	0770								白線部にスス付着
SK18	418	土師器・皿	1.5	8.6	6.3	0770								赤褐色
SK18	419	土師器・皿	1.1	(7.4)	(5.0)	0770								反転底文
SK18	420	土師器・皿	1.5	9.2	8.6	0770								白線部にスス付着
SK18	421	土師器・皿	2.2	10.9	8.1	0770								白線部にスス付着
SK18	422	磁器・碗	(7.1)	(19.3)	(3.1)	0770	白磁							反転底文
SK18	423	土製品・人形(俵)	高さ (8.2)	幅 5.0	厚さ 12.0	型打								中央に窪み・孔有り
SK18	424	石製品・砥石	長さ (4.8)	幅 5.0	厚さ (1.1)									方形・厚薄? (天草石?) 長さ39.6g
SK18	425	石製品・砥石	長さ (5.9)	幅 5.0	厚さ (0.8)									方形・厚薄? (天草石?) 長さ22.9g
SK18	426	鉄製品・器種不明	長さ (14.5)	幅 6.0	高さ 16.2									六角? 長さ396.8g



SK24	483	磁器・碗	(5.2)	(10.0)	(4.6)	0.70	染付・透明釉	外: 藍染・草花文 内: 藍染	見込に肥す 白磁器			反転復元 貫入有
SK24	484	磁器・碗	5.7	(6.0)	(4.2)	0.70	染付・透明釉	外: 藍染・草花文 内: 藍染・青黄文 見込: 草花文				反転復元 無反転
SK24	485	磁器・碗	5.5	00.0	(4.2)	0.70	染付・透明釉	外: 藍染・紅梅の姿 内: 藍染・桃の文 見込: 藍染	肥前	1820～1860年 代	反転復元 縁外縁子有	
SK24	486	磁器・碗	6.2	(11.0)	4.4	0.70	染付・透明釉	外: 丸文(大冲) 内: 藍染 見込: 草花文	肥前	1850～1860年 代	2001: 文様	
SK24	487	磁器・碗	(5.2)	(11.0)		0.70	染付・透明釉	外: 藍染・草花文・藍染 内: 西方木文・藍染	肥前	1800年	反転復元	
SK24	488	磁器・碗	5.2	10.8	3.8	0.70	染付・透明釉	外: 藍染・草花文 内: 藍染 見込: 草花文				無反転
SK24	489	磁器・碗	3.7	(10.0)	(4.2)	0.70	染付・透明釉	外: 藍染・草花文 内: 藍染 見込: 藍染				反転復元
SK24	490	磁器・碗	3.2	(10.2)	4.2	0.70	染付・透明釉	外: 藍染・二重梅子 内: 藍染・二重梅子 見込: 藍染	肥前(黄化 品)	1820～1860年 代	反転復元	
SK24	491	磁器・碗	(4.7)	0.20	3.4	0.70	染付・透明釉	外: 藍染・梅花 見込: 草花文				無反転
SK24	492	磁器・碗	4.2	8.4	3.6	0.70	染付・透明釉	外: 藍染・花文 内: 藍染 見込: 草花文				無反転
SK24	493	磁器・碗	4.6	0.0	(3.0)	0.70	染付・透明釉	外: 藍染・梅花・木羽文 内: 藍染・梅花・木羽文				反転復元 無反転
SK24	494	磁器・碗	4.3	(7.0)	(3.0)	0.70	染付・透明釉	外: 藍染・草花文 内: 藍染	瀬戸美濃?			反転復元 貫入有
SK24	495	磁器・碗	4.2	0.0	(2.0)	0.70	染付・透明釉	何?	白磁			反転復元 無反転
SK24	496	磁器・碗	4.1	(7.0)	(3.2)	0.70	白磁	見込: 雲(雲母)	瀬戸美濃?	1850～		反転復元
SK24	497	磁器・碗	(3.0)	0.0	3.8	0.70	染付・透明釉	外: 草花文?・藍染 見込: 草花文	磁面に縁有	肥前	1740～1740年 代	無反転
SK24	498	磁器・碗	4.8	9.5	4.8	0.70	色絵・透明釉	外: 藍染・扇文・草花文 見込: 草花文	肥前	1810～1860年 代	無反転 縁外縁子・青・金色	
SK24	499	磁器・碗	(4.0)	0.0	(4.0)	0.70	色絵・透明釉	外: 藍染・花文 見込: 草花文	肥前	1810～1860年 代	無反転 縁外縁子・金色	
SK24	500	磁器・碗	(4.0)	0.70	(4.0)	0.70	色絵・透明釉	外: 藍染・花文 見込: 草花文				反転復元 縁外縁子 縁外縁子・青・金色
SK24	501	磁器・碗	4.1	8.2	(3.0)	0.70	染付・透明釉	外: 草花文 見込: 草花文				反転復元 無反転
SK24	502	磁器・酒飲み	5.8	6.8	3.3	0.70	染付・透明釉	外: 丸文(大冲) 内: 草花文				反転復元 縁外縁子・白磁
SK24	503	磁器・酒飲み	4.9	6.0	(3.0)	0.70	染付・透明釉	外: 丸文(大冲)				反転復元 縁外縁子・白磁
SK24	504	磁器・小杯	3.7	0.30	(2.5)	0.70	染付・透明釉	外: 藍染・草花文	磁面に縁有	瀬戸美濃?		反転復元
SK24	505	磁器・小杯	(3.0)	0.0		0.70	染付・透明釉	外: 藍染・扇文				反転復元 許諾: 縁外縁子の後半縁
SK24	506	磁器・小杯	3.7	(7.0)	(3.0)	0.70	白磁					反転復元
SK24	507	磁器・小杯	3.5	0.40	(2.0)	0.70	染付・透明釉	外: 草花文				反転復元
SK24	508	磁器・小杯	(3.0)	0.30	(3.0)	0.70	色絵・透明釉	外: 藍染・雲?				反転復元 縁外縁子・金色
SK24	509	磁器・小杯	2.7	5.0	3.8	0.70	染付・透明釉	外: 草花文?				反転復元
SK24	510	磁器・小杯	2.8	(5.0)	(2.0)	0.70	染付・透明釉	見込: 縁外縁子	白磁			反転復元
SK24	511	磁器・小杯	(2.5)	0.20		0.70	染付・透明釉	外: 草花文?				反転復元
SK24	512	磁器・小杯	2.6	5.0	2.6	0.70	染付・透明釉	外: 草花文?				反転復元
SK24	513	磁器・小杯	3.5	3.8	2.8	0.70	色絵・透明釉	外: 藍染・雲母?・花文				縁外縁子・青・金色
SK24	514	磁器・皿	0.4	12.1	7.1	暫打	染付・透明釉	外: 草花文 見込: 梅枝・扇文	見込に白磁 少?	肥前	1800年～1900 年	縁外縁子・白磁 縁外縁子・白磁
SK24	515	磁器・皿	3.4	(2.0)	7.2	暫打	白磁		見込に白磁 少?	肥前	1800年～1900 年	縁外縁子・白磁 縁外縁子・白磁
SK24	516	磁器・碗	(2.7)		4.4	0.70	染付・透明釉	外: 小ぶ 見込: 小ぶ				無反転
SK24	517	磁器・皿	2.5	0.00	4.4	0.70	染付・透明釉	外: 草花文 見込: 扇文・丸文	白磁(染付)			反転復元
SK24	518	磁器・皿	2.6	9.4	3.2	暫打	染付・透明釉	見込: 風景				無反転
SK24	519	磁器・紅皿	1.2	(4.0)		0.70	白磁	外: 草花文(雲母)				無反転
SK24	520	磁器・角皿	2.3	0.30	(2.0)	暫打	染付・透明釉	外: 藍染 内: 藍染 白磁・藍染文				平置型は方形
SK24	521	磁器・皿	4.7	(11.0)		暫打	青磁	内: 丸文				典型的な蓋(縁・足付)
SK24	522	磁器・鉢	6.5	(16.0)	(8.0)	暫打	染付・透明釉	外: 風景・藍染文 内: 英文・丸文(大冲)・松 見込: 草花文				反転復元 八角皿・縁/白磁器 縁外縁子・白磁器
SK24	523	磁器・鉢?	(3.0)	(12.0)		0.70	染付・透明釉	外: 藍染 内: 丸文・藍染				反転復元
SK24	524	磁器・鉢	(3.0)		(6.0)	0.70	染付・透明釉	外: 藍染・草花文? 内: 藍染 見込: 草花文	肥前	1800年～1900 年	反転復元 縁/白磁器 縁外縁子	
SK24	525	磁器・蓋	3.2	9.1	つまみ 3.6	0.70	染付・透明釉	外: 藍染・梅花・木羽文 内: 英文・木羽文 見込: 松竹梅扇形・藍染	縁有	肥前	1820～1860年 代	縁外縁子有
SK24	526	磁器・蓋	2.6	8.2	つまみ 3.3	0.70	染付・透明釉	外: 藍染・おひらき? 内: 藍染 見込: 草花文				縁外縁子有
SK24	527	磁器・蓋	(2.0)	0.20	つまみ 3.4	0.70	染付・透明釉	外: 藍染・丸文(大冲) 内: 藍染				反転復元 縁外縁子・白磁
SK24	528	磁器・蓋	(1.2)	(4.0)		0.70	無反転?・ 透明釉	外: 丸文				反転復元 白磁器に赤色顔料?付
SK24	529	磁器・蓋	(1.0)	(5.0)		0.70	染付・透明釉	外: 花				反転復元 縁外縁子有
SK24	530	磁器・蓋	(0.7)	(5.0)		0.70	染付・透明釉	外: 藍染・丸文(大冲)・扇?				反転復元
SK24	531	磁器・蓋	(2.0)			0.70	染付・透明釉	外: 縁外縁子・英文・藍染				縁外縁子有

SK24	532	磁器・蓋	3.8	(11.6)		白	金付・透明釉	外: 藍緑・緑・牡丹				
SK24	533	磁器・合子?	1.7	96.0	(8.4)	白	白釉				透漚の蓋?	
SK24	534	磁器・段重	(4.1)	(12.4)		白	金付・透明釉	外: 赤文・刺繍文・雲文・?			反転底元 紫さ緑ざ有り	
SK24	535	磁器・段重	3.3	7.7	6.8	白	金付・透明釉	外: 赤文(人物・乗馬武士)・紫 文・刺繍				
SK24	536	磁器・碗	(3.6)		6.9	白	金付・透明釉	外: 刺繍・赤文文?		表面に緑有		
SK24	537	磁器・仏飯器	5.3	6.0	3.7	白	金付・透明釉	外: 刺繍・赤文文?		肥前	18C後半以降	
SK24	538	磁器・仏飯器	6.0	66.3	(3.8)	白	金付・透明釉	外: 刺繍・刺繍赤文		肥前	18C後半以降	
SK24	539	磁器?・仏飯器?	(3.8)	(5.7)		白	緑釉・透明釉	外: 刺繍・刺繍赤文			表面に砂目跡	
SK24	540	磁器・蓮華	(3.5)	黒さ 0.3		白	金付・透明釉	内: ?			反転底元	
SK24	541	磁器・器種不 明	(5.8)	(3.6)	(5.2)	白	増釉・ 透明釉	外: 刺繍(白土・赤色の刺)			3ヶ所に跡付	
SK24	542	磁器・火入れ?	(4.8)		(7.8)	白	青釉				反転底元 内面に砂目跡	
SK24	543	磁器・瓶?	(3.1)	5.8		白	金付・透明釉	外: ?			反転底元	
SK24	544	磁器・瓶	19.0	1.9	3.4	白	金付・透明釉	外: 赤文?		肥前	1780~1860年代 高台に砂目跡	
SK24	545	磁器・瓶	(6.2)	(4.8)		白	金付・透明釉	外: 赤花文?・刺繍		肥前	1780~1860年代 反転底元	
SK24	546	磁器・瓶	(6.0)			白	金付・透明釉	外: 赤花文		肥前	1780~1860年代 反転底元	
SK24	547	磁器・瓶	(3.5)		(7.4)	白	金付・透明釉	外: ?			反転底元	
SK24	548	磁器・器種不 明	(10.3)			白	金付・透明釉	外: 刺繍			刺繍の刺、 貫入有り	
SK24	549	磁器・器種不 明	(3.6)		(12.6)	白	金付・透明釉	外: 赤文			反転底元 跡付か・紫さ緑ざ有り	
SK24	550	磁器・瓶	(7.3)	体積率 13.0	(7.0)	白	金付・透明釉	外: ?・刺繍			反転底元	
SK24	551	陶器・碗	(3.0)	99.3		白	色釉・透明釉	外: 赤花文			反転底元 緑色に白・薄緑色 貫入有り	
SK24	552	陶器・碗	5.4	99.6	(4.0)	白	透明釉				反転底元 紫反転・貫入有り	
SK24	553	陶器・碗	(2.0)		4.4	白	陶器金付・ 透明釉	見込: 玉串文・刺繍		コンコヤ? 印付	高台内面に砂目跡	
SK24	554	陶器・小坏	3.8	7.0	3.2	白	灰釉				反転底元	
SK24	555	陶器・小坏	4.0	7.4	3.0	白	白色釉・ 透明釉				貫入有り	
SK24	556	陶器・小坏	3.8	6.0	(2.0)	白	灰釉・緑釉				反転底元 貫入有り	
SK24	557	陶器・猪口	3.0	96.0	(2.8)	白	金付・透明釉	外: 刺繍・文字・刺繍文・? 内: 刺繍・竹?			反転底元 貫入有り	
SK24	558	陶器・猪口	4.5	66.3	(3.0)	白	色釉・透明釉	内: 竹?		ニラウツ?	高台に切込有り	
SK24	559	陶器・皿	(2.0)		(3.4)	白	色釉・透明釉	内: 竹?			貫入有り 緑色に赤・薄緑色	
SK24	560	陶器・皿	(2.0)	99.6		白	白土・透明釉	見込: 刺繍・赤・青文(白土の 刺)		肥前・八代 造?	18C後半以降 反転底元	
SK24	561	陶器・皿	4.7	(18.6)	(8.2)	白	鉄釉・透明釉	見込: ?		見込に白釉 刺繍に紫? 目録誤り	反転底元	
SK24	562	陶器・鉢	4.7	(33.8)	5.0	白	鉄釉				反転底元	
SK24	563	陶器・皿	4.6	(7.3)	(6.8)	白	白土の肉厚 不十分	黒色釉	外: 反転の刺付		紫焼?	反転底元 跡付は紫?の遺証 外面に白に?紫?の印跡
SK24	564	陶器・角皿	(3.0)	(8.8)		白	緑釉・透明釉	内: 玉串文(刺繍) 見込: 獅子(刺繍)		瀬戸美濃	19C代	
SK24	565	陶器・皿?	(3.0)		(4.2)	白	白土・透明釉			見込に目録 かつ残存	反転底元	
SK24	566	陶器・鉢	3.5	(33.8)	(3.2)	白	透明釉			見込に目録 かつ	反転底元 土当り・貫入有り	
SK24	567	陶器・鉢	8.6	(4.8)	(6.2)	白	透明釉				反転底元 貫入有り	
SK24	568	陶器・楕鉢	(3.7)			白	鉄釉?			緑?	白釉・刺繍跡 跡は紫?の遺証	
SK24	569	陶器・楕鉢	6.6	(18.6)	(7.1)	白	鉄釉?				反転底元	
SK24	570	陶器・蓋	3.2	12.9	3.7	白	鉄釉	外: 刺繍・亀甲刺		関西系	18C後半	
SK24	571	陶器・蓋	2.1	98.0	3.6	白	白土・透明釉			河橋へつり へ?	反転底元 つらみに亀 反転底元	
SK24	572	陶器・蓋	(2.8)	(2.0)	(9.7)	白	灰釉?	外: 亀甲刺			反転底元	
SK24	573	陶器・蓋	2.1	3.5	3.3	白	ツラツラ?			赤焼?		
SK24	574	陶器・蓋	2.0	7.9	3.5	白	透明釉			河橋へつり へ?	関西系	
SK24	575	陶器・蓋	(1.6)	8.3	4.4	白	白土	外: 注連			貫入有り	
SK24	576	陶器・蓋	1.0	3.1		白	増釉?					
SK24	577	陶器・蓋	4.3	(14.2)	(13.5)	白	鉄釉・白土・ 緑釉・透明釉	外: 刺繍・花文?・亀甲刺		関西系	18C後半	
SK24	578	陶器・蓋	(1.7)			白	鉄釉・白土・ 緑釉・透明釉	外: 亀甲刺?		関西系	18C後半	
SK24	579	陶器・行平	(3.8)			白	鉄釉・透明釉	外: 亀甲刺		関西系		
SK24	580	陶器・行平?	(3.0)			白	鉄釉・透明釉	上: 人物・花(型打) 下: ?の刺(型打)		関西系?	取手跡	
SK24	581	陶器・行平	(6.6)			白	鉄釉	外: 亀甲刺		関西系	取手跡	
SK24	582	陶器・行平?	(2.3)			白	鉄釉	上: 人物(背袋に春日旗、型 打)		関西系?	取手跡	
SK24	583	陶器・片口	9.4	(22.8)	(8.0)	白	灰釉・透明釉				反転底元 貫入有り 口縁を外力に割内面?	
SK24	584	陶器・鉢	(7.9)	(18.4)		白	鉄釉				反転底元・取手付	
SK24	585	陶器・鉢	(16.7)	(21.8)		白	鉄釉				反転底元・取手付	
SK24	586	陶器・急須?	(2.3)			白	透明	下: ?の刺(型打)			取手跡	
SK24	587	陶器・急須?	(4.8)			白	透明	上: 刺山の刺(型打)			取手跡	

SK24	588	陶器・急須?	6.6	7.00	6.6	070	鉄線			関西系		反転還元 鉄手文様
SK24	589	陶器・急須	(5.0)	(5.0)		070	鉄線・透明線	外:草花文?				反転還元 注口基部の孔は3つ
SK24	590	陶器・急須	(5.4)	5.1	(5.6)	070	鉄線?	外:イロツチ・雲文				注口基部の孔は2個 鉄手外面に「急」の刻印
SK24	591	陶器・土瓶	(5.7)	7.75		070	鉄線・白土・青 緑線・透明線	外:縦線・風景		関西系	漆木へ明治出 手	反転還元
SK24	592	陶器・土瓶?	(5.2)		6.4	070	鉄線・白土・ 青緑線・透明線 透明線	外:風景		関西系		反転還元
SK24	593	陶器・土瓶	09.25	7.00	(7.1)	070	鉄線・透明線	外:縦線・竹		関西系		注口基部の孔は2つ 内孔が 細線
SK24	594	陶器・土瓶	(12.5)	04.0	(11.9)	070	白土・鉄線・ 透明線	外:草花文?		関西系	19C代	注口基部の孔は3つ
SK24	595	陶器・瓶	09.25		6.8	070	鉄線・白土?	外:白土?の流し掛け			小石原産	反転還元 器型が異い
SK24	596	陶器・瓶	(4.3)			070	鉄線・透明線	外:鉄線の流し掛け				反転還元 器型が異い
SK24	597	陶器・瓶	(14.3)		6.6	070	鉄線?・緑線・ 透明線	外:雲文・草花文				平直部には購入方角 器型が異い、購入有り
SK24	598	陶器・瓶	(13.0)	02.0		070	鉄線	外:縦線・吹雪?				反転還元 器型が異い
SK24	599	陶器・徳利	(22.0)	体高径 (15.2)		070	鉄線・灰線					反転還元
SK24	600	陶器・瓶	06.40		5.6	070	鉄線?			あいつ		反転還元
SK24	601	陶器・燗瓶	27.4	4.2	17.8	070	鉄線・灰線・ 透明線				最近に造 の印判	
SK24	602	陶器・器種不 明	(7.6)	6.00		070	鉄線					反転還元
SK24	603	陶器・灯明受 付皿	1.0	6.5	2.5	070	透明線					購入有り
SK24	604	陶器・灯明皿	2.0	06.0	(5.4)	070	透明線			見込に目録		反転還元・購入有り 入り付着
SK24	605	陶器・火入れ?	3.0	6.3	6.2	070	透明線					口縁は鉄線彫
SK24	606	陶器・火入れ?	4.5	06.0	(5.6)	070	透明線					
SK24	607	陶器・皿	1.3	6.8	2.6	070	透明線					反転還元・購入有り 入り付着
SK24	608	陶器・四耳壺	(3.3)			070	鉄線	外:取り巻いた耳を器型に貼 付				反転還元
SK24	609	陶器・壺?	(5.5)			070	色線?	外:凸部・腰線が刺突文				内面に無目録有り 輪作は鉄線・朱色 口縁は朱色方に鉄線印
SK24	610	陶器・壺	(5.4)			070	鉄線・透明線	外:?				反転還元 内外面に「ヘラツクスリ」ハナ
SK24	611	瓦質土器・鉢	不明	(33.2)	(22.1)	070					→?目	反転還元 内外面に「ヘラツクスリ」ハナ
SK24	612	瓦質土器・火鉢	(5.8)			070		外:刺突文?・沈線				
SK24	613	瓦質土器・火鉢	06.25			070		外:松竹梅・鳥甲文(型押)				
SK24	614	瓦質土器・火鉢	06.1	04.0		070		外:点 内:沈線				反転還元
SK24	615	瓦器・器種不 明	06.7			070	輪作付	外:彫文(印判)				平直方型?
SK24	616	瓦器・火鉢?	(4.2)			070						
SK24	617	瓦質土器・火鉢	14.1			070	輪作付?					平直方型
SK24	618	瓦器・器種不 明	06.4		(18.0)	070						反転還元 穴縁に、磨合付き
SK24	619	瓦器・壺	(5.3)	(22.0)		070						反転還元 内外面に「ナガ 内外面に「磨合付き 内外面に「ヘラツクスリ」ハナ
SK24	620	瓦器・壺?	06.75		(21.0)	070						反転還元 器型上位に「穴孔7つ有り
SK24	621	瓦器・燗炉	09.1	(19.0)		070				在備		
SK24	622	瓦質土器・器 種不明	(12.5)			070?					印判印文	
SK24	623	土師質土器・ 急須	06.5	7.0		不明				関西系		反転還元 内外面に土線状の布目痕
SK24	624	土師質土器・ 急須	(4.5)			不明		外:(ひらぬま)→(うぶま)		関西系		器型の成形は器型大
SK24	625	土師質土器・ 急須	(4.1)	6.0		輪作付				関西系		反転還元・布目痕 注口基部の孔は3つ
SK24	626	土師質土器・ 急須	5.8	(5.7)	(5.3)	輪作付				関西系		反転還元・布目痕 注口基部の孔は2 個・手付面に「器種」の刻印
SK24	627	土師質土器・ 壺	1.8	05.0		不明				関西系		細口へ「磨合付き」 兼目録有り
SK24	628	土師質土器・ 燗炉	14.8	15.2	13.2	070		外:籠? (印判)・沈線				外面に「博多朝三良」の刻印
SK24	629	土師質土器・ 燗炉	(9.0)	(5.6)		070						反転還元
SK24	630	土師質土器・ 火酒し壺	(11.0)	(14.2)		070						反転還元
SK24	631	土師質土器・ こね鉢	9.8	(34.0)	14.0	070		外:波状の溝		真柱		反転還元 器型→ツクスリ、内面に 口縁に朱色
SK24	632	土師質土器・ こね鉢	(11.0)	(36.0)	(17.0)	070		外:扁平な壺		真柱		反転還元 外面→ツクスリ、内面に 口縁に朱色
SK24	633	土師質土器・ 燗壺	06.0	(30.0)		070				関西系	18C前半?	反転還元 口縁の鉄手に鉄孔有り

SK24	634	土師質土器・蓋?	1.5		7.6	型打?							反転底元 後縁部の蓋?
SK24	635	土師質土器・蓋?	1.4	9.8		型打			高切				反転底元 前面に北縁
SK24	636	土師質土器・器種不明	0.41			?							取手跡?
SK24	637	土師器・皿	1.1	0.30	0.00	型打			高切				反転底元
SK24	638	土師器・皿	1.2	0.40	0.60	型打			高切				反転底元
SK24	639	土師器・皿	0.9	6.4	3.2	型打			高切				反転底元
SK24	640	土師器・皿	1.0	7.4	3.6	型打			高切				反転底元
SK24	641	石製品・硯	長さ 13.3	幅 4.3	厚さ 1.1								石材・不明 長さ27cm
SK24	642	陶製品・人形 (人物と犬?)	0.51			型打							内面に船目痕
SK25	643	磁器・碗	5.2	0.4	0.71	型打	輪付・透明釉	外:二重線目 内:一重線目 見込:花文		高切	肥前	1700~1750年 代	反転底元
SK25	644	磁器・碗				型打	輪付・透明釉	外:折杖文・菊輪草花文		高切			
SK25	645	磁器・碗	4.1	0.20	0.91	型打	色絵・透明釉	外:草花文・鳥					
SK25	646	陶器・碗	14.51			型打	色絵・透明釉	外:正文					貫入有り
SK25	647	陶器・鉢	0.40		0.00	型打	白土・透明釉	外:?					反転底元
SK25	648	土師質土器・壺	11.90			型打							
SK25	649	陶器・楕鉢	11.51			型打	鉄釉						
SK25	650	陶器・壺 土師質土器・ こた鉢	0.40	0.75	14.21	型打	鉄釉			高切	肥前系	19C代	
SK25	651	土師質土器・ こた鉢	0.60			型打		外:波状の突帯			高切		外縁→ラクスリ、内面ミギキ
SK25	652	土師器・皿	1.4	0.75	0.60	型打				高切			反転底元
SK25	653	鉄製品・錠	長さ 7.9	幅 4.6									長さ約4cm
SK26	654	磁器・碗	4.8	9.8	3.2	型打	輪付・透明釉	外:風景(山水)・折杖松葉					19C後半?
SK26	655	磁器・碗	3.6	0.4	0.63	型打	輪付・透明釉	外:龍脚・輪文 内:龍脚・輪文 見込:玉杵文			肥前	1700~1810年 代	反転底元
SK26	656	磁器・碗	14.41	0.10		型打	輪付・透明釉	外:雲 内:龍脚					反転底元 貫入有り
SK26	657	磁器・碗	0.40		1.31	型打	輪付・透明釉	外:? 見込:草花文			肥前	1770~1780年 代	反転底元
SK26	658	磁器・蓋	12.71	0.20		型打	輪付・透明釉	外:丸文筋目					
SK26	659	磁器・紅皿	1.2	4.6	1.4	型打	白磁	外:輪文?					反転底元
SK26	660	陶器・碗	3.6	0.20	3.7	型打	輪付・透明釉	外:龍脚・丸文 内:龍脚 見込:?			肥前	19C後半	
SK26	661	陶器・碗	3.8	0.40	4.3	型打	白土・透明釉	外:線付 内:線付					土師・高砂 系
SK26	662	陶器・碗	6.1	0.20	14.01	型打	白土・鉄釉・ 透明釉						反転底元 貫入有り
SK26	663	陶器・皿	3.2			型打	鉄釉?						見込→黒台磁器に砂目跡
SK26	664	陶器・壺	0.71	0.70		型打	鉄釉→ワケ鉄釉						反転底元
SK26	665	陶器・瓶	0.71			型打	透明釉						高台に捺り有り
SK26	666	陶器・器種不明	0.51		0.41	型打?		外:?					反転底元 粘土が黒色
SK26	667	陶器・茶壺	0.71	0.20		鉄釉?							反転底元
SK26	668	瓦質土器・火鉢	0.71		0.00	型打		外:形→河内系、六角印					反転底元 内面コナク
SK26	669	土師器・皿	1.0	6.6	3.2	型打				高切			
SK26	670	土師質土器・ 楕鉢	8.5										外縁→ラクスリ、内面ミギキ スリ付
SK26	671	石製品・砥石	長さ 19.1	幅 8.3	厚さ 0.80								石材・鹿野(天守石) 長さ9.4cm
SK26	672	銅鏡・寛永通寶	径 2.3	厚さ 0.15									長さ2.4cm
SK27	673	磁器・碗	0.20		3.6	型打	輪付・透明釉	外:風景(山水)・折杖松葉					19C後半?
SK27	674	磁器・碗	14.01	0.20		型打	輪付・透明釉	外:龍脚・草花					反転底元 貫入有り
SK27	675	磁器・小杯	14.21	0.40		型打	輪付・透明釉	外:草文・唐草文・唐草文 見込:?			肥前	1820~1860年 代?	反転底元 器底
SK27	676	磁器・小杯	3.3	0.70	3.9	型打	白磁						反転底元
SK27	677	磁器・皿	0.60		8.1	型打	輪付・透明釉	外:龍脚・唐草文 内:? 見込:玉杵文			肥前	1780~1790年 代?	反転底元 肥前目録製鏡台
SK27	678	磁器・蓋	3.0	0.20	つぎみ (4.1)	型打	輪付・透明釉	外:龍脚・草花文 内:四方唐文 見込:丸文			肥前	19C後半?	反転底元 貫入有り
SK27	679	磁器・蓋	11.51	0.20		型打	輪付・透明釉	外:龍脚・草花文					反転底元
SK27	680	磁器・油壺?	0.40			型打	色絵・透明釉	外:?					反転底元
SK27	681	磁器?・器種 不明	0.60			?	ワケ鉄釉						取手跡?
SK27	682	陶器・碗	6.4	0.75	0.60	型打	透明釉						反転底元 貫入有り
SK27	683	陶器・碗	5.4	9.8	3.6	型打	透明釉						反転底元 貫入有り
SK27	684	陶器・器種不明	0.20			?	鉄釉	外:唐草文(型打)					
SK27	685	陶器・灯明受 付皿	11.61	0.00		型打							反転底元 白縁部にスリ付
SK27	686	陶器・楕鉢	0.51			型打	鉄釉						
SK27	687	土師器・皿	1.4	6.5	3.6	型打							→996
SK27	688	土師器・皿	1.5	8.6	3.8	型打				高切			
SK27	689	土師器・皿	1.4	8.4	3.7	型打				高切			



SK27	690	土師器・皿	1.4	7.5	5.6	0770				高切					
SK27	691	土師器・皿	1.3	7.9	5.7	0770				高切		白線部にスス付着			
SK27	692	石製品・砥石	長さ (11.7)	幅 (9.3)	厚さ (8.8)							石材 虎斑(穴穿有?) 重さ13.5g			
SK27	693	銅鏡・寛永通寶	径 5.4	厚さ 0.15								裏面に「文」 重さ2.7g			
SK28	695	磁器・碗	(1.7)		4.3	0770	染付・透明釉	外・ヤ 見込・草文・龍繪				裏面に砂目跡			
SK28	696	磁器・碗	(3.7)	(10.2)		0770	染付・透明釉	外・梅繪				反転産元			
SK28	697	磁器・小杯	(4.5)	(7.2)		0770	白釉					反転産元 (びんごふし手?)			
SK28	698	磁器・蓋	1.9	7.7		0770	染付・透明釉	外・蘭文?				反転産元			
SK28	699	陶器・碗	(2.7)		3.6	0770	白釉・透明釉	外・草文?				貫入有?			
SK28	700	陶器・碗	5.3	10.2	13.0	0770	透明釉					反転産元			
SK28	701	陶器・器種不明	(3.2)		4.9	0770	鉄釉				ヘラケツ	反転産元			
SK28	702	土師質土器・焙烙	(4.8)			0770									
SK28	703	土師質土器・こね鉢	16.4			0770		外・面状の亀甲			高村	外蓋ヘラケツ?内蓋ヘラケツ?			
SK28	704	土師質土器・こね鉢	(3.6)			0770						内蓋ヘラケツ?外蓋ヘラケツ? ヘラケツ?			
SK28	705	土師質土器・こね鉢	(2.8)		(13.8)	0770					高橋ヘラケツ?	反転産元 内蓋ヘラケツ?外蓋ヘラケツ?			
SK28	706	土師質土器・蓋	(10.3)	(13.8)		0770						反転産元 内外面にもヘラケツ?			
SK28	707	土師器・皿	2.7	11.10	12.7	0770				高切		反転産元			
SK28	708	土師器・皿	1.5	10.20	10.6	0770				高切		反転産元			
SK29上層	709	磁器・碗	5.9	10.2	4.0	0770	染付・透明釉	外・龍・草文				反転産元			
SK29上層	710	磁器・碗	5.1	10.2	4.2	0770	染付・透明釉	外・龍文・和竹繪?				反転産元			
SK29上層	711	磁器・猪口?	(2.5)		(6.1)	0770	染付・透明釉	内・ヤ 見込・草文			高尾	肥前 1800~17400 代	反転産元 貫入有?		
SK29上層	712	陶器・碗	6.7	10.4	14.0	0770	白土・透明釉	外・龍文 内・龍文目				肥前 1800~17400 代	反転産元 貫入有?		
SK29上層	713	陶器・碗	5.4	9.4	4.0	0770	鉄釉・透明釉	外・?				見込に目跡 まつ?	反転産元		
SK29上層	714	陶器・皿	(3.6)	(9.6)		0770	白土・鉄釉・ 透明釉	内・面状文(刷毛目)			肥前	1800~17400 代	反転産元		
SK29上層	715	陶器・徳利	(13.6)			0770	鉄釉・ワラ灰	内・裏し跡付(ワラ灰)				高尾高?	1800前?	反転産元	
SK29上層	716	磁器・器種不明	(2.8)		(5.6)	0770	染付・透明釉	外・龍繪・?				肥前	1800前?	反転産元	
SK29中層	717	磁器・碗	5.1	10.2	4.5	0770	染付・透明釉	外・五文(草文文?)					反転産元		
SK29中層	718	磁器・小杯	3.9	10.1	(3.2)	0770	色釉・透明釉	外・草文? (鳥・梅繪・縁 内?) 内・草				肥前	1710~17400 代?	反転産元	
SK29中層	719	磁器・水筒	(3.7)	幅 (4.3)	厚さ 2.1	型打	染付・透明釉	外・鳥・水(型打・染付)							
SK29中層	720	土師器・皿	1.4	9.2	7.8	0770					ヘラケツ?				
SK29中層	721	陶器・楕鉢	17.6	10.2	17.7	0770						肥前	1600~17400 代	貫入に溝状の付着物有?	
SK29中層	722	土師質土器・焙烙	(7.5)			0770							外蓋面磨不明、内蓋面?		
SK29中層	723	土師質土器・壺	(10.2)	(14.4)		不明		外・面繪					反転産元 内蓋は青海澄?タタキの みず		
SK29中層	724	銅製品・煙管	長さ (4.7)										重さ5.5g		
SK29下層	725	磁器・皿	4.0	13.2	7.7	0770	染付・透明釉	外・草花文 内・草花文				肥前	1600~17400 代?	白線部?フタに輪状	
SK29下層	726	磁器・蓋	(1.2)			0770	染付・透明釉	外・草花文・蘭日文					反転産元		
SK29下層	727	磁器・紅皿	1.5	(4.3)	(1.8)	型打	白釉	外・龍文?					反転産元		
SK29下層	728	陶器・片口	10.7	20.6	9.0	0770	白土・鉄釉	外・面状文(刷毛目) 内・裏文(刷毛目)				肥前	1600~17400 代	反転産元	
SK29下層	729	陶器・鉢	9.4	20.5	12.0	0770	白土・透明釉	内・龍繪・面状文(刷毛目)				見込に目跡	高尾 1800前?	反転産元	
SK29下層	730	土師質土器・片口	16.7	10.2		0770						高村	1800前?	反転産元 外蓋ヘラケツ?内蓋にガ ス付着	
SK30	731	磁器・皿	(2.4)		7.4	0770	染付・透明釉	内・ヤ 見込・鳥・雲							
SK30	732	土師器・皿	1.7	(10.8)	(8.4)	0770					高切?		反転産元・スス付着		
SK32	733	陶器・碗	(2.6)		4.7	0770	鉄釉								
SK32	734	陶器・火入れ?	16.1	(11.2)		0770	鉄釉?						反転産元		
SK32	735	陶器・鉢	7.0			0770	鉄釉?								
SK32	736	陶器・楕鉢	(4.8)			0770	鉄釉						肥前	1600~16500 代	
SK31	737	磁器・酒飲み	7.2	(7.2)	(4.5)	0770	染付・透明釉	外・龍繪・草花文・龍文 内・龍文型文	型取産?			肥前?	1900前?	反転産元	
SK31	738	土師質土器・焙烙	9.5	31.4		0770							面滑	白線部に網状の(びんご)貫入 内外面にも、ナゲツ スス付着	
SK33	739	磁器・小杯	3.5	7.4	3.8	0770	白釉								
SK33	740	土師器・坏	2.6	(11.4)	(8.0)	0770					高切?高尾		反転産元		
SK34	741	磁器・碗	4.9	10.2	4.3	0770	染付・透明釉	外・草花文					肥前	1800前?	反転産元
SK34	742	磁器・碗	(1.7)		(5.8)	0770	青釉	見込・花文?					中国(龍 雲)	反転産元	
SK34	743	磁器・碗	(4.0)	(9.3)		0770	染付・透明釉	外・瓦文・?				高尾	1800前?	反転産元	
SK34	744	磁器・猪口	4.5	(7.4)	3.9	0770	染付・透明釉	内・ヤ				肥前	1800前?	反転産元	
SK34	745	磁器・双耳瓶	(4.2)			0770	青釉							反転産元 蓋は半磨状生塗有?	

SK34	746	磁器・皿	4.0	13.8	7.5	0770	染付・透明釉	外・磁器・唐草文 内・青花文 見込:玉春巻		「大明年 製」?	肥前	18C代	反転産元
SK34	747	陶器・灯明受け 皿	2.9	01.25		0770							反転産元 メタ付巻
SK34	748	土師質土器・ 壺	08.0		16.0	手沢10					後継品		内外蓋付、ハコ・ナブ
SK34	749	土師器・皿	1.4	8.3	3.7	0770				高砂			口縁部にメタ付巻
SK34	750	土師器・皿	1.5	7.2	3.4	0770				高砂			
SK34	751	土師器・皿	1.3	6.8	3.0	0770				高砂			
SK34	752	土製品・人形 (大黒天)	6.2	幅 2.8		型打							底面に穿孔有り
SK35	753	磁器・碗	03.0		4.2	0770	染付・透明釉	外・磁器・? 見込:コウロコ					反転産元
SK35	754	磁器・小杯	4.8	7.9	03.0	0770	鉄線?	外・磁器・平巻人物・鹿? □ 風巻			徳島藩		反転産元
SK36	757	磁器・碗	02.0		03.7	0770	染付・透明釉	外: ?					反転産元
SK36	758	磁器・湯飲み	03.0	7.0		0770	鉄線?・透明釉	外: 高低・磁器の模範					反転産元
SK36	759	磁器・湯壺	04.7			0770	鉄線?・青磁						反転産元
SK36	760	陶器・皿?	03.25			0770	白土・鉄線・ 透明釉	内: 刺毛目					
SK36	761	土師質土器・ 碁碁	06.7	00.25		0770							反転産元 具蓋付、内蓋十字・ $\langle$ 凸
SK36	762	土師器・皿	1.8	10.5	7.8	0770				高砂			全面にメタ付巻
SK36	763	土師器・皿	1.7	10.5	7.0	0770				高砂			
SK37	764	磁器・?・碗	06.0		03.0	0770	染付・透明釉	外・磁器・青花					反転産元
SK37	765	磁器・猪口	02.1		3.1	0770	染付・透明釉	外・磁器・?					
SK37	766	土師器・皿	1.6	10.1	7.6	0770				高砂			
SK37	767	土師器・皿	2.2	12.0	8.0	0770				高砂			口縁部にメタ付巻
SK37	768	土師器・皿	2.1	10.2	5.9	0770				高砂			口縁部にメタ付巻
SK37	769	土師器・皿	2.4	11.0	7.6	0770				高砂			
SK38	770	磁器・瓶?	03.5		03.0	0770	青磁						反転産元 高台内側に鉄目録
SK38	771	陶器・碗	03.0			0770	鉄線						文目録
SK38	772	陶器・皿	04.7			0770	鉄線・染付	内: ?			肥前	1610~1650年 代	
SK38	773	陶器・徳利	01.75		9.4	無蓋上げ	鉄線?	外: ?					反転産元
SK38	774	陶器・徳利	02.9		08.0	0770							一部反転産元 部巻・ $\langle$ 凸
SK38	775	土師器・皿	3.6	10.6	7.5	0770				高砂			口縁部にメタ付巻
SK38	776	銅製品・煙管	長さ 04.7			0770							本質が残存 巻03.0g
SK39	777	土師器・高杯	04.0			0770						18C代?	
SK39	778	土製品・土埴	長さ 02.0	幅 1.4		手・5凸							巻05.2g
SK40	779	磁器・小杯	02.45		2.6	0770	染付・透明釉	外: ?					反転産元
SK40	780	銅製品・煙管	長さ 04.0			0770							巻05.2g
SK41	781	磁器・碗	04.25		04.4	0770	染付・透明釉	外・磁器・?			肥前		反転産元
SK41	782	磁器・?・碗	02.45			0770	白磁						口縁以下鉄線
SK41	783	陶器・皿	02.0			0770	鉄線・透明釉						
SK41	784	陶器・徳利?	03.0			0770	鉄線						
SK42	785	磁器・皿	02.75		5.4	0770	染付・透明釉	見込: ?					反転産元 高台内側に鉄目録 貫入有り
SK42	786	陶器・碗	02.75		5.0	0770	透明釉						高台内側に鉄目録 貫入有り
SK42	787	土師器・皿	1.9	9.2	7.0	0770				高砂			反転産元
SK42	788	土製品・人形 (動物)	長さ 08.25	幅 04.25	高さ 04.25	手沢10							
SK42	789	石製品・基石	長さ 2.2	厚さ 0.7									男 巻04.6g
SK42	790	銅銭・種別不 明	径 2.1	厚さ 0.85									巻01.9g
SK43	791	土師器・小杯	1.5	9.4	7.0	0770							
SK43	792	鉄製品・釘	長さ 7.2										巻07.7g
SK45	793	磁器・皿	3.2	03.0	03.0	0770	染付・透明釉	内: 染付(型打) 見込: 青花			肥前	1610~1630年 代	反転産元 高台内側に鉄目録 貫入有り
SK45	794	磁器・皿	3.9			型打	染付・透明釉	内~見込: 唐草文					高皿、高台に内蓋 貫入有り
SK45	795	磁器・皿	1.9			0770	海緑釉	見込: 雲? (型打)			肥前	1650~1740年 代	反転産元
SK45	796	磁器・猪口	03.25		03.0	0770	白磁						
SK45	797	磁器・瓶	03.0		6.5	0770	染付・透明釉	外: 青花					反転産元 高台内側に鉄目録
SK45	798	磁器・鉢?	01.25			0770	青磁・鉄線	内: ? (ハ・湾形)					底面に輪状に鉄線
SK45	799	陶器・碗	3.8			0770	海緑釉・ 透明釉	外: 唐草文			肥前	1680~1780年 代	貫入有り
SK45	800	陶器・碗	02.0		03.0	0770	透明釉						反転産元 貫入有り
SK45	801	陶器・鉢	05.25			0770		内: 刺毛目・ $\langle$ 凸・鉄?			肥前	1680~1780年 代	反転産元
SK45	802	陶器・種鉢	05.1			0770	鉄線・鉄線						口縁外側に塗色の内蓋
SK45	803	陶器・壺	03.75			0770	海緑?						
SK45	804	土師器・壺	08.0	8.30		0770?							反転産元 内面に刺毛目
SK45	805	土製品・円板	1.2	2.9									瓦質土器土師器
SK46	806	磁器・小杯	4.5	6.2	03.25	0770	染付・透明釉	外: 虹雲・ $\langle$ 凸・ $\langle$ 凸			肥前	18C後半	反転産元
SK46	807	陶器・土瓶	012.0	0.75	06.3	0770	ハコ底蓋?・ 透明釉	外: ?					反転産元
SK46	808	陶器・土瓶?	02.5			0770	鉄線						口縁蓋裏面に $\langle$ 凸
SK46	809	陶器・蓋?	0.4	15.3	幅 4.2	0770	鉄線	外: 刺毛目					



SK51	866	磁器・仏彫器	(3.0)		3.5	0770	白磁						
SK51	867	磁器・瓶	(3.1)		(3.7)	0770	白磁						反転度元
SK51	868	磁器・瓶	(4.3)		(3.8)	0770	染付・透明釉	外: 藍線・墨本文?		肥前	1780~1800年 代		反転度元 高台内側に砂目跡
SK51	869	磁器・壺?	(4.3)	07.0		0770	染付・透明釉	外: 藍線・漆繪・青文	白磁				反転度元
SK51	870	陶器・碗	(4.2)		4.7	0770	透明釉						反転度元 貫入痕の
SK51	871	陶器・碗	(3.2)		(4.7)	0770	白土・透明釉	内: 刺毛目 内: 刺毛目					反転度元 高台の内側に砂目跡
SK51	872	陶器・碗	5.2	09.3	3.3	0770	鉄釉・透明釉	外: 藍線?					反転度元
SK51	873	陶器・碗	(4.5)	(0.4)		0770	透明釉	透明釉?					反転度元
SK51	874	陶器・楕鉢	(0.8)		16.0	0770	鉄釉						反転度元
SK51	875	陶器・皿	(1.1)			0770	型打	透明釉	見込: ? (型打)		→920		八雲型?
SK51	876	陶器・器種不明	(1.8)			0770	型打?	二部・透明釉	外: ? (型打)				二部陶器
SK51	877	陶器・火鉢?	(0.4)			0770	鉄釉?	鉄釉?・ウツ 鉄?・透明釉					
SK51	878	瓦質土器・火鉢?	(0.3)			0770			外: 刺突文				
SK51	879	陶製品・人形 (魚袋?)	長5 (4.1)	幅 0.3		0770	型打	鉄釉?					
SD3	880	土師器・土師器・鉢?	(4.2)			0770							
SD4	881	土師器・皿	2.1			0770				赤切0			
SD4	882	土師器・皿	3.6			0770				赤切0			内面に欠付痕
SD5	883	磁器・碗	(3.2)	(2.0)		0770	染付・透明釉	外: 草花文・藍線 内: 藍線					反転度元
SD5	884	磁器・碗	(2.9)			0770	青磁						
SD5	885	磁器・皿?	(0.7)	4.6		0770	染付・透明釉	外: 藍線 見込: 草文					
SD5	886	陶器・碗?	(2.3)			0770	透明釉	透明釉	見込: ?				
SD5	887	陶器・碗	(3.3)	(4.0)		0770	型打	透明釉					反転度元
SD5	888	陶器・皿	(2.5)	(2.4)		0770	染付?	透明釉	外: 藍線 内: 藍線?				反転度元
SD5	889	陶器・楕鉢	(10.0)			0770							
SD5	890	陶器・楕鉢	(8.1)			0770							
SD5	891	陶器・徳利	(13.2)	体高径 (4.3)	2.8	0770							反転度元
SD5	892	陶器・壺	(3.9)	(4.0)		0770	鉄釉?						反転度元
SD5	893	陶器・徳利?	(3.8)			0770							
SD5	894	瓦質土器・楕鉢	(3.5)		(10.0)	0770							反転度元
SD5	895	土師器・皿	1.9	(0.4)	(2.0)	0770				赤切0			
SD5	896	土師器・鉢?	(3.2)			0770							
SD5	897	土師器・器種不明	(7.4)		9.5	0770							跡状
SD5	898	埴壇	(3.0)	07.4		不明							反転度元
SD5	899	漆器・皿	5.6	(11.0)	(4.0)								反転度元 色調: 暗茶褐色
SD5	900	木製品・櫛	長5 (3.3)	幅 0.6	厚さ 0.6								跡様不明
SD5	901	木製品・不明	長5 (36.5)	幅 9.1	厚さ 0.9								短柱 跡様 七ノ?
SD5	902	石製品・基石	長径 1.9	幅 0.4									基石 長さ2.4g
SD5	903	金属製品・斧	長5 (8.2)	幅 1.2	厚さ 0.4			魚?					長さ16.4g
SX1	904	磁器・碗	7.0	11.0	4.8	0770	白磁						17C前半?
SX1	905	磁器・碗	(3.7)	(1.2)		0770	青磁						高台の内側に砂目跡 貫入痕
SX1	906	磁器・碗	(3.5)		(4.3)	0770	青磁						17C中葉~後半
SX1	907	磁器・小杯	(3.1)		3.4	0770	染付・透明釉						反転度元 高台の内側に砂目跡
SX1	908	磁器・鉢?	(2.5)		3.1	0770	染付・透明釉	内: ? 見込: 7月?					反転度元 高台内側に砂目跡
SX1	909	磁器・皿	2.1	(4.0)	(0.3)	0770	染付・透明釉	見込: 松?					反転度元 高台内側に砂目跡
SX1	910	磁器・皿	(4.0)			0770	染付・透明釉	内: 刺毛子 見込: 風雲					反転度元 高台の内側に砂目跡
SX1	911	磁器・皿	(11.0)			0770	染付・透明釉						
SX1	912	磁器・皿	4.7			0770	白土・透明釉						
SX1	913	磁器・仏彫器	(3.5)		(3.7)	0770	白磁						反転度元
SX1	914	陶器・碗	(3.2)	4.6		0770	染付・白土	外: 刺毛目		肥前	18C前半?		反転度元
SX1	915	陶器・碗	(4.1)	(11.0)		0770	鉄釉?・透明釉						反転度元
SX1	916	陶器・皿	2.8	(2.4)	(4.2)	0770	鉄釉?	内: 藍線					反転度元
SX1	917	陶器・皿	(2.3)		4.8	0770	鉄釉						反転度元
SX1	918	磁器・皿	(4.5)			0770	青磁		内: ?				肥前(置花 器)?
SX1	919	陶器・皿	3.7	13.7	4.9	0770	鉄釉	見込: 草文?					1680~1740年 代?
SX1	920	陶器・皿	11.5	(26.4)	(11.2)	0770	鉄釉						見込に目跡
SX1	921	陶器・鉢	(4.0)	(26.4)		0770	鉄釉?						肥前
SX1	922	陶器?・薬 壺?	(3.1)	08.0		0770	鉄釉						反転度元
SX1	923	土師器・環	2.6	10.4	6.9	0770				赤切0			
SX1	924	土師器・環	2.8	10.9	6.1	0770				赤切0			白磁器に欠付痕
SX1	925	土師器・環	1.9	(10.4)	(0.0)	0770				赤切0			反転度元
SX1	927	石製品・砥石	長5 (7.2)	幅 0.8	厚さ 0.7								石材: 扇灰岩?
SX1	928	石製品・砥石	長5 (7.2)	幅 4.6	厚さ 1.0)								石材: 扇灰岩?



包含層	985	磁器・蓋	2.1	7.8	つばみせ 3.6	0770	染付・透明釉	外: 北唐書文 内: 西方書文 見込: 松竹梅四羽		肥前	1820～1900年 代	
包含層	986	磁器・蓋	2.5	9.0	つばみせ 3.6	0770	染付・透明釉	外: 木の葉・蘭華				
包含層	987	磁器・蓋	2.3	8.2	6.8	0770	染付・透明釉	外: 龍舌の葉と実				
包含層	988	磁器・仏花 瓶?	(3.0)		2.4	0770	染付・透明釉	外: ?				反転復元
包含層	989	陶器・小坏	4.8	9.0	(3.0)	0770	透明釉					反転復元 貫入有?
包含層	990	陶器・皿?	(1.6)		2.2	0770	透明釉					反転復元 見込上裏面に砂目跡 反転復元 貫入有?
包含層	991	陶器・蓋	(1.2)	6.6	(3.0)	0770	透明釉					
包含層	992	陶器・蓋	3.0	12.6		0770	色絵・透明釉	外: 草花文				
包含層	993	陶器・皿?	(3.0)		(12.0)	0770	白土・緑釉・ 透明釉	内: ?			見込に砂目 跡	反転復元
包含層	994	陶器・鉢	(7.0)	(21.2)		0770	鉄釉?	外: 龍状雲龍				反転復元
包含層	995	陶器・鉢	(11.6)	(32.0)		0770	鉄釉?	外: 龍状雲龍				内面に青黄緑クサキ
包含層	996	瓦質土器・火 鉢	10.0									
包含層	997	土製品・器種 不明	1.5	4.5			型打					
包含層	998	木製品・椀	6.4	(11.3)	(6.4)							漆または着色顔料塗布
表採	999	磁器・碗	4.8	(9.6)	(3.8)	0770	染付・透明釉	外: 蘭華・草本文 内: 蘭華 見込: 蘭華・?		肥前	18C後半	反転復元 貫入有?
表採	1000	磁器・碗	6.0	11.8	4.0	0770	白釉					反転復元
表採	1001	磁器・碗	6.1	8.6	(4.7)	0770	染付・透明釉	外: 蘭華・植物				反転復元 貫入有?
表採	1002	磁器・小坏	(1.7)		(3.7)	0770	染付・透明釉	外: 草本文				反転復元
表採	1003	磁器・小坏	3.7	8.2	3.2	0770	青釉				見込に目跡	貫入有?
表採	1004	磁器・小坏	3.6	9.0	(4.0)	0770	染付・透明釉	外: ?				透け内面に砂目跡
表採	1005	磁器・小杯	(2.0)		(3.8)	0770	染付・青磁 釉?・透明釉	見込: 五弁花		越前?	18C代?	反転復元
表採	1006	磁器・小杯	4.3	7.4	3.2	0770	染付・透明釉	外: 蘭華・?				
表採	1007	磁器・小杯	3.7	7.23	3.7	0770	染付・透明釉	外: 蘭華・草本文		肥前(諸札 目)	1690～1770年 代	
表採	1008	磁器・小杯	2.9	6.23	2.6	0770	染付・透明釉	内: 内流風雲				薄手
表採	1009	磁器・碗	5.8	(7.7)	(3.8)	0770	染付・透明釉	外: 菊文・梅文 内: 蘭華		肥前	1770～1810年 代	反転復元 胎型
表採	1010	磁器・湯飲 み?	(7.0)		4.1	0770	染付・透明釉	外: 山歌・蘭華文?・?(型紙 透け?) 内: 蘭華文?				反転復元
表採	1011	磁器・そば猪 口	6.2	8.6	(5.2)	0770	染付・透明釉	外: 植物・蘭華				反転復元
表採	1012	磁器・皿	3.6	(2.2)	4.4	0770	青釉				見込に黒ノ 目跡跡ノ 砂目跡	反転復元
表採	1013	磁器・蓋	(2.6)	(10.6)		0770	白釉					反転復元
表採	1014	磁器・段重	4.0	(4.0)	(12.8)	0770	染付・透明釉	外: 蘭華・羽衣				反転復元
表採	1015	磁器・仏飯器	5.3	5.3	3.6	0770	白釉					反転復元
表採	1016	磁器・水筒	(1.9)				型打	染付・透明釉	外: 菊花			穿孔?
表採	1017	磁器・紅皿	10.8	(3.6)		0770	白釉					反転復元
表採	1018	磁器・香炉?	(2.9)			0770	海緑釉					反転復元
表採	1019	磁器・器種不 明	(6.2)	幅 12.4		0770?	染付・透明釉	外: 漢文・花文				胎手跡?
表採	1020	陶器・皿	2.4	(2.8)	3.9	0770	灰釉				見込に砂目 跡	1590～1650年 代
表採	1021	陶器・皿	2.5	12.6	4.5	0770	灰釉				見込に砂目 跡	見込上裏面内側に砂目跡
表採	1022	陶器・鉢	(3.7)		8.7	0770	白土・鉄釉	内: 顔毛目			見込に黒ノ 目跡跡ノ 砂目跡	反転復元
表採	1023	陶器・播鉢	(6.0)		(19.6)	0770	鉄釉					反転復元
表採	1024	陶器・鉢?	(4.2)			0770	透明釉					染付 貫入有?
表採	1025	陶器・蓋	(1.6)				型打	鉄釉	外: 草本文?(型打)			
表採	1026	磁器・蓋	(1.7)			0770	海緑釉・透明釉					
表採	1027	瓦質土器・火 鉢	(4.6)	(20.0)		0770						反転復元
表採	1028	土師器・蓋?	1.9	6.5	3.2		手?型紙					
表採	1029	土製品・人形 (灯籠)	高さ (4.4)	幅 2.3			型打					
表採	1031	銅鉄・寛永通 寶										重33.8g
表採	1032	銅鉄・寛永通 寶										重33.2g

第2表 出土瓦観察表

出土遺構	遺物番号	種別	瓦当径	周縁幅	瓦当厚	珠文数	瓦当幅	文様帯幅	頸部幅	備考
SK3	127	丸瓦								布目痕
SK3	128	軒丸瓦		2.2	1.3					
SK4	270	軒丸瓦		2.5	1.9					右三ッ巴
SK16	381	丸瓦								穿孔あり
SK16	382	軒丸瓦	(11.2)	2.7	2.0					左三ッ巴
SK16	383	軒平瓦					3.2	2.1	1.1	三葉文
SK27	694	軒棧瓦	8.7	1.7	1.7					左三ッ巴
SK35	755	軒平瓦					3.9	2.4	1.5	柏葉文
SK35	756	軒平瓦					4.5	2.9	1.3	横文
SK47	841	軒棧瓦	8.4	1.0	1.8		4.6	2.8	2.1	右三ッ巴
SX1	926	道具瓦?								
表探	1030	軒丸瓦	13.3	1.8	1.6	12				左三ッ巴

※法量の単位はcm。

## 第4章 調査のまとめ

今回の調査地は中津城下町の中でも比較的城に近く、幹線道路に面して交通の便の良い場所であることから、城下町整備の早い時期から屋敷地になっていたと考えられる。調査範囲内でも密集する土坑から江戸時代の各時代の遺物が多量に出土している。以下では出土遺物の時期と生産地、各種遺構の時期と性格、今回調査地の城下町における位置付けなどについて概観し、調査のまとめとする。

### ○出土遺物の時期と生産地

今回調査地の南面道路（県道外馬場踏矢堂線）の拡幅に伴い、1997年から1999年に広範囲の発掘調査が実施されている。この殿町地区の調査報告書で出土遺物についてまとめられているが、今回の出土遺物も全体的には同様の傾向がみられる。

17世紀代では磁器に比較して陶器の割合が高く、生産地も肥前が多い。陶器では碗(297・325)・皿(428・772・920・945・1020・1021)・鉢(327)・播鉢(736)などがあり、磁器では碗(904・905)・皿(365・793)・蓋(366)などがあり、青磁の食器が目される。

18世紀前半になると遺物の量が増加し、なかでも肥前の製品が大多数を占める。陶胎染付の碗(407・799)や現川焼の刷毛目で白土をめぐらせる碗(354)なども増える。出土量は少ないが唐津の陶器の鉢(457・729)、高取系の徳利(715)、小石原系の碗(408)やかぶの染付が特徴的な久留米の朝妻焼の碗(516)も出土している。

18世紀後半でも遺物の増加傾向は続く。日常食器としての磁器は肥前が卓越しているものの、急須や土瓶(236)・行平(245・247・248)・播鉢など関西系の陶器が目立つようになる。上野・高取系の碗(304・449・661)も少量あり、1点のみであるが肥後八代窯の陶器皿(560)がみられる。

19世紀、特に前半代は引き続き遺構の数に比例して遺物量は多い。磁器と陶器に占める肥前系と関西系の割合は、前代と比較して関西系がやや高くなる傾向にあるようだ。外面に布目圧痕を残す灰色の土師質土器の急須(237・238・255・256・623・624・625・626)も関西系でこの時期のものかと考えられる。また、瀬戸美濃の磁器碗(178・181・958)・陶器皿(564)、志野焼の陶器碗(217)、楽焼の陶器皿(563)、萩の陶器碗(963)もこの時期のものであろう。高村の土師質土器の焙烙・こね鉢・片口も相当量出土しているが、時期的にどこまで遡るのかは不明である。

これら以外に時期が不明なものでは、「萬古」の刻印がある陶器の小坏(846)、器種不明の黒色の土器(666)は産地も不明である。中国龍泉窯系の青磁碗(742)は伝世品か。土器以外では人形に土師質のものや陶質のものがあるが、これは生産地の相違を反映するものであろうか。また今回に限らず、城下町の調査では古墳時代後期から奈良時代の遺物が散見されるが、今回も高坏(777)や坏があり、山国川上流の遺跡からの流入によるものか、城下町内に当時の遺跡が存在した証拠であるか、今後の調査で注意が必要であろう。

### ○各種遺構の時期と性格

今回確認された遺構には建物跡・井戸跡・土坑・溝状遺構などがある。このなかで建物跡としたものは瓦葺き建物の柱の据え跡にともなうもので、40cm～110cm程度の大きさで、浅い土坑の床面に円礫を貼り付ける構造である。本来はその上に礎石が置かれていたはずであるが、調査時点では大型の石材は確認されなかった。こうした遺構が列をなしたり、矩形に配置されている部分が2か所で検出された。ただし、建物全体の平面的な広がり把握できなかった。

井戸跡は2基確認され、1号井戸跡が素掘り、2号井戸跡は周壁に石積みされていた。1号からは遺物の出土がなく時期は不明であるが、2号からは多量の遺物が出土し18世紀代から19世紀後半



まで比較的長期間にわたって使用されたものと考えられる。

土坑として番号を付した遺構は54基にのぼり、狭い調査区内で密集し、切り合って検出された。検出された遺構のうち24基程度が廃棄土坑と考えられる遺構で、規模は1m程度から大きいものでは長さ3mを超えるものまでである。他の用途が推定される遺構としては、9号土坑は石灰分が付着した土師質土器の大甕が設置されていたことから便槽と考えられる。10号土坑の壁面からは木材が腐食したような粘土質が検出され、方形の木棺をとまなう埋葬施設の可能性が考慮される。また、16号土坑は平面形が長さ3.70m・幅1.00mの長方形で、深さは1.72mまで掘削したが、床面に達しない特異な形状の遺構である。調査中も遺構内には床面から常に湧水する状況がみられたことから、水の利用に関係する遺構かと推定されが、「御水道」に関わる遺構とは断定できない。

溝状遺構のうち5号溝状遺構は最大幅3.07m、長さは9.00m分を検出し、深さは西側の最深度で1.16mをはかるが、調査区外の東西両方向に延長しているであろう。その規模から考えて当遺構はこの屋敷地だけではなく城下町の町割りに関わる遺構と考えられる。用排水路としての機能面では底面の標高が西端で2.49m、東端で2.76mであることから、溝内では東から西に水が流れていたと考えられる。また、屋敷地内にこれだけの大規模な構造物が設置されていたことにはやや疑問もあり、南面道路と屋敷地を区画する施設の性格を兼ねていたことも可能性として考慮する必要がある。

今回確認した各遺構を時期ごとにまとめると次のようになる。17世紀代は前半が38号土坑、後半が16号土坑と遺構数は少ない。18世紀代になると前半が8号・12号・18号・20号・25号・29号・30号・34号・45号土坑・1号不整形土坑、後半では15号・14号・21号・26号・46号土坑・3号不整形土坑と急増する。ただし、9号・50号土坑・2号不整形土坑は18世紀代を通じて使用された遺構かもしれない。19世紀代では前半が3号・4号・22号・24号・27号・47号・73号ピットと引き続き多いが、後半は31号土坑だけである。なお、1号・33号・35号土坑などは明治期以降現代までの新しい遺構である。

#### ○今回調査地の城下町における位置付け

最後に、中津城とその城下町の整備について概観する。1587(天正15)年、豊臣秀吉は九州をその支配下に繰り入れ、豊前国下毛郡など六部の領主として郡奉行であった黒田勘兵衛孝高を配した。黒田氏は天正16年中津江太郎の居城である丸山城を補修し、入城した。同年秀吉の命により九州各地に配された武將達が一斉に築城を始め、中津城はその一つであり、九州最古の近世城郭の一つである。最古の「黒田如水綱張園」には城の本丸・二の丸・三の丸とともに、「京町」・「博多町」の名称が見え、「侍屋敷或町屋」・「寺モアリ」という表記の他、「町」という文字も4カ所記載されている。1600(慶長5)年、黒田氏の福岡転封により、次に入国した細川忠興は豊前一国と豊後国国東・速見郡の領主として当初中津城を居城とした。しかし、忠興は翌年居城を小倉に移し、中津には忠利を入れた。これにともない中津城の増改築を行っていたが、1615(元和元)年の「一国一城令」を経て、1620(元和6)年忠興は忠利に家督を譲り中津城にもどった。この間城下の町割りも整備され、新博多町・古博多町・京町・米町・姫路町・豊後町・新魚町・角木町・諸町・堀川町・舟町・古魚町・桜町の14町と枝町(出町・出小屋)・侍町(武家町)の原型ができた。武家屋敷は、三の丸に家老屋敷、片端・殿町に上級武士、金屋あたりに下級武士の屋敷が置かれた。1632(寛永9)年、細川氏の熊本転封により、中津には譜代大名小笠原長次が入部し、城下町の整備がさらに進められた。1652(承応元)年には山国川の上流から取水し城下へ水を流す、九州最初の水道の整備が行われている。1663(寛文3)年の「中津城總曲輪絵図」によると、城下14町のほかに下正路町・留守居町・カコ町・弓町・中間町・持筒町・鉄砲町・鷹匠町・寺町・侍町などの地名が見え、武家町に町名がつけられている。



第64図 幕末期の中津城下町絵図

今回調査地は現在の地名では「殿町」に含まれ、上級武士に割り振られた屋敷地である。掲載した幕末期の絵図（第64図）に示された場所は現在の中津城の南側で、今回の調査地周辺である。絵図の上が北方で、中央よりやや左側で上下に延びる道路が城跡中央から南側に続く道路にあたる。また、中央よりやや上側で左右に延びる道路が山国川を渡って西側の福岡県吉富町へ続く県道外馬場錆矢堂線と一致する。今回の調査地はこの絵図の中で中央やや右上に記載がある「黒屋兵大夫」の屋敷地に相当する。4号土坑から出土した手づくねの陶器（259）は茶壺の可能性があるが、上下に分けて製作された上半の内面に「黒屋傳一郎主也」とふりがなの「クロヤテン」の墨書が記されていた。4号土坑は19世紀前半の遺構であり絵図とは时期的に若干前後するが、この陶器は文献資料に記載された「黒屋」家の存在を考古資料の面から裏付けることとなった。その他の出土遺物でも色絵の磁器が多数出土し、染付の盃洗（147）なども上質のものであり、居住者の中津藩における地位の高さをうかがわせるものである。

〔参考文献〕

- ・中津市教育委員会「中津城下町遺跡 殿町地区発掘調査報告書」中津市文化財調査報告第32集 2004.3.29
- ・九州近世陶磁学会「九州陶磁の編年 一九州近世陶磁学会10周年記念」2000.2.11

# 写 真 图 版





(1)中津城下町遺跡37次調査地全景 (北から)



(2)調査区全景(南から)



(1)調査区全景(北から)



(2)調査区北部(南東から)



(3)調査区北部(東から)



(1)調査区中央部(東から)



(2)調査区中央部(東から)



(3)調査区中央部(南東から)



(4)調査区中央部(東から)



(5)調査区南部(南東から)



(6)調査区南部(西から)





(1)調査区北端部(東から)



(2)調査区北端部(西から)



(3)2号建物跡(北東から)



(4)2号建物跡集石(東から)



(5)1号井戸跡(東から)



(6)2号井戸跡(東から)



(7)2号井戸跡(南から)





(1) 2号井戸跡出土遺物



(2) 1号土坑(南から)



(3) 2号土坑(南から)



(4) 3号・4号土坑(南西から)



(5) 3号土坑(南西から)



(6) 4号土坑(東から)



(7) 4号土坑木製品出土状況(西から)



(1) 3号土坑出土遗物 1



(2) 3号土坑出土遗物 2



(3) 3号土坑出土遗物 3



(4) 3号土坑出土遗物 4



(5) 3号土坑出土遗物 5



(6) 3号·4号土坑出土遗物



(7) 4号土坑出土遗物 1



(8) 4号土坑出土遗物 2



(1) 4号土坑出土遺物3



(2) 4号土坑出土遺物4



(3) 4号土坑出土遺物5 (4) 4号土坑出土遺物6



(5) 5号・6号土坑出土遺物



(6) 8号・9号土坑(東から)



(7) 9号土坑(南から)



(8) 10号土坑(西から)



(9) 11号・12号土坑(北西から)



(1)15号土坑(南から)



(2)16号土坑(北から)



(3)16号土坑土層



(4)17号土坑(東から)



(5)21・22号土坑(西から)



(6)18号土坑(西から)



(7)18号土坑土層



(8)24号土坑(北西から)



(9)26号・27号・28号土坑(南から)





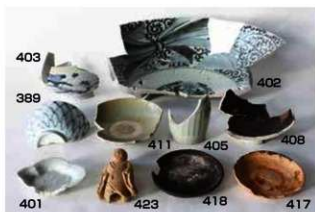
(1) 9号·12号·13号土坑出土遗物



(2) 14号·15号土坑出土遗物



(3) 16号土坑出土遗物



(4) 18号土坑出土遗物



(5) 20号·21号土坑出土遗物



(6) 21号土坑出土遗物



(7) 22号土坑出土遗物



(8) 24号土坑出土遗物 1



(1) 24号土坑出土遗物 2



(2) 24号土坑出土遗物 3



(3) 24号土坑出土遗物 4



(4) 24号土坑出土遗物 5



(5) 24号土坑出土遗物 6



(6) 25号·26号土坑出土遗物



(7) 27号土坑出土遗物



(8) 28号土坑出土遗物



(1)31号土坑(西から)



(2)32号土坑(南から)



(3)33号土坑(東から)



(4)34号土坑(東から)



(5)35号土坑(北から)



(6)37号土坑(北から)



(7)38号・39号土坑(東から)



(8)40号土坑(北から)



(1)41号土坑・1号不整形土坑(南から)



(2)43号土坑(南東から)



(3)45号土坑(北東から)



(4)45号土坑獣骨出土状況



(5)47号土坑(北から)



(6)50号土坑(南東から)



(7)51号土坑(北東から)





(1)29号土坑上层·中层·下层出土遗物



(2)29号土坑下层出土遗物



(3)29号土坑中层出土遗物



(4)32号·34号土坑出土遗物



(5)35号·36号·37号土坑出土遗物



(6)38号·41号·42号·45号土坑出土遗物



(7)46号·47号土坑出土遗物



(8)47号土坑出土遗物1



(1)47号土坑出土遺物2



(2)47号土坑出土遺物3



(3)49号・50号・51号土坑出土遺物



(4)5号溝状遺構出土遺物



(5)1号・2号・3号・4号溝状遺構(西から)



(6)1号溝状遺構(北から)



(7)1号・2号・3号・4号溝状遺構(東から)



(8)5号溝状遺構(東から)



(1) 5号溝状遺構(西から)



(2) 5号溝状遺構東端土層



(3) 5号溝状遺構西部土層



(4) 5号溝状遺構遺物出土状況



(5) 5号溝状遺構編み籠出土状況



(1) 3号不整形土坑(西から)



(2) 1号不整形土坑出土遺物



(3) 3号不整形土坑出土遺物



(4) 2号・3号不整形土坑、52号・73号ビット出土遺物



(5) 包含層出土遺物



(6) 表面採集遺物 1



(7) 表面採集遺物 2

# 報 告 書 抄 録

書 名	中津城下町遺跡 37 次 調査							
副 書 名	大分県中津市殿町における児童館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻 次								
シ リ ー ズ 名	中津市文化財調査報告							
シ リ ー ズ 番 号	第 102 集							
編 集 者 名	末永 弥義							
編 集 機 関	中津市教育委員会							
所 在 地	〒 871-8501 大分県中津市豊田町 14 番地 3 TEL : 0979-22-1111							
発 行 年 月 日	令和 3 年 3 月 31 日							
所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
中津城下町遺跡 37 次	中津市殿町1380-1	44203	101002	33° 36' 10"	131° 11' 07"	2018.1.22 ～ 2018.3.29	350㎡	児童館建設
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
中津城下町遺跡 37 次	城下町	近世・近代	建物跡 井戸 土坑 溝状遺構	2 棟 2 基 54基 5 条	土師器・土師質土器・ 瓦器・瓦質土器・磁器・ 陶器・瓦・土製品・ 木製品・石製品・鉄製品・ 銅製品・銅銭・銀貨		なし	
要 約	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上級武士の屋敷にともなう建物跡や井戸跡、多数の廃棄土坑を確認した。</li> <li>・遺物は肥前系を中心に、東海地方以西の各地の近世陶磁器を多量に出土した。</li> </ul>							

## 中津城下町遺跡 37 次調査

中津市文化財調査報告 第 102 集

発行日 2021 年 3 月 31 日

発 行 中津市教育委員会

印 刷 高橋印刷所